

高校教育改革の成果等に関する検証

「男女共学化」及び「全県一学区化」について

(答申案)

平成26年●月

県立高等学校将来構想審議会

目 次

第1章 高校教育改革の成果等に関する検証

1 検証の経緯	1
2 検証の目的	2
3 検証の内容	2
4 検証のテーマ	2

第2章 「男女共学化」及び「全県一学区化」の施策の概要

1 「男女共学化」	3
2 「全県一学区化」	6

第3章 「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する検証の実施方法

1 検証の方針	10
2 検証の対象	11
3 検証の視点	11
4 検証の進め方	12

第4章 「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する検証

1 評価指標の検討	13
2 「男女共学化」に関する現状把握	14
3 「全県一学区化」に関する現状把握	31
4 「男女共学化」及び「全県一学区化」の実施による効果の検証	41

第5章 宮城県の高校教育のさらなる充実に向けて

1 「男女共学化」について	47
2 「全県一学区化」について	48
3 高校教育の充実に向けて	49

〈 資 料 編 〉	50
-----------	----

第1章 高校教育改革の成果等に関する検証

1 検証の経緯

- 高校教育改革に関する教育委員会の各種施策や各学校の教育活動については、行政評価及び学校評価を実施し、その実施状況を把握して成果・課題の評価を行っていますが、これらの評価では制度上対象とされないもの¹があります。このため、高校教育改革の進捗状況や成果・課題を的確に把握するために、既存の評価制度を補完する新しい評価システムが必要とされています。
- また、高校教育行政は、義務教育や高等教育と比較すると国の関与が限定的であり、教育委員会の裁量と責任が大きいことから、専門的知識を持った第三者が客観性と透明性を確保しながら施策の有効性や合理性を検証することの意義は大きくなっています。
- そこで、第2期県立高等学校将来構想審議会では、県教育委員会の諮問（平成22年8月）を受けて、客観的かつ専門的な見地から高校教育改革の取組に関する成果と課題を検証することとし、「普通教育と専門教育の体制整備」、「男女共学化」及び「全県一学区化」について検証を行いました。
- このうち、「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する検証作業については、平成23年秋から着手しましたが、第2期県立高等学校将来構想審議会の任期満了となる平成24年7月末において、実証的なデータに基づき成果又は課題の抽出を行うためには、更にデータの収集・分析を進めるとともに、今後の推移を継続して見ていく必要があるとし、これまでの審議経過を「中間とりまとめ」として整理し、次期審議会へと引き継ぐこととしました。
- 第3期県立高等学校将来構想審議会では、県教育委員会の諮問（平成24年9月）を受けて、新たに「中高一貫教育」について検証作業を進めるとともに、「男女共学化」及び「全県一学区化」についても、第2期県立高等学校将来構想審議会から引き続き検証作業を進めてきました。

¹ 高校教育に関し行政評価制度が対象としている範囲は、『宮城の将来ビジョン』において重点施策に位置づけられた予算を伴う事業に限られており、男女共学化や全県一学区化などの制度変更そのものや、学校の配置・学科改編そのものは評価の対象となっていない。また、学校評価については、個々の学校の教育活動に関する課題を抽出することは可能であるものの、県立高校全体の課題については把握が困難である。

2 検証の目的

- 高校教育改革の成果等に関する検証は、高校教育改革を着実に推進し、その実効性を確保していくために、高校教育改革の各種施策・取組の進捗状況や成果・課題について、客観的かつ専門的な見地から検証し、その結果を中長期的な計画の立案に反映させることを目的として実施します。
- 併せて、検証のプロセスと結果を適時・的確に県民に情報提供し、高校教育改革に係る県民への説明責任を向上させていくことを目指します。

3 検証の内容

- 教育施策の実施状況や、施策の実施に伴う学校現場の状況を把握し、その合理性や有効性を検証するとともに、課題が明らかになった場合には、今後の対応の方向性について検討します。
- また、施策としての合理性や有効性を評価するためには、教育に関する施策や取組が学校現場においてどのように展開され、どのような成果と課題が生じているのかを的確に把握することが重要であることから、こうした現状把握の手法についても検討します。

4 検証のテーマ

- 第3期県立高等学校将来構想審議会が行っている「男女共学化」、「全県一学区化」及び「中高一貫教育」に関する検証のうち、本報告書では「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する検証について報告することとします。
- なお、県教育委員会の諮問（平成22年8月）では、高校教育改革の成果等に関する検証の対象とする施策について、「現県立高校将来構想及び新県立高校将来構想の計画期間中（平成13～32年度）に実施され、又は実施が見込まれる施策のうち、『男女共学化』など本県高校教育の制度・枠組みを変更するものであって生徒及び保護者に与える影響が大きいものや、『普通教育や専門教育の体制整備』など社会の変化や時代の要請を踏まえて、その方向性を常に点検していく必要があるもの」とされており、第2期県立高等学校将来構想審議会では、この諮問理由を踏まえて、「普通教育と専門教育の体制整備」（平成23年9月答申）のほか、「男女共学化」及び「全県一学区化」について検証することとしました。

第2章 「男女共学化」及び「全県一学区化」の施策の概要

1 「男女共学化」

(1) 男女共学化の経緯

① 共学校の設置推進

- 宮城県では、昭和41年以降において、職業選択機会の平等を確保する観点から、専門学科を有する県立高校の共学化を進めてきました。また、昭和48年度以降に新設した県立高校（16校）は、全て共学校としています。

② 県立高校将来構想有識者会議における検討

- 中長期的な県立高校の在り方を検討するために県教育委員会が設置した県立高校将来構想有識者会議では、平成12年2月から8月にかけて今後の中長期的な県立高校の在り方について検討し、共学化については、学校の小規模化による再編校以外の高校も含め、全ての別学校を共学化すべきとの検討結果を県教育委員会に報告しました。

（理由）

- ・ 各学区内では誰もが希望校を受験する資格を有するべきで、男女の性によって排除されてはならない。

③ 県立高校将来構想の策定・男女共学化の決定（平成13年3月）

- 県教育委員会は、以下の3つの理由から、「校舎の改築や学科改編、再編などを機に、対象校ごとに関係者の理解を得ながら、全ての別学校の共学化」を進め、平成22年度までにすべての県立高校を男女共学化することを決定し、平成13年度から平成22年度までを計画期間とする「県立高校将来構想」の推進項目に位置づけました。

（理由）

- ・ 高校生という多感な時期に、男女が共に学び、理解し、成長し合う場を日常的に設けることが教育環境として望ましいこと。
- ・ 社会の在り方の反映である学校においては、男女が共に学ぶ方が自然であること。
- ・ 県民の負担で設置されている県立高校においては、性差による入学制限を設けることは好ましくないこと。

④ 男女共学化の実施に係る議論

- 県立高校の男女共学化については、県立高校将来構想の策定段階から多くの議論があり、年次計画決定後も、県教育委員会に対して、賛成・反対双方の立場から、請願や要望がありましたが、平成21年1月に開催された第782回宮城県教育委員会定例会では、男女共学化の凍結を求める請願への対応について協議の結果、男女共学化を予定どおり進める旨の事務局案が承認されず、次回の教育委員会で議案として審議する旨が決定されました。
- 平成21年2月に開催された第783回宮城県教育委員会臨時会においては、「共学化を進めてきた高校や、共学化に向けて準備中の高校への影響、受験準備を進めている中学生に与える影響、また、県内の市町村教育委員会の考え方、さらに、共学化関連予算の継続性などを総合的に勘案すると、現時点で共学化の年次計画を変更することは、極めて問題が多い」と判断され、共学化を予定どおり進める旨の事務局案が可決されました。
- 併せて、「男女共学化を含む高校教育改革の取組について（中略）客観的に検証を行いながら、その成果を各種施策の見直しや中長期的な計画立案に実効的に反映していくシステムを構築する」旨が決定されました。

(2) 男女共学化の実施状況

- 県立高校の共学化は、平成17年度から、①男子校と女子校が統合して共学化校へと移行する「統合共学化」、②男子校又は女子校が単独で共学化校へと移行する「単独校の共学化」、③女子校から中高一貫校へと再編される「中高一貫校への再編に伴う共学化」の3つの形態により順次進められ、平成22年度には全ての県立高校が共学化校へと移行しました。

【表1】男女共学化の実施状況

区分	統合共学化	単独校の共学化	中高一貫校への再編に伴う共学化
平成17年度	■角田・□角田女子 ■築館・□築館女子 ■気仙沼・□鼎が浦	■古川	□古川女子
平成18年度		■石巻 □石巻女子 ■石巻商業	
平成19年度		■仙台第二	
平成20年度		□第一女子	
平成21年度		■仙台第三	
平成22年度	■白石・□白石女子 ■塩釜・□塩釜女子	■仙台第一 □第三女子	□第二女子

(資料) 宮城県教育庁調べ

(凡例) ■旧男子校, □旧女子校

(3) 男女共学化に当たっての教育委員会の取組

- 男女共学化を推進するに当たって、教育委員会では、共学化に対応するための「施設の整備」と、「校歌や校旗の作成に伴う財政支援」を実施しました。
- また、共学化校を含めた各校の特色づくりに対する支援事業や、中学生・保護者に向けた高校の情報発信の取組なども実施しました。

【表2】男女共学化に当たっての教育委員会の取組と行政評価の状況

施策目的を達成するために実施した教育庁の取組	
事業の内容	行政評価(平成21年度事業)
○施設の整備 ・トイレ、更衣室、部室を整備 ・旧女子校の運動場の拡充 ・建築経過年数により、校舎改築(40年経過)、校舎等大規模改造(25年経過)を実施。	○成果指標「別学高校の数(箇所)」 ・目標値 0校 実績値 0校 ○有効性評価「成果があった」 ・平成22年4月から第二女子高を仙台二華中・高に再編。 ・平成22年4月から白石、仙台三桜、仙台第一、仙台二華、塩釜が共学化。 ○効率性評価「効率的」 ・平成22年4月からの関係校の再編統合及び共学化に向けて、校旗などを整備。
○県立高校将来構想推進事業 ・共学化に伴い校歌の作詞・作曲料、校旗のデザイン・作成費を支出。	

(資料)宮城県教育庁調べ

2 「全県一学区化」

(1) 全県一学区化の経緯

① 通学区域の拡大

- 学区制の趣旨は、高等学校への入学希望者を、各地域においてできるだけ多く収容し、地域の学校としての意義と特色を発揮させることにありました。しかしながら、高校教育の量的な普及が進むとともに、生徒の多様な学習ニーズへの対応や、学校選択の機会の確保がより重要な政策課題となってきました。
- そのような中において、県教育委員会は、生徒の学校選択の機会を拡大する方向で、通学区域の見直しを行い、昭和25年度には13学区に区分されていた通学区域は、平成13年度には5地区まで再編されました。

【図1】通学区域の変遷

昭和25年度 (学区設定)	昭和52年度 (仙台学区の南北分割)	平成13年度 (通学区域の拡大)
学区	地区 学区	地区 学区
刈田柴田	白石 刈田柴田	南部 刈田柴田
伊具	伊具	伊具
亘理名取	仙台南 亘理名取	中部南 亘理名取
仙台	仙台北 仙台北	中部北 仙台北
塩釜	塩釜	塩釜
黒川	黒川	黒川
大崎	古川 大崎	北部 大崎
遠田	遠田	
登米	登米	
栗原	栗原	東部 石巻
石巻	石巻	
飯野川	飯野川	
本吉	本吉	本吉
(13学区)	(8地区)	(5地区)
○生活圏・居住圏としての一 定の地域のまとまり、学 校数・収容人数、交通網 の実態を考慮し、通学区 域を設定	○過度な受験競争を抑制 するため、大規模化した仙 台学区を南北に分割 ○南北調整措置(仙台北 の女子は、仙台南の女子 校定員の25%まで受入) を設定	○生徒の学校選択の自由 を拡大するため、北部地 区、東部地区に拡大 ○3% ² 枠を設定
※昭和39年度から、複数の学区を「地区」にまとめ、通学可能な区域としている ※その他、隣接する学区に入学できる調整措置を設定		

(資料) 宮城県教育庁調べ²

² 「3%枠」とは、通学区域にかかわらず、他地区からの通学者について、各高校定員の3%を上限に受け入れ可能とすること。

② 法律の改正

- 平成 13 年に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が一部改正され、教育委員会が公立高校の通学区域を定めることを規定する条項が削除され、通学区域の設定については、その存廃も含め、教育委員会において判断することとなりました。

③ 高等学校入学者選抜審議会における検討

- 県教育委員会は、平成 17 年 7 月に、県立高校の通学区域（学区制）の在り方について、高等学校入学者選抜審議会に諮問しました。
- 同審議会は、「3%枠の拡大」と「通学区域の撤廃」の両論併記による中間報告を経て、平成 18 年 11 月に最終的な答申をとりまとめました。
- 答申では、「生徒の学校選択の自由を拡大し、本県の県立高校の更なる活性化と魅力ある高校づくりを願う見地から、特定の地区・学校への志願者の集中や学校間格差の助長などの懸念はあるものの、現在の通学区域については撤廃し、全県一学区とすることが望ましい」との結論を示しました。
- 併せて、通学区域の見直しを実施する場合に必要な対応として、「魅力ある学校づくりの一層の推進」と「制度見直しの十分な周知をはじめ、生徒が適切に学校選択できる環境の整備」に配慮すべきであると指摘しました。

④ 「県立高等学校通学区域見直し方針」の決定

- 県教育委員会は、上記答申を受け、平成 18 年 11 月から県立高等学校の通学区域の在り方について協議し、平成 19 年 3 月に、下記の理由により、高等学校入学者選抜審議会の答申のとおり全県一学区化とすることを決定しました。

（理由）

- ・生徒の学校選択の自由が確保され、学校の活性化が期待されるなど、通学区域の撤廃によってもたらされる効果が大きいこと。
- ・懸念事項については、地方の進学拠点校の進路実績や総合学科等の地区間志願者の動向等から考えて、その可能性が現実的には小さく、しっかりとした対策に取り組むことによって回避することが十分可能であること。

(2) 全県一学区化の実施状況

- 平成 22 年度の入学者選抜から、全県一学区としました。

(3) 全県一学区化に当たっての教育委員会の取組

- 全県一学区化を推進するに当たって、教育委員会では、高等学校入学者選抜審議会から配慮すべきと指摘のあった「魅力ある高校づくり」と「生徒が適切に学校選択できる環境の整備」に対応した取組を実施しました。

- 「魅力ある高校づくり」に対応した取組としては、各校の特色ある高校づくりに対する財政支援、仙台市以外の各地域の進路指導拠点校（平成21年度まで11校、平成22年度から10校）の学力向上に向けた取組、そして、各校の魅力づくりや学校の活性化を目指した教員の配置を実施し、また、「生徒が適切に学校選択できる環境の整備」に対応した取組としては、制度導入に関する周知活動、高校情報の発信を実施し、そして、中学校の進路指導の充実を図りました。

【表3】 全県一学区化に当たっての教育委員会の取組と行政評価の状況（その1）

「魅力ある高校づくりに向けた取組」

施策目的を達成するために実施した教育庁の取組																										
事業の内容	行政評価(平成21年度事業)																									
<p>①特色ある高校づくりに対する支援事業 (趣旨) ・「選択」「競争」「評価」「公開」を新しい学校づくりの原則とし、各学校の自主性に基づいた、独自の教育活動を支援し、特色ある学校づくりを支援する。</p> <p>(主な取組) ・県教委が指定した10のテーマ(学術研究、デュアルシステム拡充、伝統文化等)に関する学校独自の取組のうち、県教委が指定したものに財財政支援を行う。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>事業名</th> <th>指定校数(校)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H15年度</td> <td rowspan="4">学校活性化プロポーザル事業</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td rowspan="3">個性かがやく高校づくり推進事業</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>22</td> <td rowspan="2">魅力ある県立高校づくり支援事業</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table> <p>※いずれも、「特色ある学校づくり」を目的とした学校からの事業提案のうち、教育委員会が指定したものについて予算を配分する事業</p>	年度	事業名	指定校数(校)	H15年度	学校活性化プロポーザル事業	14	16	15	17	16	18	1	19	個性かがやく高校づくり推進事業	8	20	13	21	17	22	魅力ある県立高校づくり支援事業	20	23	13	<p>○成果指標「就職決定率及び現役進学達成率(%)」 ・目標値 96 / 87.0 実績値 90.9 / -</p> <p>○有効性評価「成果があった」 ・教職員からのボトムアップで特色ある学校づくりを推進できた。 ・次年度の応募校数が倍増し、各高校の教員が前向きに取り組もうとする機運が高まってきている。 ・学校が取り組むべき課題が明確となっている。</p> <p>○効率性評価「概ね効率的」 ・学校ごとに特色を生かして実施することができ、事業は概ね効率的に行われている。</p> <p>○課題 ・各高校がそれぞれ抱える課題だけでなく、教育委員会が重要と考える課題に対応した取組の支援が必要。 ・各指定校があげた成果を広く伝達し、指定校以外の学校へ普及を図る工夫が必要。</p>	
年度	事業名	指定校数(校)																								
H15年度	学校活性化プロポーザル事業	14																								
16		15																								
17		16																								
18		1																								
19	個性かがやく高校づくり推進事業	8																								
20		13																								
21		17																								
22	魅力ある県立高校づくり支援事業	20																								
23		13																								
<p>②各地域の進路指導拠点校の学力向上事業 (趣旨) ・仙台市以外の地域の進学校の学力向上と、仙台市への一極集中を防ぐ。 ・県内の各地域に進学指導拠点校を指定し、その連携・協力による進学指導を支援し、大学進学達成率の向上を図るとともに、その成果を発信することにより、地域に信頼される学校づくりを行う。</p> <p>【進路指導拠点校】 白石高校、白石女子高校※、角田高校、古川高校、古川黎明高校、築館高校、岩ヶ崎高校、佐沼高校、石巻高校、石巻好文館高校、気仙沼高校 ※白石女子高校は平成21年度まで</p> <p>(主な取組) ・家庭学習習慣を定着させるための学習習慣診断カードの作成・活用 ・指定校合同学習会 ・東北大学オープンキャンパス参加 ・授業改善研修会の開催</p>	<p>○成果指標「指定校11校の大学・短大への現役進学達成率」 ・目標値 84.0% 実績値 89.1%</p> <p>○有効性評価「成果があった」 ・平成19年3月卒業生と平成21年3月卒業生を比較すると、国公立大学合格者数、国公立大学進学達成率、東北大学合格者数を含め、大学・短大への進学率及び進学達成率すべてが向上している。</p> <p>○効率性評価「効率的」 ・各校とも計画通りに充実した取組が進んでおり、決算の状況から判断しても効率的</p> <p>○課題 ・全県一学区に伴う仙台への一極集中を防ぐためにも、地域の拠点校において引き続き充実した進学指導を行う必要がある。 ・地域からの一層の信頼を得るためには、とりわけ国公立大学への進学達成率の向上が求められる。</p>																									
<p>③人事面での取組 (趣旨) ・魅力ある学校づくりや学校の活性化のため、教員の資質向上を図るとともに、意欲のある優れた教員を適正に配置する。</p> <p>(主な取組) ・進路指導拠点校を中心に、教員の公募人事を積極的に実施 ・校種間、広域人事交流の推進</p>																										

(資料)宮城県教育庁調べ

【表 4】 全県一学区化に当たっての教育委員会の取組と行政評価の状況（その 2）

「生徒が適切に学校選択できる環境の整備に向けた取組」

施策目的を達成するために実施した教育庁の取組	
事業の内容	行政評価(平成21年度事業)
<p>①一学区制の導入について保護者・生徒・中学校への周知活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新制度説明会の開催 ・相談窓口の設置 ・リーフレットの配布 	<p>○成果指標「高校合同相談会参加者」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値 4,500人 実績値 3,700人 <p>○有効性評価「成果があった」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校の教育内容等学校の特色を掲載したガイドブックを更新し、高校教育課のHPに掲載した。 ・中学生の高校選びに役立てるために、中学生及び保護者等対象の高校合同相談会を県内6箇所で開催し、約3,700名の中学生・保護者が参加。 <p>○効率性「効率的」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校合同相談会には県内すべての公立高校が参加し、各地域で高校の特色等について説明会及び個別相談を実施した。 ・アンケートでは97パーセントの参加者から「大変参考になった」「参考になった」との回答があり、少ない事業費で効率的に実施した。
<p>②高校情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立高校ガイドブックの作成・配布 すべての県立高校について、伝統・校風、特色ある取組、教育課程、部活動、進学・就職先、通学方法、制服などの学校情報を一冊にとりまとめ、中学3年の全学級に配布する。 ・高校オープンキャンパスの開催 ・高校合同相談会の開催(中学生・保護者対象) ・出前説明会(中学校の求めに応じ、高校が出向き学校を紹介) ・メールマガジンの発行(中学校対象 平成19年度から配信) 	
<p>③中学校の進路指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県教育委員会、県立学校が発信する情報を生徒・保護者に提供 ・進学指導の強化 ・生徒自らによる進路選択を可能とする基礎的・基本的学力の定着 	

(資料)宮城県教育庁調べ

第3章 「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する検証の実施方法

1 検証の方針

(1) 根拠資料に基づいた検証

- 「男女共学化」及び「全県一学区化」は、宮城県の高次教育の制度・枠組みを変更する施策であり、生徒及び保護者に与える影響も大きいことから、生徒及び保護者の施策に対する期待や懸念に対応した検証を行うため、実証的なデータを幅広く収集して分析し、根拠資料に基づいた検証を実施することとします。

(2) 高次教育の改善につなげる検証

- 本検証の本質的な目的は、宮城県の高次教育をより良くすることであり、検証により課題が明らかになった場合には、教育委員会に対して実効性のある改善方策を提言することとしています。
- このため、特に、各学校の取組状況を的確に把握することが必要であることから、現状把握のための評価指標を設定するに当たっては、学校現場からフィードバックを受けるとします。
- また、はじめに定量データの分析を行いますが、数値だけでは測定できない部分については、ヒアリング調査やアンケート等を実施し、定性的な情報も積極的に収集して分析することとします。

(3) 説明責任の確保に向けた検証

- 平成23年9月に答申した「普通教育と専門教育の体制整備」に関する検証において、高次教育改革を着実に推進していくためには、教育に関する制度や施策の進捗状況や成果・課題を常に検証し、その結果に基づいて施策の見直しを図るとともに、中長期的な計画の立案に反映していくことが重要である旨を指摘しています。
- 継続的かつ実効的な検証システムの構築を図りPDCAサイクルを実践していくことは、教育行政の説明責任を確保していくという意味においても重要です。
- このため、「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する検証を進める中においても、継続的かつ実効的な検証システムの構築を目指すこととします。

2 検証の対象

(1) 施策のプロセス

- 「男女共学化」及び「全県一学区化」の実施に当たって、教育委員会において必要な取組が適切に実施され、施策が目指した教育活動が展開されているかといった点について、「男女共学化」及び「全県一学区化」の実施に向けた準備段階も含めた施策のプロセスを検証することとしました。

(2) 施策の実施による効果

- 「男女共学化」及び「全県一学区化」の実施によって、県立高校将来構想が目指す人づくりがなされているのかという施策の最終的な効果を評価することも重要となりますが、こうした検証は長期的な視点が必要であることに加え、数値のみにより測定することは困難であることから、「教育の質は確保されているか」といった中間的な効果の評価を行うとともに、施策のプロセスの検証を進める中で、教育施策の最終的な効果の評価の在り方を検討しました。

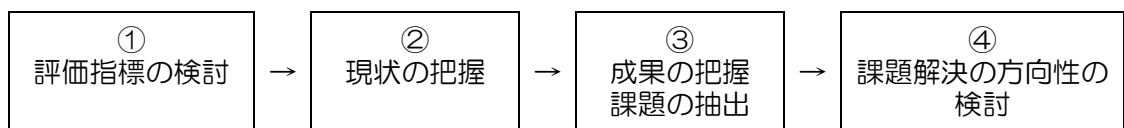
3 検証の視点

- 上記2で検証の対象とした「施策のプロセス」及び「施策の実施による効果」のそれぞれについて、以下のような視点で検証を行いました。

検証の対象	検証の視点
施策のプロセス の 検 証	①施策の当初の目的は何だったか。
	②施策の実施に向けて、教育委員会において必要な準備が行われたか。
	③施策の実施後に、教育委員会において必要な取組が行われているか。
	④上記②③の実施により、施策の当初の目的は達成されているか。教育活動において弊害は生じていないか。
施策の実施による 効果の検証	⑤教育の質は確保されているか。
	⑥県立高校将来構想が目指す人づくりがなされているか。

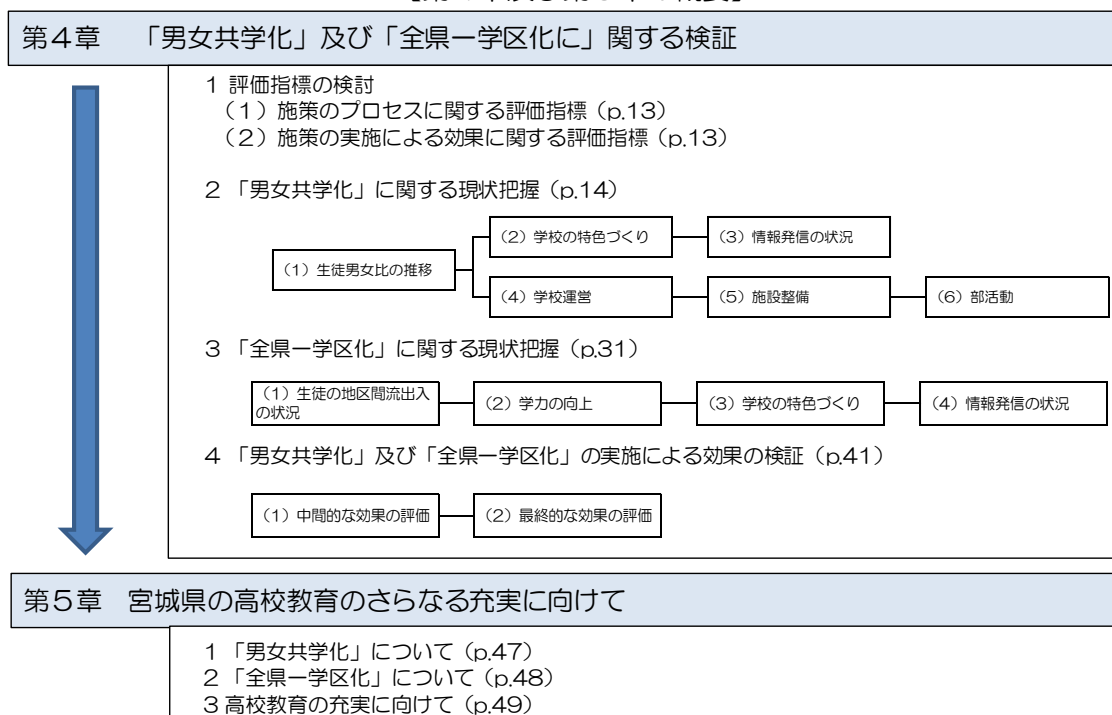
4 検証の進め方

- はじめに、「男女共学化」及び「全県一学区化」の施策目的を整理するとともに、それぞれの施策に関する教育委員会及び学校の各種の取組の実施によって期待された成果（アウトカム）を整理した上で、施策目的やアウトカムの達成状況を把握するために必要な評価指標を検討します。（①）
- 次に、施策目的とアウトカムの達成状況から現状を把握するため、定量データを分析します。定量データでは適切に検証できない場合は、適切な調査を設計・実施し、必要な定性データを収集します。（②）
- さらに、上記の現状把握に基づき、教育委員会の施策や学校の教育活動・学校経営に関する成果を把握するとともに、課題を抽出します。（③）
- そして、抽出した課題については、その解決の方向性を検討し、教育委員会への提言としてとりまとめます。（④）
- これらをまとめると、次のようなフローになります。



- 以上のフローに基づき、第4章において「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する検証を進めた結果、全体としては、当初の目的に沿った制度運営が図られており、大きな弊害や課題については生じていませんでした。
- そのため、第5章においては、今後の宮城県の高校教育のさらなる充実に向けた方向性をまとめました。

【第4章及び第5章の概要】



第4章 「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する検証

1 評価指標の検討

(1) 施策のプロセスに関する評価指標

- 施策のプロセスの検証では、施策決定段階における当初の目的を整理した上で、施策の目的や期待された成果の達成状況を把握するための評価指標を設定しました。
- この際、教育委員会において必要な取組が適切に実施されているか、学校経営や教育の質の保証の面で課題が生じていないかを的確に把握することが重要であることから、授業・部活動・学校行事をはじめとする教育活動全般にわたる評価指標を設定しました。
- 併せて、「男女共学化」及び「全県一学区化」のいずれの施策についても、既に実施されていることから、学校現場で課題が生じていれば的確に把握して速やかに改善措置を講じる必要があります。
- そこで、施策の実施に伴う課題を解決するため、各学校において自己点検と改善のシステムが機能しているか、教育委員会は各学校の課題解決に向けた取組に対して必要な支援を実施しているかについても検証することとし、そのために必要とされる評価指標も設定しました。
- このような考え方にに基づき、「男女共学化」及び「全県一学区化」のプロセスに関する検証を行うため、整理した評価指標は、資料編（1）（pp.51～52）のとおりです。

(2) 施策の実施による効果に関する評価指標

- 「県立高校将来構想が目指す人づくりがなされているか」という教育施策の最終的な効果の評価は重要ですが、こうした評価は、長期的な視点が必要であることに加え、数値のみにより測定することは困難であることから、「施策の実施によって教育の質は確保されているか」という中間的な効果を測定するための評価指標を設定し、教育施策の最終的な効果の評価指標を設定するための足がかりとしました。
- また、施策のプロセスの検証を進めるに当たっても、個々の施策や取組が「県立高校将来構想の目指す人づくりに寄与しているのか」を念頭に置いた上でデータの解釈・評価を行いました。
- このような考え方にに基づき、「男女共学化」及び「全県一学区化」の実施による効果の評価方法について検討するため、整理した評価指標は、資料編（1）（p.53）のとおりです。

2 「男女共学化」に関する現状把握

- 「男女共学化」の実施に伴う現状を把握するため、これまで、主に次のデータについて、学校のタイプ別（男子校と女子校の統合による共学化校・男子校からの共学化校・女子校からの共学化校）及び学校別に整理し、年次推移を確認するとともに、その特徴について分析しました。

【収集データ】

・1年次生徒の男女比	・生徒の学校評価	・スクールカウンセラーへの相談件数
・一般入試出願倍率	・運動施設の状況	
・男女別クラスの編成状況	・部活動及び学校行事の状況	・学校の沿革・教育方針
・教員の男女比	・生徒の問題行動等	

- また、定量データで把握しきれない部分については、平成24年12月から平成25年11月までに、男女共学化校16校と男女比に乖離がある元々の共学校2校を対象に現地調査を実施しました。現地調査に当たっては、事前にアンケートを実施し、それを基礎資料とするとともに、校長及び教員からのヒアリング等を通して定性データの収集を行いました。

【現地調査対象校】

・白石高校	・仙台第二高校	・塩釜高校	・石巻好文館高校
・角田高校	・仙台第三高校	・古川高校	・石巻商業高校
・仙台第一高校	・宮城第一高校	・古川黎明高校	・気仙沼高校
・仙台二華高校	・泉館山高校	・築館高校	
・仙台三桜高校	・宮城野高校	・石巻高校	

【主な現地調査項目】

・教育方針・教育課程	・学校運営及び教育活動の点検	・中学校への情報発信の状況
・学校の特色づくりの状況	・改善活動の実施状況	等
・生徒会活動、部活動の状況	・男女が共に学ぶ環境の状況	

- 併せて、「男女共学化」の実施に伴う中学校の現状を把握するため、平成24年11月に宮城県内全ての公立中学校207校を対象に次の調査項目についてアンケートを実施しました。

【主な中学校へのアンケート調査項目】

・生徒・保護者の進路希望動向	・生徒の学校選択のための情報提供の状況
・進路指導等の状況	・その他
・高校の特色づくりの状況	

(1) 生徒男女比の推移

① 関連するデータの状況

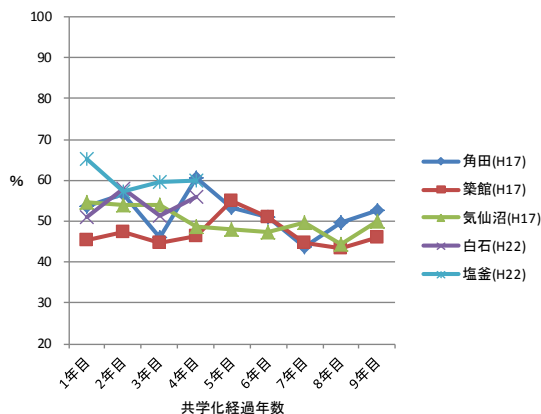
- 共学化校における生徒男女比の推移について、1年生の女子生徒の割合の年次推移から、学校のタイプ別及び地区別にその傾向を見ました。【図2】
- まず、学校のタイプ別でみて見ると、「男子校と女子校の統合による共学化校」の女子生徒の割合は、年度によって増減はあるものの4～6割の間で推移しています。
- 「男子校からの共学化校」の女子生徒の割合も、年度によって増減はあるものの、全体（平均）で見ると概ね増加傾向で推移しています。
- 一方、「女子校からの共学化校」の男子生徒の割合は、全体（平均）で見ると増加傾向にありますが、その増加幅は学校によって異なります。
- 次に、地区別の傾向をみて見ると、「中部地区（仙台南・仙台北）」の学校では、他の地区に比べ、男女比の差が開いて推移しており、「東部地区（石巻）」の2校については、男女比が年々近づき、男子生徒及び女子生徒の流動化が進んでいます。【図3】

② 成果及び課題等

- 生徒の男女比を見る限りにおいては、全体としては、共学化は緩やかに進行していると言えますが、その一方で「女子校からの共学化校」において男子生徒の数が伸び悩んでいる学校も見られました。
- こうした点について、「女子校からの共学化校」が男子に門戸を開放しているにもかかわらず男子比率が上がらないとすれば、それはその学校の特色と把握することもでき、学校の特色という中では、全ての学校で一律に男女比が同等になる必要は必ずしもないと考えられます。
- ただし、男女比等の影響により、生徒が伸び伸びと高校生活を送るのに支障が出るような場合には、男女共学化の目的の一つであった「男女が共に学び、理解し、成長し合う場を日常的に設ける」ということを達成するためにも、各学校及び教育委員会においては、個別にその要因等を分析し、対応策を講じる必要があります。
- 生徒の男女比については、学校の特色づくりと関連していることが考えられることから、以降においては、共学化後の新しい学校づくりや学校運営の状況に関するデータを確認しました。

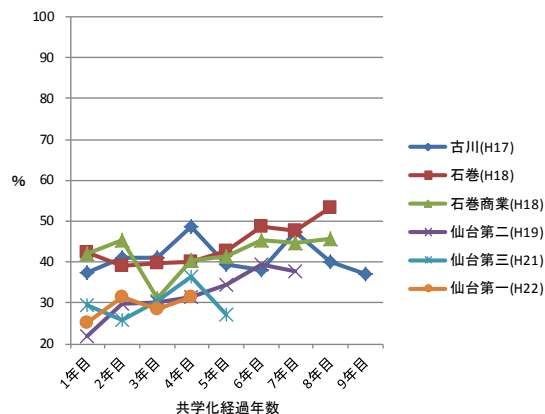
【図2】学校のタイプ別の1年生女子生徒の割合（％）

① 男子校と女子校の統合校



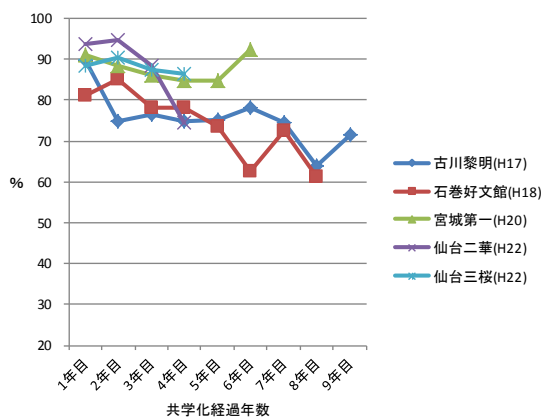
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
角田	53.8	56.5	46.0	60.4	53.3	51.0	43.9	49.7	52.8
築館	45.4	47.2	44.7	46.3	55.0	50.8	44.8	43.2	46.1
気仙沼	54.6	53.9	53.9	48.6	48.0	47.3	49.6	44.4	49.8
白石	50.9	58.0	51.2	56.1					
塩釜	65.1	57.2	59.5	60.0					
平均	50.6	50.4	50.3	50.7	50.9	49.4	46.5	45.6	49.6

② 男子校からの共学化校



	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
古川	37.3	41.1	41.1	48.5	39.4	38.0	47.3	40.2	36.9
石巻	42.3	39.2	39.7	40.1	42.7	48.8	47.8	53.5	
石巻商業	42.2	45.4	31.0	40.5	41.3	45.5	44.6	45.7	
仙台第二	21.8	29.9	30.1	31.3	34.5	39.4	37.8		
仙台第三	29.3	25.9	30.3	36.3	27.1				
仙台第一	25.2	31.6	28.3	31.5					
平均	31.7	34.3	32.9	37.2	36.1	42.5	43.7	46.4	36.9

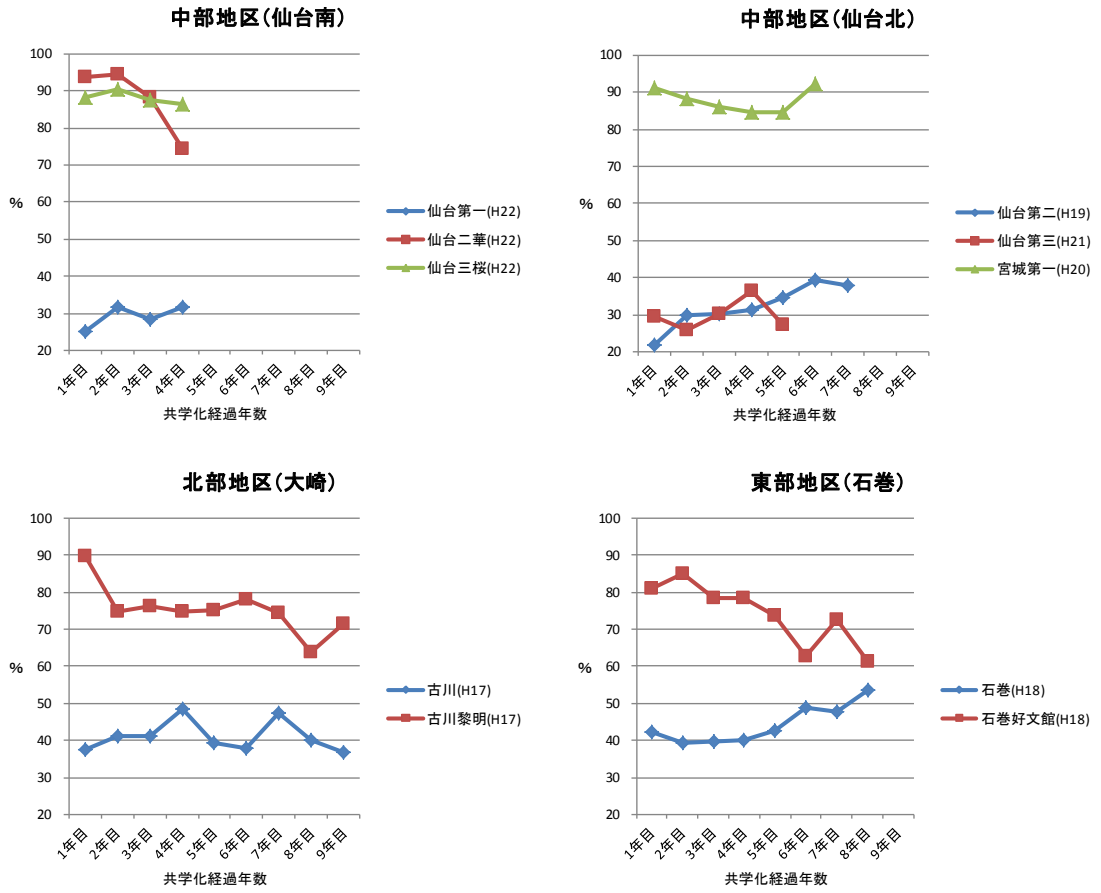
③ 女子校からの共学化校



	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
古川黎明	89.6	74.7	76.3	74.7	75.1	78.2	74.4	63.9	71.4
石巻好文館	81.1	85.0	78.3	78.3	73.5	62.6	72.5	61.2	
宮城第一	91.2	88.3	86.2	84.8	84.6	92.2			
仙台二華	93.8	94.7	88.5	74.6					
仙台三桜	88.3	90.5	87.5	86.5					
平均	89.1	86.9	83.8	80.3	78.4	79.4	73.5	62.7	71.4

(備考)()内は共学化した年度
(資料)宮城県教育庁調べ

【図3】地区別の1年生女子生徒の割合（％）



(備考) ()内は共学化した年度
 (資料) 宮城県教育庁調べ

(2) 学校の特色づくり

① 関連するデータの状況

- 現地調査では、「教科指導」、「総合的な学習の時間」、「特別活動（ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事）」、「部活動」、「部活動以外の課外活動・その他」、「地域と連携した取組」について、各学校の特色づくりに向けた取組を確認しました。各学校の特色づくりの状況については、資料編（2）（pp.54～57）のとおりです。
- 教科指導においては、「多様な選択科目、学校設定科目の開設」、「単位制」、「SSH指定校としての取組」、「中高一貫教育」、「習熟度別の少人数指導（一部教科）」などの取組が、各学校の在り方や環境等を踏まえて展開されていました。
- また、男女共学化に関連して、「新しい伝統づくり・新しい特色づくりを目指した取組が実施されているか」や、「男女共学化前の特長が共学化後も引き継がれているか」については、学校のタイプにかかわらず、多くの学校で男女共学化前からの伝統的な学校行事等が継続して行われており、男女共学化後は男子生徒又は女子生徒が参加しやすい形で取り組んでいました。また、新しい学校行事を新設する学校も見られました。【表5】
- 男女比に乖離がある元々の共学校の現地調査では、「男子生徒が少ないクラスはあるが、学校行事等においては、生徒が個性を發揮できたり、達成感を得られる場を設けており、人数が少なくても存在感を示している」との意見がありました。
- 次に、高校の特色づくりに関する中学校の評価（教員）を見ると、「高校の特色づくりは進んでいると思いますか」との質問項目では、県全体で「進んでいる」と回答する割合が54.6%と最も高くなっていますが、次いで「わからない」と回答する割合が32.9%となっています。【図4】
- 地区別では、中部（巨理名取）地区、中部（仙台南・仙台北）地区及び東部（本吉）地区では、「進んでいる」と回答する割合が他の地区に比べやや低く、中部地区の2地区では「わからない」と回答する割合が、東部（本吉）地区では、「進んでいない」と回答する割合が高くなっています。【図4】

② 成果及び課題等

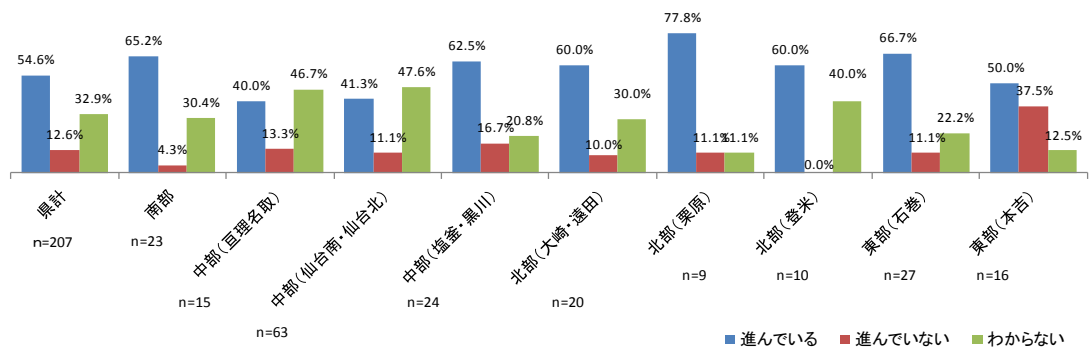
- 男女の性別にかかわらず、一人ひとりの個性や進路希望が多様化している中で、学校もそれに対応し、教科指導をはじめとしたきめ細かな指導により特色ある学校づくりを進めているほか、学校行事等においては、男女共学化前の特長を生かしつつ、新しい伝統づくりに取り組んでいると言えます。
- また、各学校においては、学校の特色づくりに当たって、それぞれの生徒が個性や能力を發揮できる場を設けるなど、生徒が伸び伸びと充実した学校生活を送れるような学校経営を一層進めていくことが重要です。
- 一方で、高校の特色づくりに関する中学校の評価としては、「わからない」又は「進んでいない」と回答する割合が高い地域も見られることから、次項において高校の情報発信の状況について確認しました。

【表 5】男女共学化に対応した高校の特色づくり等の状況

<p>男子校と女子校の統合校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・男子校時代から続いている他校との定期戦では男子校スタイルの応援練習を行っているが、統合後はソフトになった。女子生徒が応援団長を務めた年度もある。また、定期戦では男女混合種目や女子種目も生まれた。合唱祭は旧女子校の学校行事だったが、男子生徒も積極的に参加している。 ・共学化・統合化により、旧男子校のマラソン大会や旧女子校の合唱コンクールが廃止になった。アメリカ短期留学などは統合後の学校行事として新たに生まれた。 ・旧女子校の合唱祭は、学校規模が大きすぎて実施を断念したが、統合前の両校で行われていた、体育祭、文化祭については継続して実施している。 ・旧男子校のマラソン大会は運動祭に。旧女子校の合唱コンクールは文化祭に組み込まれている。
<p>男子校からの共学化校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旧男子校の自由で自主性を重んじる校風は脈々と受け継がれるよう取り組んでいる。 ・登山行事については、体力に応じて複数コースを設定した。応援練習等については男子校時代から変更していないが、女子生徒も男子生徒と変わらず取り組んでいる。 ・入学時に実施している応援練習では女子生徒に配慮した取組としたほか、体育祭における女子種目を追加した。 ・体育祭や定期戦の競技種目に女子用を導入した。共学化直後は、男子校に入る女子生徒の気概もあり、男子校の校風も残っていたが、現在は、他の共学校とそれほど変わらないようだ。 ・学校行事の内容について、男女共学化に対応して体育的行事の種目変更を実施した。 ・クロスカントリーで男子と女子の距離を変えた。文化祭や体育祭において女子を念頭において競技を設定。応援練習や集会についても女子を配慮した内容にしている。
<p>女子校からの共学化校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の面では女子校時代の伝統を受け継ぐことで、礼儀正しさ等が作られている。 ・女子校時代の伝統を踏まえた上で、しっかりと生徒・保護者の要望をかなえるように考え、教育方針は変えず、教育課程等を共学化に合わせるよう検討した。 ・体育大会・歌合戦・文化祭など女子校時代からの行事は継承しつつ、夏期研修を廃止して、研修旅行を新設した。 ・女子校時代の良いところを忘れないようにするため、校歌の一節を校是とした。中身は男子生徒にも通じる内容となっている。

(資料) 高校教育改革検証部会現地調査(平成24年12月～平成25年11月)

【図 4】高校の特色づくりに関する中学校の評価



(備考) 質問項目は「宮城県では、魅力ある高校づくり、特色ある学校づくりを推進していますが、高校の特色づくりは進んでいると思いますか」

(資料) 「男女共学化」及び「全県一学区化」の検証に係る中学校へのアンケート(平成24年11月)

(3) 情報発信の状況

① 関連するデータの状況

- 高校の情報発信の状況について、現地調査の結果、多くの学校で中学校の訪問等を通して、授業内容、部活動、高校卒業後の進路等を中心に情報提供が行われていました。【表 6】
- また、男女共学化に対応して、中学校に対する情報発信の手段、内容、頻度等を変更した学校は半数程度であり、「男子校と女子校の統合による共学化校」で変更した学校が多く見られました。変更した内容としては、「ホームページ等で男女共学化による教育内容や学校生活の変化を掲載した」などとなっています。【表 7】
- 次に、県立高校からの情報提供に関する中学校の評価（教員）を見ると、県全体では 84.1%が肯定的に評価していますが、中部（巨理名取）地区、中部（仙台南・仙台北）地区及び東部（本吉）地区の肯定的評価の割合は、他の地区に比べやや低くなっています。【図 5】

② 成果及び課題等

- 高校から中学校への情報提供は、中学校の訪問等、様々な手段を通じて行われていますが、高校からの情報提供に対する中学校の評価が、相対的に低い地域も見られました。また、そのような地域では、高校の特色づくりに関して「わからない」又は「進んでいない」という評価が高くなる傾向が見られます。
- 各学校においては、高校の魅力ある学校づくりや特色ある学校づくりが進められてきていますが、そのような高校における取組が中学校や地域等から見える形で発信されることが重要であり、中学校でどのような情報を必要としているかを把握するなど、ニーズに対応した的確な情報発信の充実が求められます。

【表 6】 県立高校の中学校への情報提供の状況

中学生が学校選択する際に参考となる学校の特色等の情報について、中学校等に対してどのような手段・内容の情報発信を行っていますか。(複数回答可)
ただし、ホームページ、オープンキャンパス及び学校公開は除きます。

(1) 手段

選択肢	回答数			
	対象校	統合校	男子校から	女子校から
①教員が中学校を訪問	15	4	6	5
②学校だより等の郵送や配信	7	4	1	2
③その他	10	3	6	1
学校数	16	5	6	5

その他の内容

- ・中学校ごと、または学習塾等で開催される説明会への参加
- ・各中学校への出前授業 等

(2) 内容

選択肢	回答数			
	対象校	統合校	男子校から	女子校から
①入試に関する情報	15	5	6	4
②教育課程・授業内容	16	5	6	5
③部活動の内容	16	5	6	5
④特別活動の内容	15	5	6	4
⑤高校卒業後の進路の状況	16	5	6	5
⑥中学卒業生の様子	10	4	4	2
⑦その他	5	1	2	2
学校数	16	5	6	5

その他の内容

- ・進路状況, 国際交流, 高大連携 等

(資料) 高校教育改革検証部会現地調査事前アンケート(平成24年12月～平成25年11月)

【表 7】 男女共学化に対応した情報発信の変更状況

男女共学化に対応して、中学校等に対する情報発信の手段、内容、頻度等を変更しましたか。

選択肢	回答数			
	対象校	統合校	男子校から	女子校から
①変更した	8	4	3	1
②変更しない	8	1	3	4
学校数	16	5	6	5

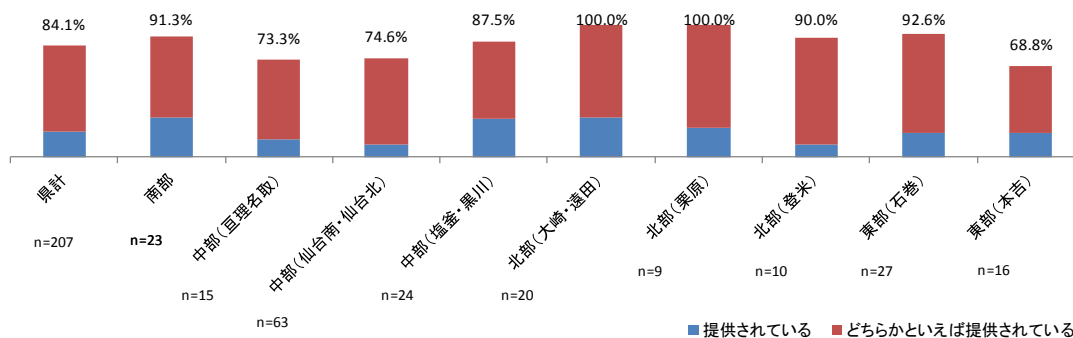
【「1. 変更した」と回答した場合】どのように変更しましたか。

主な内容

- ・ホームページ, 合同相談会, 教員による中学校訪問, オープンキャンパス等の説明内容を変更し, 男女共学化による教育内容や学校生活の変化を掲載した。
- ・説明会の回数を増やした。 等

(資料) 高校教育改革検証部会現地調査事前アンケート(平成24年12月～平成25年11月)

【図 5】 県立高校の情報提供に関する中学校の評価



(備考)
 ・質問項目は「県立高校では、中学校を訪問するなどして、高校の情報提供を行っています。進路指導をするにあたって十分な情報が提供されていると思いますか」
 ・回答選択肢は「①提供されている、②どちらかといえば提供されている、③どちらかといえば提供されていない、④提供されていない、⑤わからない」。内、①+②を肯定的評価として集計。
 (資料)「男女共学化」及び「全県一学区化」の検証に係る中学校へのアンケート(平成24年11月)

(4) 学校運営

① 関連するデータの状況

- 平成 21 年度から平成 24 年度までの各校の生徒の学校評価（共通評価項目）について、「男子校と女子校の統合による共学化校」、「男子校からの共学化校」、「女子校からの共学化校」のタイプに分けて分析しました。
- 「①学習指導」については、「男子校からの共学化校」では女子生徒の方が、「女子校からの共学化校」では男子生徒の方が満足度が高くなる傾向があります。【図 6】
- 現地調査においても、「男子校からの共学化校」では「女子生徒の真面目さに、男子生徒が学習面等で良い影響を受けている」との意見や、「女子校からの共学化校」では、「男子生徒は進学意欲が高く全体を引っ張っている」との意見がありました。【表 8】
- また、「④教育相談」、「⑥生徒会活動」、「⑦学校行事」、「⑧学校の特色づくり」の項目については、平成 21 年度時点では、「男子校と女子校の統合による共学化校」や「女子校からの共学化校」において男子生徒と女子生徒の評価に 10 ポイント以上差がありましたが、平成 24 年度では、男女間の差が小さくなっています。【図 6】
- 現地調査では、全ての学校のタイプで「学校行事等は男子生徒と女子生徒が協力しながら行われている」などの意見がありました。また、学校の雰囲気としても、「落ち着いた」などの意見がありました。【表 8】
- その他、入学する生徒層については、「共学化前とは異なる進路希望を持つ生徒が入学するようになった」との意見もありました。
- 一方で、「女子校からの共学化校」では、「⑨施設整備」への評価が、他の学校のタイプに比べ低くなっていました。【図 6】

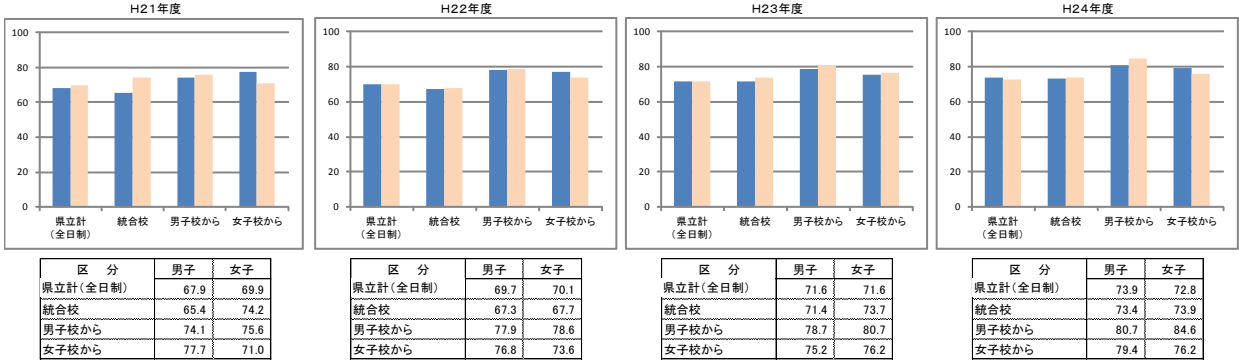
② 成果及び課題等

- 学校評価や現地調査のデータから、学校行事等が男女が協力しながら行われているなど、学校生活において男女が共に学び、理解し、成長し合う場が設けられていると言えますが、各学校においては、引き続き、共学化前後の生徒層の変化に対応した指導等が求められます。
- 一方で、「女子校からの共学化校」では施設整備に関する満足度が低くなっていることなどから、次項において施設整備の状況について確認しました。

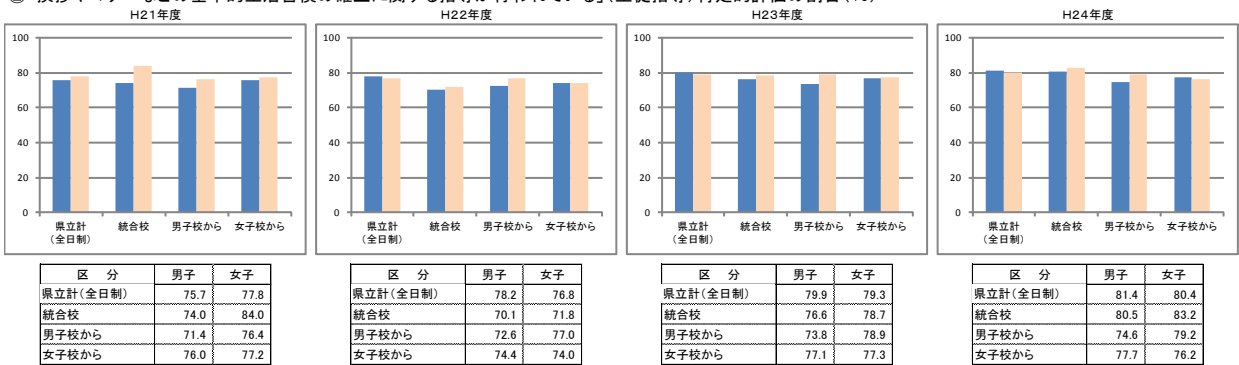
【図6】生徒の学校評価（男女共学化）

凡例：男子 ■ 女子 ■

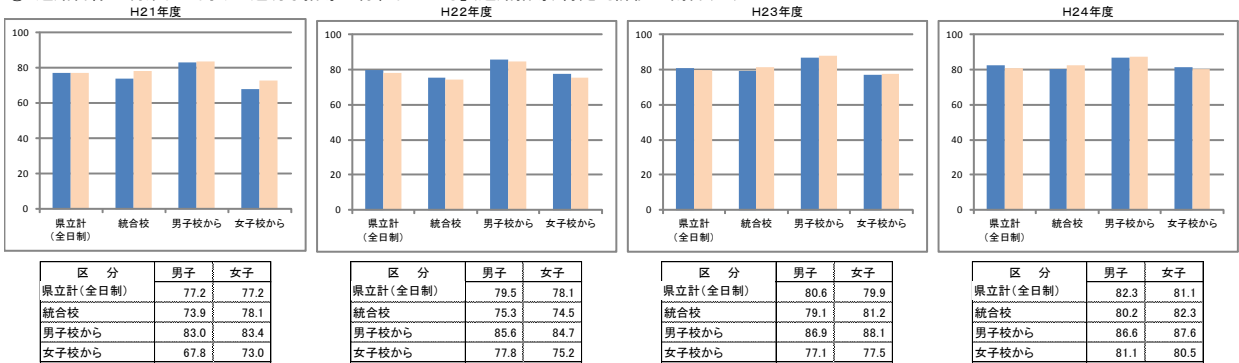
①「学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている」（学習指導）肯定的評価の割合（％）



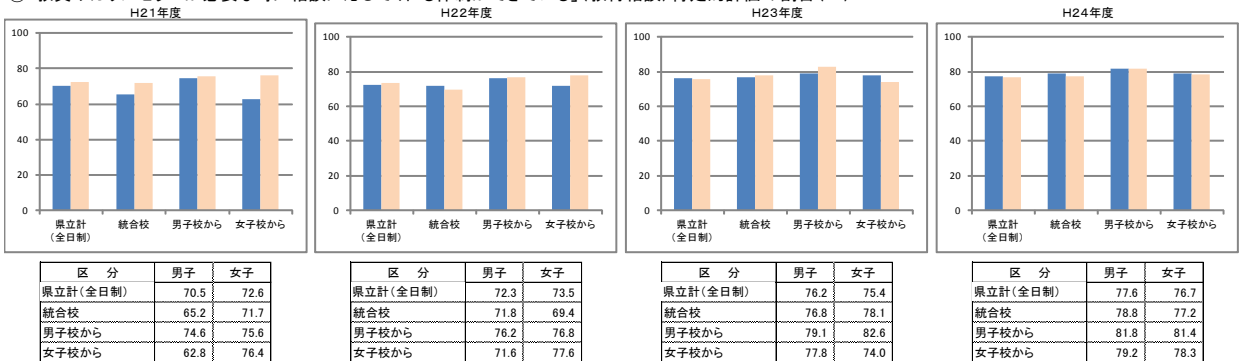
②「挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている」（生徒指導）肯定的評価の割合（％）



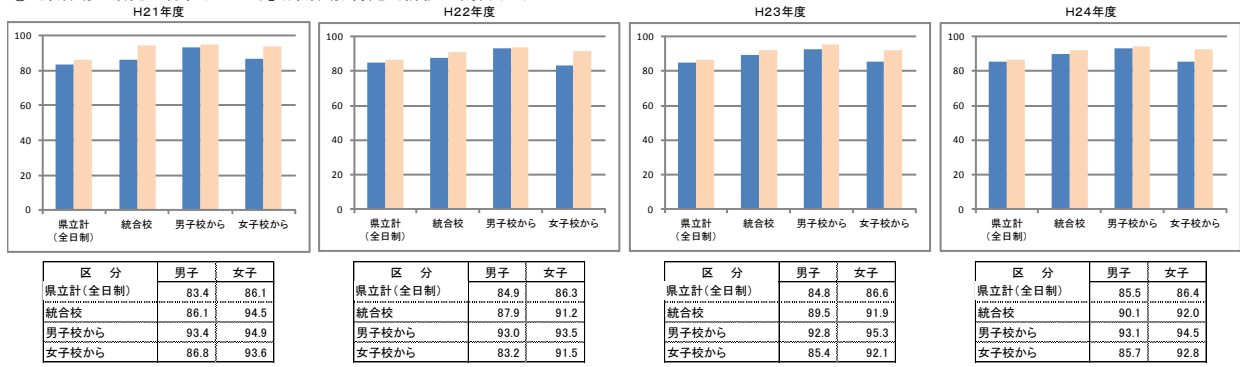
③「進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている」（進路指導）肯定的評価の割合（％）



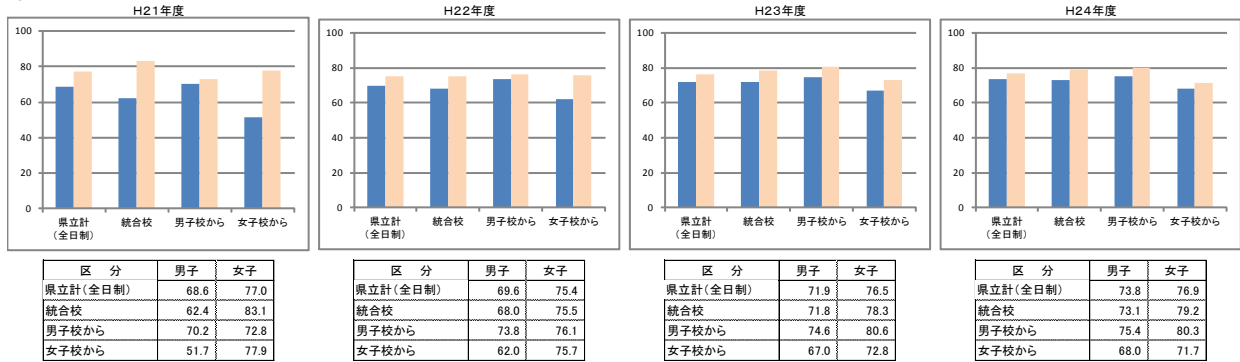
④「教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている」（教育相談）肯定的評価の割合（％）



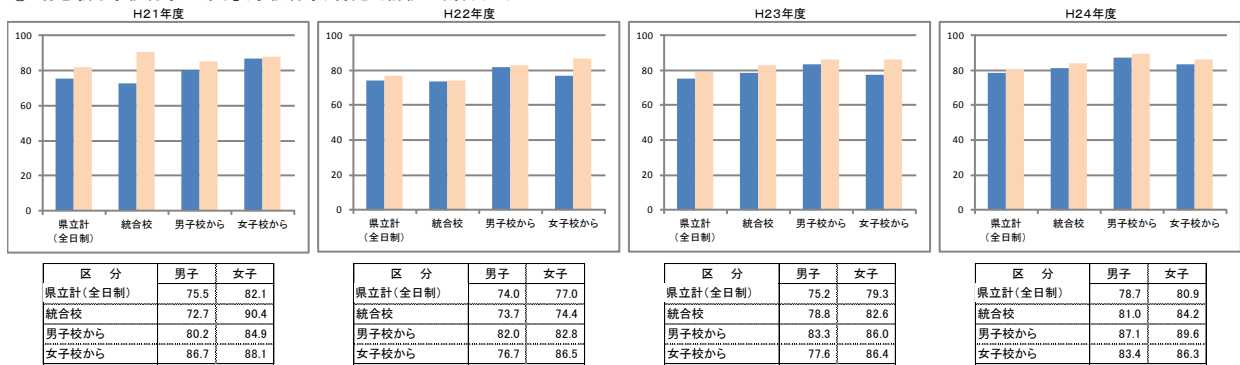
⑤「部活動は活発に行われている」(部活動)肯定的評価の割合(%)



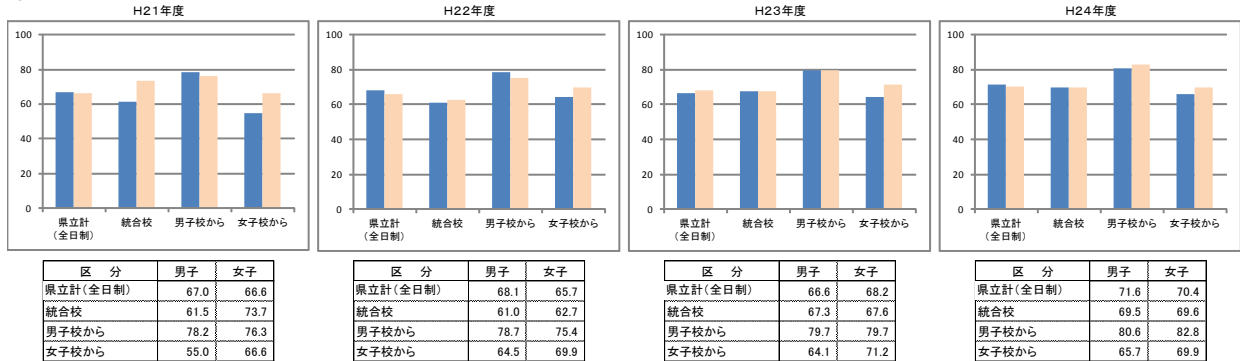
⑥「生徒会活動は活発に行われている」(生徒会活動)肯定的評価の割合(%)



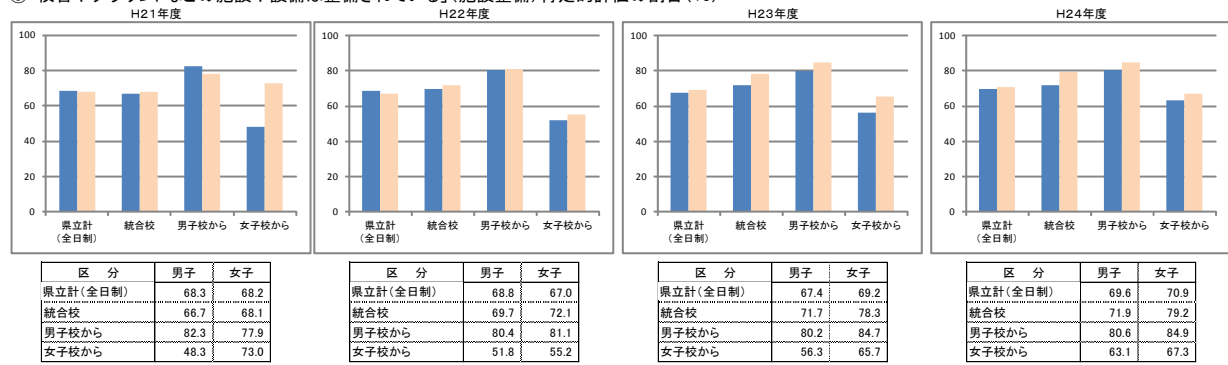
⑦「有意義な学校行事がある」(学校行事)肯定的評価の割合(%)



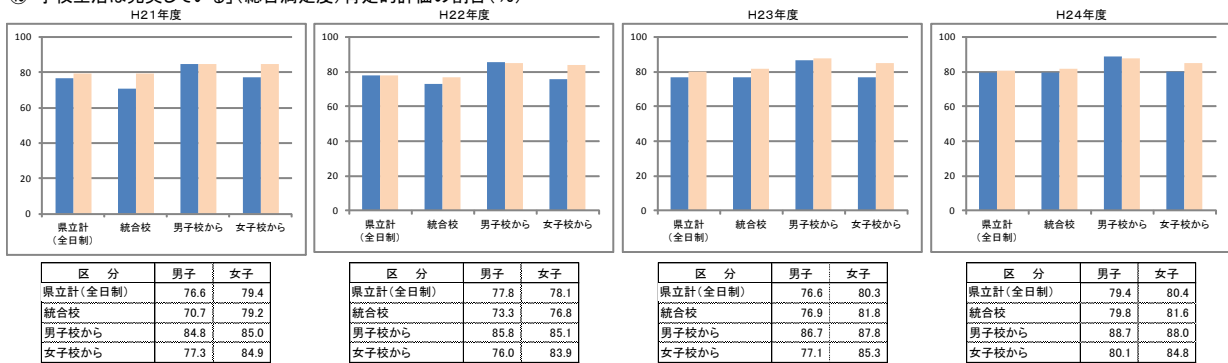
⑧「地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる」(特色ある学校づくり)肯定的評価の割合(%)



⑨「校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている」(施設整備)肯定的評価の割合(%)



⑩「学校生活は充実している」(総合満足度)肯定的評価の割合(%)



(資料)宮城県教育庁調べ

【表 8】男女共学化後の生徒の状況

<p>男子校と女子校の統合校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・女子校時代と比べて、女子生徒の進学に対する意識は高くなった。共学化による問題は特にはない。学校行事等については、女子生徒の方が元気に参加している。 ・共学化後、男子生徒は、落ち着いており、静かな雰囲気です。女子生徒は、共学化直後は落ち着きがなかったが、現在はだいぶ落ち着いた。 ・共学化直後は、男女それぞれ慣れないということもあり、生徒指導が増加したようであるが、今は落ち着いている。 ・学校行事等は男女協力し合いながら行われている。統合後は、女子生徒の上位層が伸びている。
<p>男子校からの共学化校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事は生徒有志による企画運営が行われている。女子生徒も積極的に企画運営に参画している。 ・女子生徒が入ったことによる、良い変化として、「品が良くなった」「落ち着いた」などが挙げられる。女子生徒の真面目さや一生懸命なところが授業中の雰囲気も良くしており、それが学力向上につながっている。 ・男女共学化になって特に問題はない。共に学ぶことに生徒に違和感はない。女子生徒はまじめな生徒が多く、女子のまじめさに男子生徒が良い影響を受けている。部活動や生徒会活動において女子生徒は積極的である。 ・男子生徒は女子生徒が入ることにより、学習面等でいい影響を受けている。地域住民などからは、共学化以降、生徒が楽しそうにしているという意見をもらっている。 ・学校行事も男女が役割を分担しながら生徒が主体的に運営している。女子生徒が入って華やかになった。男女共学化になり、問題行動等は減ったように感じる。一般的な傾向として相談室等の利用は女子生徒の方が多いため、共学化に当たって相談室を設けた。その点で、男子校時代と比べて教育相談は増えている。
<p>女子校からの共学化校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動等で男子生徒が良い成績を収めるようになると、女子生徒も認めるようになる。はじめは大勢の女子生徒の中で圧倒されていたが、男子生徒の後輩が入ることによってしっかりしてきた。男子生徒は進学意欲が高く全体を引っ張っている。 ・女子生徒に限ると、共学化され男子生徒がいることから、女子校の女子生徒に比べると、男子生徒を意識した生活、良い意味で恥じらいをもった生活を送るようになった。 ・学校行事も男女共学化当初は、女子生徒がリーダーシップを発揮していたが、男子生徒もリーダーシップを発揮できるようになり、男女共同で行われている。男女共学化になり、学校の雰囲気としては少しおとなしくなった印象。

(資料) 高校教育改革検証部会現地調査(平成24年12月～平成25年11月)

(5) 施設整備

① 関連するデータの状況

- 男女共学化に当たり、教育委員会では【表 2】(p.5)にあるとおり、トイレ、更衣室、部室の整備や建築経過年数により校舎改築や校舎等大規模改造を実施しました。
- 男女共学化後の各学校の施設の状況を見ると、「女子校からの共学化校」で、相対的に運動施設が小さくなっています。【表 9】
- 現地調査では、施設整備に関して全ての学校のタイプで「施設整備等の環境整備が必要」との意見がありましたが、特に「女子校からの共学化校」では、「狭隘な校地・校舎により、部活動で対応が難しい」という意見が多くありました。【表 10】
- また、男子校と女子校の統合により両校の校地・校舎を使用している学校では、「生徒・教員の校舎間の移動や学校の一体感の醸成に課題がある」との意見がありました。【表 10】

② 成果及び課題等

- 男子校と女子校の統合により両校の校地・校舎を使用している学校では、校舎間の移動や学校の一体感の醸成など生徒や教員の負担が大きくなっていることから、教育委員会においては、負担軽減に繋がる対応が求められます。
- また、現地調査では、施設整備に関連して部活動に関する意見が多かったことから、次項においては部活動の状況について確認します。

【表 9】施設等の面積

単位: m²

学校のタイプ	校地面積	運動施設		
		グラウンド	屋内施設	
			体育館	武道場
統合共学化校(平均)	73,677	38,235	4,149	942
男子校からの共学化校(平均)	57,340	32,602	2,202	726
女子校からの共学化校(平均)	43,653	26,845	2,499	525

(備考)校地面積及び運動施設には、校舎から離れた場所にある第二グラウンド等も含む。

(資料)宮城県教育庁調べ

【表 10】施設等の状況

男子校と女子校の統合校	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドが手狭。 ・2つの校舎に分かれており、移動や学校の一体感の醸成に課題がある。 ・旧女子校の場所で統合校となったが、できれば体育館がもう一つあればよかった。
男子校からの共学化校	<ul style="list-style-type: none"> ・施設面での制約が多く女子生徒に対応した新しい部活の新設には限界がある。 ・男子校と最初から共学校とでは施設等の制度設計が異なるので、部活動等で対応できない部分もある。 ・校舎の改築もあって、女子は増加傾向にある。 ・老朽化はあるものの、不自由な点はない。 ・男子校、女子校で学校環境の相違がある。旧女子校の運動施設は改善が必要。
女子校からの共学化校	<ul style="list-style-type: none"> ・施設が手狭なため、男子生徒の部活動が十分にできるまでに至らないが、グラウンド等を譲り合って実施している。環境整備が必要。 ・学校にとって施設は重要な要素。今後も男子生徒が増えてくるとみているが、これからでも、野球部やサッカー部が作れるような環境にして欲しい。 ・野球やサッカーなどの男子の部活動に対応した施設の確保が困難である。近隣に第2グラウンドがあればいい。 ・共学化する場合、特に旧女子校の教育環境を整えることが必要。

(資料) 高校教育改革検証部会現地調査(平成24年12月～平成25年11月)

(6) 部活動

① 関連するデータの状況

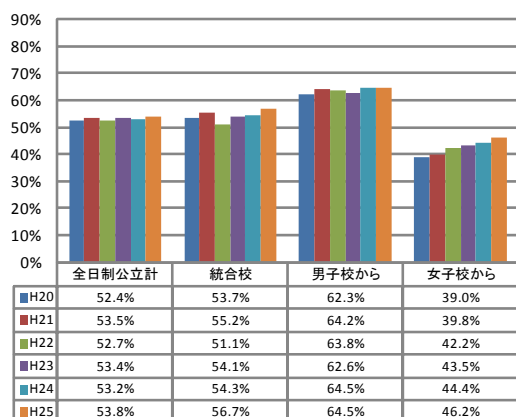
- 部活動の状況について、その加入状況を見ると、運動部は、「男子校からの共学化校」で加入率が高く、「女子校からの共学化校」は年々加入率が高くなっています。
- 文化部は、「女子校からの共学化校」で加入率が高く、「男子校からの共学化校」では、年々加入率が高くなっています。【図 7】
- 現地調査では、「男子校と女子校の統合校」では、統合に当たって2つの学校の部活動をそのまま継承する形とした学校が多く、「部活動数が増加したため、教員が顧問を掛け持ちしている」との意見がありました。【表 11】
- また、「男子校からの共学化校」及び「女子校からの共学化校」では、「可能な限り女子生徒又は男子生徒を受け入れているが、施設面での制約が多く部活動の新設には限界がある」や「部活動が増えた分、施設等の利用はローテーションを組んで使用している」との意見がありました。【表 11】
- 一方で、近隣の大学のグラウンドを活用して部活動を実施している学校や、練習場は狭いながらも生徒からの要望により硬式野球部を新設した学校もありました。【表 11】
- さらに、現地調査で訪問した学校の中には、部活動に代えて、放課後に生徒の自主的な活動として、文化的活動やスポーツ活動を行っている学校もありました。

② 成果及び課題等

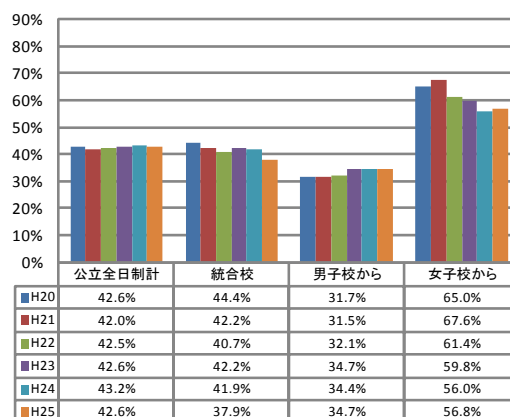
- 男女共学化から数年が経過し、比較的施設等が狭隘な「女子校からの共学化校」でも運動部の加入率が上昇傾向で推移していますが、「施設面での制約が多く部活動の新設には限界がある」との意見も多くありました。
- 一方で、近隣の大学の施設を利用したり、敷地が狭いながらも硬式野球部を新設した例があるように、各学校においては、既存の施設においても、生徒と学校がアイデアを出し、話し合いながら、部活動の在り方や施設の有効な活用等について考えていくことが求められます。
- 特に生徒の興味・関心が多様化する中で、部活動へのニーズも大きく変化していくことが想定されますが、生徒の自発的な活動への支援によって自発性を高めている事例も見られたことから、従来のイメージにとらわれず、学校の実態に応じながら運営上の工夫を行うことが期待されます。
- また、学校によっては共学化前の校地・校舎等を引き続き活用していますが、教育委員会においては、今後、共学化後の状況を踏まえた上で、教育環境の整備を改めて検討していくことが必要です。

【図 7】部活動の加入状況

(1) 運動部の加入率



(2) 文化部の加入率



(資料)運動部は宮城県高等学校体育連盟調べ、文化部は宮城県高等学校文化連盟調べ

【表 11】部活動の状況

男子校と女子校の統合校	<ul style="list-style-type: none"> ・統合に当たって、部活動を廃部にするのは難しく、全てそのまま残したため、教員は顧問を掛け持ちしている。統合後、新設された部活動は無い。 ・部活動団体数が増加し、本校舎の施設のみで全ての部活動が活動することができない。 ・2つの学校の部活動をそのまま継承した。
男子校からの共学化校	<ul style="list-style-type: none"> ・施設面での制約が多く女子生徒に対応した新しい部活の新設には限界がある。 ・男女共学化にあたり、部活動の統廃合等は行っていない。既存の部活動で個人競技など女子生徒を受け入れ可能な部に女子生徒が入っている。男子校と最初から共学校とでは施設等の制度設計が異なるので、部活動等で対応できない部分もある。 ・部活動において、可能な限り女子生徒を受け入れた。女子生徒の部活が増えた分、体育館等の施設はローテーションを組んで使用している。 ・男女共学化を境にして、文化部所属生徒数が増加した。 ・男女共学化にあたって、ソフトボール部等を新設した。新設にあたっては、中学校をまわって女子生徒の需要がありそうな部を学校側で準備した。また、共学化の際に部活動の統廃合を進めたが、顧問の数と場所の確保はギリギリの状況。陸上部については、近隣の大学のグラウンドを活用している。
女子校からの共学化校	<ul style="list-style-type: none"> ・男子の活動できる部をつくった。施設が手狭なため、男子生徒の部活動が十分にできるまでに至らないが、グラウンド等を譲り合って実施している。環境整備が必要。 ・野球部、サッカー部などを作るにも施設設備が不十分である。体育館は女子バスケットボール部、男子バスケットボール部、バドミントン部でローテーションで使用しているため、週2日は休みをとらなくてはならない。部活動において、男女アベック優勝する部があるなど、子ども達自身にはずみがついている。 ・野球やサッカーなどの男子の部活動に対応した施設の確保が困難。運動部については、男子生徒のための新たな部の開設は行わないが、入部可能な部(現在は10部)がある。また、文化部については、すべての部において男子の入部が可能。 ・部活動については、バレーボール、バスケットボールなどもとも女子校時代からあった部活動を、男子の部としても設置した。練習場は狭いが、当初設置する予定のなかった硬式野球部を、生徒の要望により2年前新設した。

(資料)高校教育改革検証部会現地調査(平成24年12月～平成25年11月)

3 「全県一学区化」に関する現状把握

- 「全県一学区化」の実施に伴う現状を把握するため、主に次のデータについて、地区別及び学校別に整理して年次推移を確認するとともに、地区別・学校別の特徴を分析しました。

【収集データ】

- | | |
|---------------------------|-----------------|
| ・一般入試出願倍率 | ・みやぎ学力状況調査（国数英） |
| ・同一地区以外の公立高校への進学割合 | ・地区別の通学状況 |
| ・公立高校における同一地区以外の中学校出身者の割合 | ・部活動の状況 |
| | ・生徒の学校評価 |

- また、定量データで把握しきれない部分については、平成 24 年 12 月から平成 25 年 11 月までに進路指導拠点校等を中心とした 19 校を対象に現地調査を実施しました。「男女共学化」に係る検証と同様に現地調査に当たっては、事前にアンケートを実施し、それを基礎資料とするとともに、校長及び教員からのヒアリング等を通して定性データの収集を行いました。

【現地調査対象校】

- | | | | |
|---------|---------|---------|----------|
| ・白石高校 | ・仙台第二高校 | ・塩釜高校 | ・石巻高校 |
| ・角田高校 | ・仙台第三高校 | ・古川高校 | ・石巻好文館高校 |
| ・仙台第一高校 | ・宮城第一高校 | ・古川黎明高校 | ・石巻商業高校 |
| ・仙台二華高校 | ・泉館山高校 | ・築館高校 | ・気仙沼高校 |
| ・仙台三桜高校 | ・宮城野高校 | ・佐沼高校 | |

【現地調査の主な調査項目】

- | | |
|--------------|------------------------|
| ・教育方針・教育課程 | ・学校運営及び教育活動の点検・改善の実施状況 |
| ・学校の特徴づくりの状況 | ・中学校への情報発信の状況 |

- 併せて、「全県一学区化」の実施に伴う中学校の現状を把握するため、平成 24 年 11 月に宮城県内全ての公立中学校 207 校を対象に次の調査項目についてアンケートを実施しました。

【主な中学校へのアンケート調査項目】

- | | |
|----------------|---------------------|
| ・生徒・保護者の進路希望動向 | ・生徒の学校選択のための情報提供の状況 |
| ・進路指導等の状況 | ・その他 |
| ・高校の特徴づくりの状況 | |

(1) 生徒の地区間流入入の状況

① 関連するデータの状況

- 同一地区の公立高校以外（全日制課程）に進学した生徒の割合は、県全体で、平成 21 年度 30.7%、平成 22 年度 33.4%、平成 23 年度 33.0%、平成 24 年度 34.3%、平成 25 年度 33.7%と全県一学区化前から+3 ポイント程度上昇しました。【表 12】
- 地区別に見ると、「南部」、「北部（大崎）」及び「東部（本吉）」において、全県一学区化後の変化量が他の地区に比べ大きくなっていますが、変化量としては「南部」及び「北部（大崎）」では+7 ポイント程度、「東部（本吉）地区」では-5 ポイント程度となっています。【表 12】
- 次に、公立高校における同一地区以外の中学校出身者の割合を見ると、県全体で全県一学区化後の変化量は+1.5 ポイントとなっており、地区別では、「南部」で+7 ポイント程度となっています。【表 13】

② 成果及び課題等

- 地区間の比較で見ると限りにおいては、現段階では、特定の地区・学校への志願の集中は見られませんが、全県一学区化前と比較して、県全体として同一地区の公立高校以外への進学割合や、公立高校における同一地区以外の中学校出身者の割合がともに高くなっていることから、一定程度、地区間の流動化が進んでおり、学校の選択幅が拡大したと言えます。
- 教育委員会においては、生徒の地区間移動が更に進むか否かについて、平成 25 年度に入試制度が改まった³ことも踏まえながら、今後の推移を継続して見ていくことが必要となります。

³ 中学校長の推薦を必要とする推薦入試から、「出願できる条件」を満たせば出願できる前期選抜に変更となった。前期選抜では、全県共通の3教科の学力検査と各高校が作成する「学校独自検査」が課される。

【表 12】同一地区の公立高校以外（全日制課程）への進学割合

項目	中学校・中等教育学校(前期課程)の卒業生数											同一地区の公立高校以外(全日制課程)への進学割合											県内の私立(全日制課程)への進学割合																	
	21年3月 (人)	22年3月 (人)	23年3月 (人)	24年3月 (人)	25年3月 (人)	前年比(ポイント)					一学区化 後変化量	21年度 (%)	22年度 (%)	23年度 (%)	24年度 (%)	25年度 (%)	前年度差					一学区化 後変化量	21年度 (%)	22年度 (%)	23年度 (%)	24年度 (%)	25年度 (%)	前年度差					一学区化 後変化量							
						21年 3月	22年 3月	23年 3月	24年 3月	25年 3月							21年度	22年度	23年度	24年度	25年度							21年度	22年度	23年度	24年度	25年度								
卒業中学校地区																																								
南部(刈田柴田・伊具)	1,699	1,762	1,649	1,640	1,616	▲ 8.4	3.7	▲ 6.4	▲ 0.5	▲ 1.5	▲ 4.9	12.6	16.7	17.0	17.7	20.1	▲ 3.6	4.1	0.3	0.7	2.5	7.5	4.9	6.2	5.8	6.7	8.1	▲ 2.4	1.3	▲ 0.4	0.9	1.4	3.2							
中部	13,907	14,349	13,889	14,037	14,006	▲ 2.4	3.2	▲ 3.2	1.1	▲ 0.2	0.7	38.8	41.5	40.5	41.9	40.9	▲ 0.4	2.7	▲ 1.1	1.4	▲ 1.0	2.0	35.2	36.9	35.6	37.5	36.3	0.4	1.7	▲ 1.3	1.9	▲ 1.3	1.0							
亘理名取	1,634	1,780	1,719	1,655	1,638	▲ 8.2	8.9	▲ 3.4	▲ 3.7	▲ 1.0	0.2	66.5	68.7	68.7	68.4	67.6	▲ 2.1	2.2	▲ 0.0	▲ 0.3	▲ 0.8	1.1	20.0	25.4	24.2	21.8	21.3	▲ 0.4	5.4	▲ 1.2	▲ 2.4	▲ 0.5	1.3							
仙台南・仙台北	9,351	9,549	9,351	9,546	9,513	▲ 0.7	2.1	▲ 2.1	2.1	▲ 0.3	1.7	53.4	54.6	53.5	55.5	54.1	▲ 0.7	1.1	▲ 1.1	2.0	▲ 1.3	0.7	40.4	41.9	40.2	42.6	40.9	▲ 0.3	1.5	▲ 1.7	2.4	▲ 1.7	0.5							
塩釜・黒川	2,922	3,020	2,819	2,836	2,855	▲ 4.6	3.4	▲ 6.7	0.6	0.7	▲ 2.3	56.9	58.6	57.2	59.1	58.5	▲ 0.8	1.7	▲ 1.4	1.9	▲ 0.6	1.6	26.8	27.7	27.2	29.7	29.6	1.6	0.9	▲ 0.6	2.6	▲ 0.2	2.8							
北部(大崎・遠田)	1,968	2,058	2,019	1,970	1,936	▲ 8.4	4.6	▲ 1.9	▲ 2.4	▲ 1.7	▲ 1.6	20.2	25.3	27.7	27.2	27.3	▲ 4.6	5.1	2.4	▲ 0.5	0.1	7.2	13.4	14.7	19.0	17.5	19.4	▲ 4.0	1.4	4.2	▲ 1.5	1.9	6.0							
北部(栗原)	640	647	615	646	647	▲ 11.5	1.1	▲ 4.9	5.0	0.2	1.1	27.2	25.5	25.9	27.1	28.7	4.6	▲ 1.7	0.4	1.2	1.6	1.4	5.5	5.9	4.1	5.6	5.0	0.9	0.4	▲ 1.7	1.4	▲ 0.6	▲ 0.5							
北部(登米)	794	817	783	834	772	▲ 14.4	2.9	▲ 4.2	6.5	▲ 7.4	▲ 2.8	27.0	28.0	29.1	29.6	29.8	▲ 0.3	1.0	1.1	0.5	0.2	2.9	5.1	6.5	4.9	6.0	6.7	0.2	1.4	▲ 1.6	1.1	0.8	1.6							
東部(石巻)	2,130	2,190	2,090	2,008	1,925	▲ 0.2	2.8	▲ 4.6	▲ 3.9	▲ 4.1	▲ 9.6	11.4	13.0	13.7	15.8	13.3	▲ 0.7	1.6	0.7	2.1	▲ 2.5	1.9	5.7	7.2	6.3	9.3	7.4	▲ 0.3	1.5	▲ 0.9	3.0	▲ 1.9	1.7							
東部(本吉)	954	974	958	884	878	▲ 3.9	2.1	▲ 1.6	▲ 7.7	▲ 0.7	▲ 8.0	16.2	17.5	15.3	13.3	10.6	▲ 0.3	1.3	▲ 2.2	▲ 2.0	▲ 2.7	▲ 5.6	12.0	13.8	9.5	8.0	6.8	▲ 1.2	1.7	▲ 4.3	▲ 1.5	▲ 1.2	▲ 5.3							
合計	22,092	22,797	22,003	22,019	21,780	▲ 4.1	3.2	▲ 3.5	0.1	▲ 1.1	▲ 1.4	30.7	33.4	33.0	34.3	33.7	▲ 0.8	2.7	▲ 0.3	1.3	▲ 0.6	3.0	25.1	26.6	25.9	27.5	26.9	▲ 0.1	1.5	▲ 0.7	1.6	▲ 0.6	1.8							

(資料)中学校等の卒業生数は、学校基本調査(文部科学省、宮城県)、それ以外は宮城県教育庁調べ

【表 13】公立高校における同一地区以外の中学校出身者の割合

項目	公立高校入学者数(県外からの入学者は含まない)											公立高校における同一地区以外の中学校出身者の割合											後期選抜(一般入試)出願倍率																	
	21年度 (人)	22年度 (人)	23年度 (人)	24年度 (人)	25年度 (人)	前年比(ポイント)					一学区化 後変化量	21年度 (%)	22年度 (%)	23年度 (%)	24年度 (%)	25年度 (%)	前年度差					一学区化 後変化量	21年度 (倍)	22年度 (倍)	23年度 (倍)	24年度 (倍)	25年度 (倍)	前年度差					一学区化 後変化量							
						21年度	22年度	23年度	24年度	25年度							21年度	22年度	23年度	24年度	25年度							21年度	22年度	23年度	24年度	25年度								
高校所在地																																								
南部(刈田柴田・伊具)	1,583	1,644	1,552	1,536	1,484	▲ 6.9	3.9	▲ 5.6	▲ 1.0	▲ 3.4	▲ 6.3	12.3	17.3	17.3	16.3	19.3	▲ 2.6	5.0	0.1	▲ 1.0	2.9	7.0	0.92	1.07	1.00	0.96	0.93	▲ 0.09	0.15	▲ 0.07	▲ 0.04	▲ 0.03	0.01							
中部	7,982	7,968	7,918	7,890	7,942	▲ 3.2	▲ 0.2	▲ 0.6	▲ 0.4	0.7	▲ 0.5	3.1	4.2	4.6	4.6	4.1	▲ 0.4	1.1	0.4	0.0	▲ 0.4	1.1	1.45	1.50	1.45	1.47	1.40	▲ 0.04	0.05	▲ 0.05	0.02	▲ 0.07	▲ 0.05							
亘理名取	982	983	965	969	992	▲ 1.3	0.1	▲ 1.8	0.4	2.4	1.0	49.1	47.9	48.5	49.7	50.4	1.5	▲ 1.2	0.6	1.2	0.7	1.3	1.48	1.44	1.31	1.23	1.27	0.09	▲ 0.04	▲ 0.13	▲ 0.07	0.04	▲ 0.21							
仙台南・仙台北	5,336	5,315	5,276	5,261	5,275	▲ 3.5	▲ 0.4	▲ 0.7	▲ 0.3	0.3	▲ 1.1	25.2	25.5	24.2	25.4	23.9	▲ 2.4	0.2	▲ 1.2	1.1	▲ 1.4	▲ 1.3	1.46	1.52	1.52	1.56	1.47	▲ 0.08	0.07	▲ 0.00	0.04	▲ 0.10	0.01							
塩釜・黒川	1,664	1,670	1,677	1,660	1,675	▲ 3.1	0.4	0.4	▲ 1.0	0.9	0.7	32.9	33.2	36.0	36.0	35.3	▲ 0.0	0.2	2.8	▲ 0.1	▲ 0.6	2.4	1.39	1.44	1.30	1.32	1.27	0.01	0.05	▲ 0.14	0.02	▲ 0.05	▲ 0.12							
北部(大崎・遠田)	1,674	1,669	1,598	1,632	1,588	▲ 4.3	▲ 0.3	▲ 4.3	2.1	▲ 2.7	▲ 5.1	13.9	15.8	15.8	17.9	17.1	▲ 1.6	1.9	0.0	2.1	▲ 0.8	3.2	1.06	1.07	0.99	1.03	1.01	▲ 0.04	0.01	▲ 0.08	0.04	▲ 0.03	▲ 0.05							
北部(栗原)	534	564	545	558	538	▲ 14.8	5.6	▲ 3.4	2.4	▲ 3.6	0.7	20.4	19.1	21.3	20.4	17.7	4.3	▲ 1.3	2.1	▲ 0.9	▲ 2.8	▲ 2.8	0.77	0.84	0.88	0.90	0.84	▲ 0.04	0.06	0.04	0.02	▲ 0.06	0.06							
北部(登米)	603	600	575	596	553	▲ 12.4	▲ 0.5	▲ 4.2	3.7	▲ 7.2	▲ 8.3	10.3	9.5	9.2	9.1	7.8	1.9	▲ 0.8	▲ 0.3	▲ 0.2	▲ 1.3	▲ 2.5	0.87	0.87	0.84	0.90	0.81	▲ 0.07	0.00	▲ 0.03	0.06	▲ 0.09	▲ 0.06							
東部(石巻)	1,780	1,847	1,739	1,594	1,576	▲ 1.7	3.8	▲ 5.8	▲ 8.3	▲ 1.1	▲ 11.5	3.8	5.8	5.5	4.2	4.7	▲ 1.5	2.0	▲ 0.3	▲ 1.3	0.5	0.9	0.94	1.01	0.99	1.00	0.97	▲ 0.01	0.07	▲ 0.02	0.01	▲ 0.04	0.03							
東部(本吉)	781	758	768	735	734	▲ 0.9	▲ 2.9	1.3	▲ 4.3	▲ 0.1	▲ 6.0	1.9	1.3	1.3	0.7	0.8	0.5	▲ 0.6	▲ 0.0	▲ 0.6	0.1	▲ 1.1	1.06	1.08	1.07	0.94	0.94	0.06	0.02	▲ 0.02	▲ 0.13	0.01	▲ 0.12							
合計	14,937	15,050	14,695	14,541	14,415	▲ 4.3	0.8	▲ 2.4	▲ 1.0	▲ 0.9	▲ 3.5	6.2	7.7	7.9	7.9	7.7	▲ 0.7	1.5	0.1	0.0	▲ 0.2	1.5	1.20	1.26	1.22	1.23	1.19	▲ 0.03	0.05	▲ 0.04	0.01	▲ 0.04	▲ 0.02							

(資料)宮城県教育庁調べ

【表 14】 高校のタイプ別の入試倍率・みやぎ学力状況調査の状況

区分 学校のタイプ	後期選抜(一般入試)出願倍率											みやぎ学力状況調査(国数英)偏差値				
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	前年差					一学区化 後変化量	前年差			一学区化 後変化量
							21年度	22年度	23年度	24年度	25年度		23年度	24年度	25年度	
普通科 (理数科・英語科が設置されている学校を含む。)	1.27	1.27	1.31	1.27	1.28	1.23	▲ 0.00	0.04	▲ 0.04	0.01	▲ 0.06	▲ 0.04	0.1	▲ 0.1	0.3	0.3
進路指導拠点校(仙台市)	1.29	1.36	1.44	1.41	1.42	1.39	0.07	0.08	▲ 0.03	0.01	▲ 0.03	0.03	0.3	▲ 2.1	▲ 0.1	▲ 1.9
進路指導拠点校(仙台市以外)	1.02	1.07	1.06	1.06	0.99	1.02	0.05	▲ 0.01	▲ 0.00	▲ 0.07	0.04	▲ 0.05	0.1	▲ 0.2	0.1	▲ 0.0
普通科+理数科・英語科	1.53	1.53	1.38	1.57	1.49	1.51	0.01	▲ 0.15	0.19	▲ 0.08	0.02	▲ 0.02	▲ 1.0	▲ 0.9	1.1	▲ 0.8

(備考)「同一地区からの入学割合」は各校の割合の単純平均により、「みやぎ学力調査」は各校の偏差値の単純平均により算出している。

「みやぎ学力状況調査」は、H21年度以前は1年生を対象に、H22年度以降は2年生を対象に実施されていることから、H21年度以前のデータとの比較はしていない。

(資料)宮城県教育庁調べ

【表 15】 入学又は受験する生徒層の状況

近年、以前と比べて入学又は受験する生徒層(出身地域、学力等)に変化はあったと思いますか。

選択肢	回答数		
	対象校	仙台市	仙台市以外
①変化はあった	17	7	10
②変化はなかった	2	1	1
学校数	19	8	11

【「1. 変化はあった」と回答した場合】どのような変化がありましたか。

主な内容

- ・旧学区外からの入学者が増えた。
- ・入学者の学力の向上
- ・成績上位層の減少

【「1. 変化はあった」と回答した場合】主にどのようなことが要因で変化したと思いますか。(複数回答可)

選択肢	回答数		
	対象校	仙台市	仙台市以外
①男女共学化	11	5	6
②全県一学区化	11	7	4
③高校授業料無償化	0	0	0
④東日本大震災	4	2	2
⑤その他	8	2	6
学校数	19	8	11

その他の内容

- ・少子化による中学校卒業生数の減少
- ・併設型中高一貫教育校としての開校

(資料) 高校教育改革検証部会現地調査事前アンケート(平成24年12月～平成25年11月)

(2) 学力の向上

① 関連するデータの状況

- 全県一学区の導入に当たっては、特定の地区・学校への志願者の集中や生徒の流出に伴う学力の低下が懸念されたことから、各学校や教育委員会では、【表 3】(p.8)の「魅力ある高校づくりに向けた取組」等を進めてきました。
- 「進路指導拠点校(仙台市以外)」のみやぎ学力状況調査(国数英)偏差値の全県一学区化後の変化量を見ると0ポイント⁴となっており、全体としての低下は見られません。【表 14】
- 「進路指導拠点校(仙台市)」の全県一学区化後の変化量を見ると、一般入試出願倍率は+0.03ポイント、みやぎ学力状況調査の偏差値は-1.9ポイントとなっており、志願者の大幅な増加等の変化は見られません。【表 14】
- また、現地調査では受験又は入学する生徒層(出身地域、学力等)の変化の要因の一つとして、仙台市内の学校では、全県一学区化を挙げる学校が多く、「仙台市内の旧学区外から進学する生徒が増えた」という意見が多くありましたが、仙台市以外の学校では、その他として「入学する生徒層については全県一学区化より、少子化の影響が大きい」、「もともとの少子化に加え、東日本大震災の影響で中学生が減少し、受験生・入学生の学力差が広がった」などの意見が見られました。【表 15】

② 成果及び課題等

- 特定の地区・学校への志願者の集中や生徒の流出に伴う学力低下は、現時点では見られませんが、教育委員会においては、全県一学区化の実施に当たって懸念された事項が生じていないかについては、今後も継続して見ていく必要があります。
- また、受験又は入学する生徒層に関しては、少子化や東日本大震災などの影響も考えられることから、そのような影響も考慮した上で、全県一学区化によって、教育機会の不均等や学力の地域間格差の問題が生じていないかについても、継続して点検していく必要があります。
- さらに、少子化が進行する中で、学校規模の縮小などが懸念されますが、引き続き、県内のどの地域においても生徒が確かな学力を身に付け、進路希望を達成できるような施策の展開と指導の充実が必要となります。

⁴ みやぎ学力状況調査の偏差値については、みやぎ学力状況調査が H22 年度から 2 年生を対象として実施されていることから、全県一学区化後に入学した生徒が 2 年生となる H23 年度の前年度差に着目したものの。

(3) 学校の特色づくり

① 関連するデータの状況

- 現地調査では、「教科指導」、「総合的な学習の時間」、「特別活動（ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事）」、「部活動」、「部活動以外の課外活動・その他」、「地域と連携した取組」について、各学校の特色づくりに向けた取組を確認しました。各学校の特色づくりの状況については、資料編（2）（pp.54～57）のとおりです。
- 教科指導においては、「多様な選択科目、学校設定科目の開設」、「単位制」、「SSH指定校としての取組」、「中高一貫教育」、「習熟度別の少人数指導（一部教科）」などの取組が、各学校の在り方や環境等を踏まえて展開されていました。
- また、総合的な学習の時間や特別活動、部活動等においても、学校の特色づくりに向けた取組が行われていたほか、多くの学校で地域と連携した取組が行われていました。【表 16】
- 生徒の学校評価を見ると、「⑥学校の特色づくり」の肯定的評価の割合は、進路指導拠点校（仙台市）と進路指導拠点校（仙台市以外）でともに上昇傾向で推移し、県全体でも上昇しています。「①学習指導」や「②進路指導」についても同様の傾向が見られ、肯定的評価の割合は上昇傾向で推移しています。【図 8】
- 次に、高校の特色づくりに関する中学校の評価（教員）を見ると、「高校の特色づくりは進んでいると思いますか」との質問項目については、県全体で「進んでいる」と回答する割合が54.6%と最も高くなっていますが、次いで「わからない」と回答する割合が32.9%となっています。【図 4】（p.19）
- 地区別では、中部（巨理名取）地区、中部（仙台南・仙台北）地区及び東部（本吉）地区では、「進んでいる」と回答する割合が他の地区に比べやや低く、中部地区の2地区では「わからない」と回答する割合が、東部（本吉）地区では、「進んでいない」と回答する割合が高くなっています。【図 4】（p.19）

② 成果及び課題等

- 学校の特色づくりについては、これまでも生徒の多様なニーズに応えるため様々な取組が進められてきており、生徒の満足度は高まってきたと言えます。
- 一方で、高校の特色づくりに関する中学校の評価としては、「わからない」又は「進んでいない」と回答する割合が高い地域も見られることから、次項において高校の情報発信の状況について確認しました。

【表 16】地域と連携した取組の状況

地域と連携した取組について、どのような取組を実施していますか。主なものを3つまで記入してください。

選択肢	回答数		
	対象校	仙台市	仙台市以外
①実施している	17	7	10
②実施していない	2	1	1
学校数	19	8	11

(備考) 値は取組を記入した学校の数をカウントしたもの

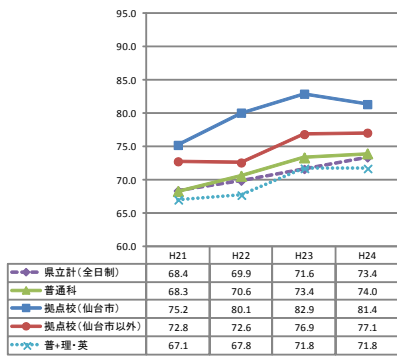
主な内容

- ・地域商店街のイベントへの生徒参加。町内行事への参加・運営の手伝い。
- ・企業訪問やキャリアセミナー等における地域の社会人講師の活用。
- ・地域の学校(小学校, 中学校, 大学等)との連携事業

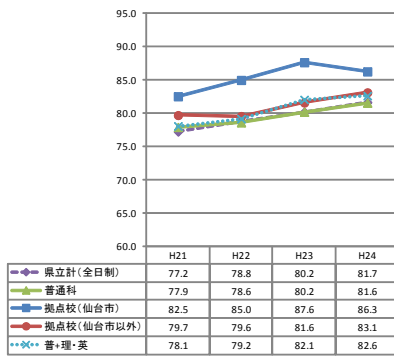
(資料) 高校教育改革検証部会現地調査事前アンケート(平成24年12月～平成25年11月)

【図 8】生徒の学校評価 (全県一学区化)

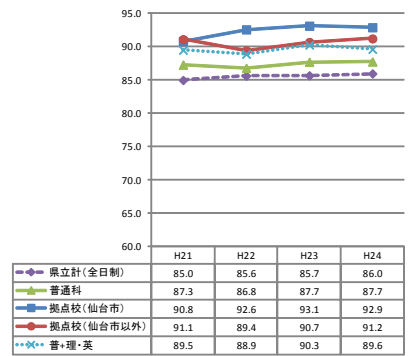
①「学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている」(学習指導) 肯定的評価の割合 (%)



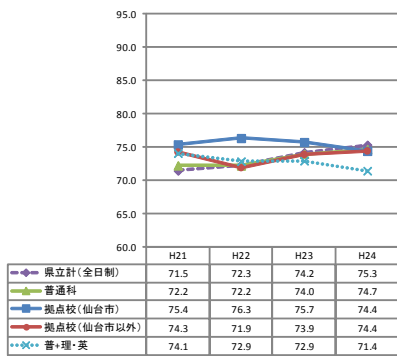
②「進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている」(進路指導) 肯定的評価の割合 (%)



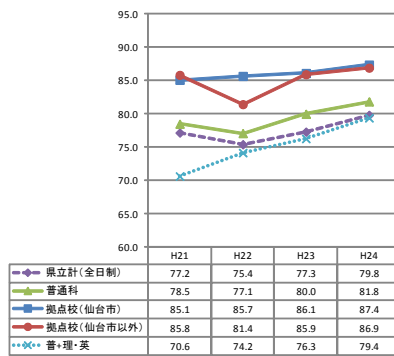
③「部活動は活発に行われている」(部活動) 肯定的評価の割合 (%)



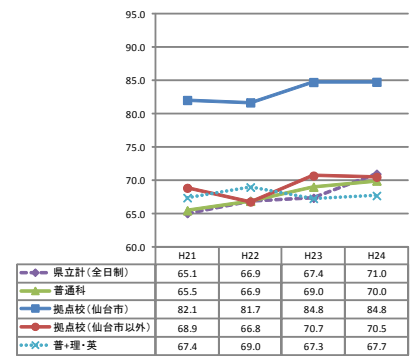
④「生徒会活動は活発に行われている」(生徒会活動) 肯定的評価の割合 (%)



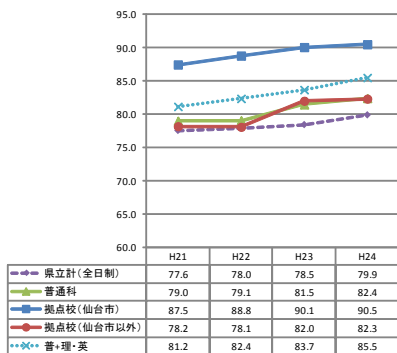
⑤「有意義な学校行事がある」(学校行事) 肯定的評価の割合 (%)



⑥「地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる」(特色ある学校づくり) 肯定的評価の割合 (%)



⑦「学校生活は充実している」(総合満足度) 肯定的評価の割合 (%)



(資料) 宮城県教育庁調べ

(4) 情報発信の状況

① 関連するデータの状況

- 全県一学区化の実施に当たっては、生徒が適切に学校選択できる環境の整備の充実を図ることが必要とされていましたが、現地調査の結果、多くの学校で中学校の訪問等を通して、授業内容、部活動、高校卒業後の進路等を中心に情報提供が行われていました。【表 6】(p.21)
- オープンキャンパスの状況としては、仙台市にある学校ではオープンキャンパスが 2 日間開催されている学校が多く、仙台市以外にある学校と比べて参加者数も多くなっています。また、多くの学校でオープンキャンパスに参加した中学生の評価・満足度を把握しており、中学生の評価としては、「8 割以上が肯定的評価している」学校が多くありました。【表 17】
- 全県一学区化に対応して中学校に対する情報発信の手段、内容、頻度等を変更した学校は現地調査対象校の半数程度となっており、変更した内容としては、「中学校の訪問地域を拡大した」、「学校だより等の配布地域の拡大や定期便化を行った」などとなっています。【表 18】
- 次に、オープンキャンパスにおける情報提供の中学校の評価（教員）を見ると、全ての地区で8割以上が肯定的な評価となっています。【図 9】
- また、県立高校からの情報提供に関する中学校の評価（教員）は、県全体では 84.1%が肯定的に評価していますが、中部（亘理名取）地区、中部（仙台南・仙台北）地区及び東部（本吉）地区の肯定的評価の割合は、他の地区に比べやや低くなっています。【図 5】(p.21)

② 成果及び課題等

- 県立高校のオープンキャンパスにおける情報提供については、概ね中学校の評価は高く、適切な情報が提供されていると言えます。
- 一方、高校から中学校への情報提供は、中学校の訪問等、様々な手段を通じて行われていますが、高校からの情報提供に対する中学校の評価が、相対的に低い地域も見られました。また、そのような地域では、高校の特色づくりに関して「わからない」又は「進んでいない」という評価が高くなる傾向が見られます。
- 各学校においては、高校の魅力ある学校づくりや特色ある学校づくりが進められてきていますが、そのような高校における取組が中学校や地域等から見える形で発信されることが重要であり、中学校でどのような情報を必要としているかを把握するなど、ニーズに対応した的確な情報発信の充実が求められます。

【表 17】 県立高校におけるオープンキャンパスの状況

平成24年度に開催したオープンキャンパスの開催日数及び参加者数について御記入ください。			
選択肢	平均値		
	対象校	仙台市	仙台市以外
①開催日数(日)	1.3	1.6	1.1
②参加者数(人)	821.4	1,119.6	495.4

オープンキャンパスに参加した中学生の評価・満足度を把握していますか。			
選択肢	回答数		
	対象校	仙台市	仙台市以外
①把握している	16	7	9
②把握していない	3	1	2
学校数	19	8	11

【「1. 把握している」と回答した場合】中学生の評価・満足度の状況は、どのような状況ですか。			
選択肢	回答数		
	対象校	仙台市	仙台市以外
①8割以上が肯定的	15	7	8
②6～7割が肯定的	1	0	1
③肯定と否定がほぼ同数	0	0	0
④6割以上が否定的	0	0	0
学校数	16	7	9

(資料) 高校教育改革検証部会現地調査事前アンケート(平成24年12月～平成25年11月)

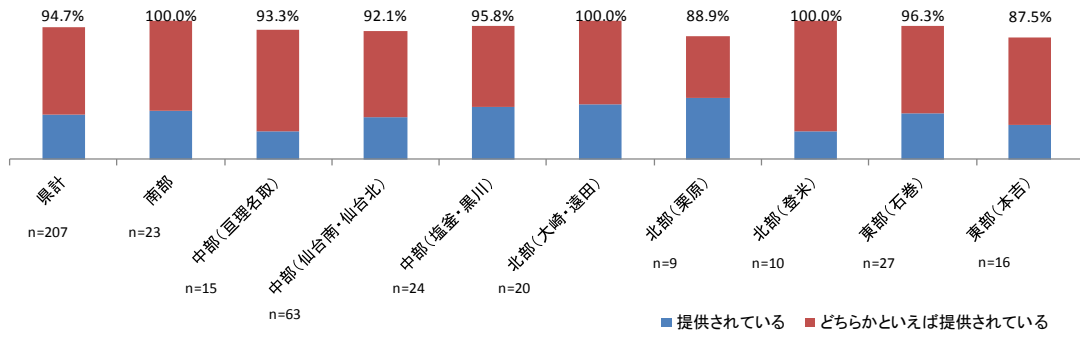
【表 18】 全県一学区化に対応した情報発信の変更状況

全県一学区化に対応して、中学校等に対する情報発信の手段、内容、頻度等を変更しましたか。			
選択肢	回答数		
	対象校	仙台市	仙台市以外
①変更した	10	5	5
②変更しない	9	3	6
学校数	19	8	11

【「1. 変更した」と回答した場合】どのように変更しましたか。
<p>主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問地域を拡大した。 ・学校だより等の配布地域の拡大や定期便化を行った。等

(資料) 高校教育改革検証部会現地調査事前アンケート(平成24年12月～平成25年11月)

【図9】 県立高校のオープンキャンパスにおける情報提供に関する中学校の評価



(備考)

・質問項目は「県立高校で実施されているオープンキャンパスでは、生徒が進学希望校を選択するうえで必要となる情報が提供されていると思いますか」
 ・回答選択肢は「①提供されている、②どちらかといえば提供されている、③どちらかといえば提供されていない、④提供されていない、⑤わからない」。内、①+②を肯定的評価として集計。

(資料)「男女共学化」及び「全県一学区化」の検証に係る中学校へのアンケート(平成24年11月)

4 「男女共学化」及び「全県一学区化」の実施による効果の検証

- 「男女共学化」及び「全県一学区化」の実施によって、県立高校将来構想が目指す人づくりがなされているのかという施策の最終的な効果の評価をすることも重要となりますが、こうした評価は長期的な視点が必要であることに加え、数値のみにより測定することは困難であることから、中間的な効果の評価として、主に収集可能な次のデータについて、検証の視点及び検証のチェックポイントに基づき整理して年次推移を確認しました。

【収集データ】

・不登校率	・みやぎ学力状況調査質問紙
・中途退学率	(学習意識調査)
・進路希望の状況	・みやぎ学力状況調査質問紙
・進路の状況	(生活・「志教育」に関する意識調査)

- なお、みやぎ学力状況調査質問紙のうち、生活・「志教育」に関する意識調査については、平成24年度から始めた調査のため、主に平成24年度と平成25年度の2年分のデータから可能な範囲で現状を把握しました。

(1) 中間的な効果の評価について

① 関連するデータの状況

- 男女共学化及び全県一学区化の施策の実施前後の不登校率及び中途退学率の変化を分析しました。【表18】
- 男女共学化については、全ての学校で共学化が完成した平成24年度と共学化実施前の平成14年度を比較しましたが、不登校率及び中途退学率ともに大きな変化は見られませんでした。
- 全県一学区化については、全県一学区化前と全県一学区化後の前後3年間の平均を比較しましたが、ここでも大きな変化は見られませんでした。
- 次に、高校1年生の進路希望及び進路の状況について、学校のタイプ別に経年変化を分析しました。【表19】
- 県全体としては、進路希望及び進路の構成比は概ね横ばいで推移していますが、全ての学校のタイプで、進路希望において「①4年制大学」の割合が増加傾向となっており、同様に、進路状況も「①4年制大学」の割合が増加傾向となっています。
- また、ほとんどの学校のタイプで、進路希望において「⑤未定」と回答する割合がやや減少傾向となっており、進路状況では「⑤その他(受験準備含)」がやや減少傾向となっています。

- 続いて、みやぎ学力状況調査の質問紙から、生徒の学習意識や生活・「志教育」に関する意識の状況を見ました。【表 20】
- 全体的な傾向として、1年生から2年生へと学年が進行すると、肯定的回答がやや低下する傾向があります。
- 「②自分の役割に責任を持って行動している」、「③仲間と力を合わせて活動しようとしている」、「⑤相手の言葉や意見に耳を傾けるようにしている」、「⑥校則や公共のルール・マナーを守っている」及び「⑨人の役に立つ人間になりたいと思っている」については、肯定的回答の割合が85%以上であり、かつ、年度別に比較すると平成24年度に比べ平成25年度がやや高くなっています。
- 「授業が分かると回答する割合」や「平日2時間以上学習する生徒の割合」は、平成23年度以前のデータがありますが、高校1年生におけるその割合は平成22年度以降高くなっています。
- 一方で、県教育委員会では学力向上に向けて、「授業が分かると回答する割合（高校2年生）」を50.0%、「平日2時間以上学習する生徒の割合（高校2年生）」を30.0%と目標設定していますが、平成25年度においては、「授業が分かると回答する割合（高校2年生）」46.6%、「平日2時間以上学習する生徒の割合（高校2年生）」12.4%となっています。

② 成果及び課題等

- 男女共学化及び全県一学区化の前後で不登校率及び中途退学率については、大きな変化がなかったことから、各施策の実施により全体としては大きな弊害や課題は生じていないと言えますが、各学校及び教育委員会においては、引き続き、不登校や中途退学を生まないための魅力ある学校づくりや不登校生徒等に対するきめ細かで柔軟な対応が求められます。
- 高校1年生の進路希望及び進路の状況からは、進路希望において「⑤未定」と回答する割合がやや減少傾向にあり、より多くの生徒が、高校卒業後の進路について目標を持つようになってきていることがうかがえます。
- また、「②自分の役割に責任を持って行動している」、「③仲間と力を合わせて活動しようとしている」、「⑤相手の言葉や意見に耳を傾けるようにしている」、「⑥校則や公共のルール・マナーを守っている」及び「⑨人の役に立つ人間になりたいと思っている」など「自律的に行動できる姿勢の育成」や「人間関係の構築」、「規範意識の育成」、「進路・将来に対する意欲の育成」につながる項目で肯定的回答の割合が高くなっており、社会を構成する一員として、人との関わりの中で共に生きていくための姿勢・態度等が、多くの生徒において養われつつあると言えます。
- 一方で、学力の定着に関しては、県教育委員会を設定した目標値を一つの目安として、教員の教科指導力の向上や学習習慣や学習意欲の形成等に向けた取組をさらに教育委員会と学校が連携しながら充実させていくことが重要です。

【表 18】不登校率及び中途退学率

	学校のタイプ	H14年度 (%)	H24年度 (%)	増減 (ポイント)
不登校	共学化校	1.17	0.98	▲ 0.19
	統合校	1.05	1.20	0.15
	男子校から	1.59	0.84	▲ 0.75
	女子校から	0.89	0.94	0.05
	県立(全日制)	1.38	1.54	0.16
中途退学	共学化校	0.64	0.53	▲ 0.12
	統合校	0.95	0.64	▲ 0.31
	男子校から	0.56	0.56	▲ 0.00
	女子校から	0.34	0.38	0.04
	県立(全日制)	1.36	1.34	▲ 0.02

	学校のタイプ	H19～21年度 平均(%)	H22～24年度 平均(%)	増減 (ポイント)
不登校	県立(全日制)	1.31	1.42	0.11
中途退学	県立(全日制)	1.50	1.34	▲ 0.17

(備考)

・不登校率・中退率ともに、在学者比(%)

・「不登校者」とは、年度間に連続又は断続して30日以上欠席した生徒のうち不登校を理由とする者をいう。

・「不登校」とは、不登校とは、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にあること(病気や経済的理由による者を除く。)をいう。

(資料)児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(文部科学省)、宮城県教育庁調べ

【表 19】進路希望及び進路の状況

■進路希望の状況(高校1年生)

(1) 公立高校全日制

進路希望	H20	H21	H22	H23	H24	H25
①4年制大学	45.3%	46.7%	47.9%	46.7%	47.0%	47.7%
②短期大学	3.7%	3.3%	3.6%	3.0%	3.2%	3.2%
③専修学校・各種学校	15.5%	15.6%	15.9%	16.4%	16.1%	15.1%
④就職	19.2%	19.5%	19.1%	20.8%	20.0%	20.2%
⑤未定	13.4%	13.0%	11.9%	11.7%	12.4%	12.2%
⑥その他	1.9%	1.6%	1.5%	1.2%	1.4%	1.3%
⑦無回答	1.0%	0.1%	0.1%	0.2%	0.0%	0.3%

(2) 統合による共学化校

進路希望	H20	H21	H22	H23	H24	H25
①4年制大学	49.5%	53.6%	54.3%	51.2%	50.6%	53.0%
②短期大学	4.8%	3.5%	4.1%	4.7%	4.6%	4.7%
③専修学校・各種学校	15.1%	14.4%	15.0%	16.0%	20.4%	15.3%
④就職	11.9%	12.9%	11.7%	15.7%	13.8%	16.3%
⑤未定	13.9%	11.8%	11.2%	11.2%	10.0%	9.9%
⑥その他	3.4%	3.6%	3.4%	0.9%	0.6%	0.8%
⑦無回答	1.5%	0.2%	0.2%	0.4%	0.0%	0.1%

(3) 男子校からの共学化校

進路希望	H20	H21	H22	H23	H24	H25
①4年制大学	82.3%	83.7%	84.3%	82.9%	83.9%	83.0%
②短期大学	0.4%	0.6%	0.3%	0.4%	0.8%	0.6%
③専修学校・各種学校	4.3%	4.3%	4.5%	3.7%	3.9%	4.6%
④就職	5.4%	4.6%	4.3%	6.6%	5.8%	4.0%
⑤未定	5.8%	5.7%	5.1%	4.7%	4.8%	6.6%
⑥その他	1.6%	0.9%	1.4%	1.6%	0.8%	1.1%
⑦無回答	0.2%	0.1%	0.2%	0.1%	0.0%	0.1%

(4) 女子校からの共学化校

進路希望	H20	H21	H22	H23	H24	H25
①4年制大学	79.2%	77.3%	82.6%	80.5%	83.5%	84.5%
②短期大学	1.9%	2.7%	1.3%	1.8%	1.6%	1.2%
③専修学校・各種学校	7.6%	7.6%	8.1%	7.9%	6.1%	4.7%
④就職	2.4%	2.4%	2.4%	1.5%	1.7%	3.4%
⑤未定	7.8%	9.2%	4.6%	7.2%	6.0%	4.8%
⑥その他	1.0%	0.9%	0.5%	1.0%	1.1%	1.2%
⑦無回答	0.2%	0.0%	0.6%	0.1%	0.0%	0.2%

(5) 進路指導拠点校(仙台市)

進路希望	H20	H21	H22	H23	H24	H25
①4年制大学	93.6%	94.0%	94.6%	95.4%	95.1%	94.5%
②短期大学	0.0%	0.1%	0.2%	0.1%	0.2%	0.0%
③専修学校・各種学校	0.9%	0.9%	1.0%	0.7%	0.7%	0.9%
④就職	0.4%	0.2%	0.2%	0.2%	0.5%	0.0%
⑤未定	3.8%	4.3%	2.8%	2.4%	2.7%	3.5%
⑥その他	1.3%	0.6%	0.6%	1.2%	0.8%	0.9%
⑦無回答	0.1%	0.1%	0.6%	0.0%	0.0%	0.2%

(6) 進路指導拠点校(仙台市以外)

進路希望	H20	H21	H22	H23	H24	H25
①4年制大学	69.7%	71.8%	72.2%	68.5%	70.2%	69.7%
②短期大学	2.8%	2.7%	1.9%	2.3%	2.7%	2.7%
③専修学校・各種学校	10.5%	8.6%	9.2%	10.0%	11.4%	8.9%
④就職	4.3%	4.6%	5.2%	6.8%	5.1%	8.2%
⑤未定	9.3%	9.5%	8.7%	10.9%	9.8%	9.3%
⑥その他	2.4%	2.7%	2.6%	1.2%	0.9%	1.1%
⑦無回答	1.0%	0.1%	0.2%	0.3%	0.0%	0.1%

(資料)宮城県教育庁調べ

■進路の状況

進路	H20 (H21.3)	H21 (H22.3)	H22 (H23.3)	H23 (H24.3)	H24 (H25.3)
①4年制大学	39.8%	41.8%	40.2%	42.0%	42.0%
②短期大学	3.7%	3.3%	3.0%	2.9%	3.6%
③専修学校・各種学校	18.8%	20.9%	21.8%	21.3%	20.2%
④就職	26.6%	22.9%	22.8%	25.1%	25.7%
⑤その他(受験準備含)	11.1%	11.2%	12.2%	8.7%	8.5%

進路	H20 (H21.3)	H21 (H22.3)	H22 (H23.3)	H23 (H24.3)	H24 (H25.3)
①4年制大学	46.0%	46.1%	43.3%	47.1%	48.4%
②短期大学	4.8%	4.8%	4.6%	3.8%	5.1%
③専修学校・各種学校	24.7%	26.2%	28.4%	26.5%	27.7%
④就職	16.6%	15.7%	14.6%	15.8%	13.6%
⑤その他(受験準備含)	7.8%	7.2%	9.0%	6.7%	5.2%

進路	H20 (H21.3)	H21 (H22.3)	H22 (H23.3)	H23 (H24.3)	H24 (H25.3)
①4年制大学	54.6%	60.7%	59.0%	60.5%	62.5%
②短期大学	0.9%	1.0%	0.4%	0.5%	0.8%
③専修学校・各種学校	5.5%	6.0%	4.1%	7.4%	5.8%
④就職	6.3%	5.7%	5.6%	5.5%	5.3%
⑤その他(受験準備含)	32.7%	26.5%	30.8%	26.0%	25.7%

進路	H20 (H21.3)	H21 (H22.3)	H22 (H23.3)	H23 (H24.3)	H24 (H25.3)
①4年制大学	61.3%	64.1%	63.9%	65.8%	65.2%
②短期大学	4.4%	2.5%	1.9%	2.4%	2.8%
③専修学校・各種学校	13.5%	14.2%	19.0%	15.3%	13.7%
④就職	4.8%	3.1%	3.6%	2.3%	3.2%
⑤その他(受験準備含)	16.0%	16.1%	11.5%	14.1%	15.1%

進路	H20 (H21.3)	H21 (H22.3)	H22 (H23.3)	H23 (H24.3)	H24 (H25.3)
①4年制大学	59.4%	65.7%	62.9%	63.7%	67.0%
②短期大学	0.1%	0.0%	0.2%	0.5%	0.4%
③専修学校・各種学校	2.0%	1.8%	4.8%	2.3%	1.4%
④就職	0.3%	0.4%	0.6%	0.6%	0.4%
⑤その他(受験準備含)	38.1%	32.2%	31.6%	33.0%	30.7%

進路	H20 (H21.3)	H21 (H22.3)	H22 (H23.3)	H23 (H24.3)	H24 (H25.3)
①4年制大学	61.5%	61.3%	60.3%	63.6%	64.0%
②短期大学	4.7%	4.0%	2.8%	3.0%	3.8%
③専修学校・各種学校	18.4%	19.7%	21.8%	20.0%	18.6%
④就職	7.4%	6.1%	6.3%	5.8%	6.4%
⑤その他(受験準備含)	8.0%	9.0%	8.8%	7.6%	7.2%

【表 20】みやぎ学力状況調査質問紙

みやぎ学力状況調査質問紙 質問項目	学年	県全体	
		肯定的回答の割合(%)	
		H24年度	H25年度
①朝食を毎日とる生徒の割合 ※1	1学年	90.6	90.4
	2学年	87.9	87.1
②自分の役割に責任を持って行動している	1学年	87.2	88.0
	2学年	85.9	86.6
③仲間と力を合わせて活動しようとしている	1学年	90.3	90.3
	2学年	87.9	88.2
④自分の考えを相手に的確に伝えている	1学年	67.1	68.5
	2学年	64.0	65.7
⑤相手の言葉や意見に耳を傾けるようにしている	1学年	94.6	95.3
	2学年	93.9	94.6
⑥校則や公共のルール・マナーを守っている	1学年	92.5	93.2
	2学年	89.8	91.0
⑦授業が分かると回答する割合 ※2	1学年	50.1	49.0
	2学年	44.3	46.6
⑧平日2時間以上学習する生徒の割合 ※3	1学年	17.7	17.0
	2学年	12.8	12.4
⑨人の役に立つ人間になりたいと思っている	1学年	89.2	89.6
	2学年	87.2	88.9
⑩ボランティア活動や地域の活動に進んで参加している	1学年	26.9	26.3
	2学年	22.7	22.8

(備考)

※1 質問項目は「学校に行く前に朝食をとりますか」。回答選択肢「①必ずとる、②たいていとる、③とらないことが多い、④全く、または、ほとんどとらない」の内、①+②を集計。

※2 質問項目は「学校の授業の内容がどの程度理解できますか」。回答選択肢「①ほとんどの授業がよく理解できる、②理解できる授業のほうが多い、③理解できる授業と理解できない授業が半分くらいずつある、④理解できない授業のほうが多い、⑤ほとんどの授業が理解できない」の内、①+②を集計。

※3 質問項目は「平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)」

※4 上記※1～3以外については、回答選択肢「①当てはまる、②どちらかと言えば当てはまる、③どちらかと言えば当てはまらない、④当てはまらない」の内、①+②を集計。

(資料)宮城県教育庁調べ

※参考

項目	学年	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
朝食を毎日とる生徒の割合	1学年	90.2	90.8	91.1	90.6	90.4
	2学年	87.8	88.7	88.9	87.9	87.1
授業が分かると回答する割合	1学年	45.1	48.2	50.1	50.1	49.0
	2学年	44.9	43.3	45.0	44.3	46.6
平日2時間以上学習する生徒の割合	1学年	14.5	17.9	18.1	17.7	17.0
	2学年	13.5	13.0	14.4	12.8	12.4
平日2時間以上テレビ・ビデオを視聴する生徒の割合	1学年	50.8	41.9	40.5	39.7	36.1
	2学年	50.0	44.1	41.4	43.1	38.7
平日2時間以上ゲームやパソコンをする生徒の割合	1学年	18.4	15.6	21.1	23.5	27.3
	2学年	19.3	17.1	23.0	28.4	31.2

(2) 最終的な効果の評価

- 平成 13 年 3 月に策定された「県立高校将来構想」では「主体的に考え生きる人づくり」、「人々と支え合い生きる人づくり」、「地球社会を生きる人づくり」を目標に、「変化の激しい、モデルなき時代において、生涯にわたって学び続ける意欲の育成」や「多様な価値を認め合う時代において、ゆたかな創造性と自己責任倫理の育成」、また、「人間と自然の融合を測る時代において、広い視野と寛容性の育成」を目指していました。
- さらに、平成 22 年 3 月に策定された「新県立高校将来構想」では、宮城県における人づくりの方向性として、「主体的に生き抜く力の育成」や「人と関わる力の育成」を掲げています。
- 「主体的に生き抜く力の育成」としては、国際化、情報化がますます進展し、知識が社会を動かす重要な基盤になっていく時代においては、「基礎となる知識や技能を確実に身に付けること」、「基礎的知識・技能を活用していく力を着実に修得すること」が必要であり、その上で、「周囲の環境や社会動向を的確に把握しながら、自ら果たすべき役割を認識し、主体性をもって自律的に行動できる姿勢の育成」など時代を生き抜いていく力の育成を目指しています。
- また、「人と関わる力の育成」としては、「自分の意見を的確に伝え、意見や立場が異なる人を尊重しながら、目標に向けて人と協力できるコミュニケーション能力」や「能動的に人との関係を築いていく力」、さらには「協調性、柔軟性」などの育成を目指しています。
- このような「県立高校将来構想」及び「新県立高校将来構想」が目指す人づくりがなされているかという評価は重要ですが、短期的にできるものではなく、高校卒業後の 20 年後や 30 年後といった長期的な視点が必要であり、かつ、数値化されたデータだけでは判断できるものではないことから、卒業後の人や社会との関わりの中で総合的に評価されるべきと考えます。
- 一方で、各種の高校教育改革を着実に推進していくためには、適正な進行管理は不可欠であり、常に生徒が置かれた状況等の変化を捉えながら、各種施策の成果や有効性、効率性などを評価していくことが必要となりますが、その際、「県立高校将来構想が目指す人づくりがなされているか」を念頭に置いた上で、評価を行うことが重要です。

第5章 宮城県の高次教育のさらなる充実に向けて

- 「男女共学化」及び「全県一学区化」は宮城県高次教育の基本的な制度・枠組みを変更するものであって生徒や保護者に与える影響が大きいものであり、これらの施策の有効性や合理性を把握し、成果の把握又は課題の抽出へと繋げていくためには、中長期的な視点から継続してデータ分析を行うことが必要であることから、第2期審議会から継続して検証を進めてきました。
- データ分析や現地調査の結果、全体としては、学校生活において男女が共に学び、理解し、成長し合う場が設けられ、また、学校の選択幅が拡大するなど、当初の目的に沿った制度運営が図られていました。
- このことから、すべての県立高校が男女共学化し、また、全県一学区化が実施されてから3年以上が経過しますが、概ね安定した教育活動が行われており、大きな弊害や課題は生じていないと言えます。
- その上で、現段階における現状に基づき、今後の宮城県の高次教育のさらなる充実に向けた方向性をまとめました。

1 「男女共学化」について

(1) 男女比について

- 生徒の男女比については、その学校の特色と把握することもでき、学校の特色という中では、全ての学校で一律に男女比が同等になる必要は必ずしもないと考えられます。
- ただし、男女比等の影響により、生徒が伸び伸びと高校生活を送るのに支障が出るような場合には、男女共学化の目的の一つであった「男女が共に学び、理解し、成長し合う場を日常的に設ける」ということを達成するためにも、各学校及び教育委員会においては、個別にその要因等を分析し、対応策を講じる必要があります。
- そのため、教育委員会においては、今後も「生徒の男女比」等のデータを継続的に収集し、その推移を見極めるとともに、学校運営の状況を定期的に確認するなどのことが求められます。

(2) 教育環境の充実

- 男子校と女子校の統合により両校の校地・校舎を使用している学校では、校舎間の移動や学校の一体感の醸成などにおいて生徒や教員の負担が大きくなっていることから、教育委員会においては、負担軽減に繋がる対応が求められます。

- また、比較的施設等が狭隘な女子校からの共学化校では、「施設面での制約が多く部活動の新設には限界がある」などの意見が多くありました。しかしながら、各学校においては、工夫をしながら部活動等の充実に取り組む学校を参考にするなど、既存の施設においても、生徒と学校がアイデアを出し、話し合いながら、部活動の在り方や施設の有効な活用について考えていくことが必要です。今後は、従来のイメージにとらわれず、学校の実態に応じながら運営上の工夫を行うことが期待されます。
- 併せて、学校によっては、共学化前の校地・校舎等を引き続き活用していますが、教育委員会においては、今後、男女共学化後の状況を踏まえた上で、教育環境の整備を改めて検討していく必要があります。
- 教育環境の充実については、ハードとソフトの両面において、男女比にかかわらず生徒が伸び伸びと充実した学校生活を送れるような環境づくりを一層進めていくことが重要です。

2 「全県一学区化」について

(1) 地域における高校教育の質の確保

- 全県一学区化による学校の選択肢の拡大と同時に、学校ごとの特色づくりが重要であり、少子化が進行する中で、学校規模の縮小などが懸念されますが、県内のどの地域においても生徒が確かな学力を身に付け、進路希望を達成できるような施策の展開と指導の充実が必要となります。
- 地域の進路指導拠点校では、それぞれ学力向上の取組等を実施していますが、教育委員会のさらなる支援が必要であり、校内指導体制の充実と授業力向上のための支援策として行っている事業の一層の充実が求められます。

(2) 継続的なデータの収集・分析

- 教育委員会においては、引き続き「地区間の流出入の状況」等のデータを収集し、長期的な推移を見極める必要があります。
- その際、特定の地区・学校への志願者の集中や生徒の流出に伴う学力の低下など、全県一学区化の実施に当たって懸念された事項が生じていないか確認するとともに、少子化や東日本大震災等の影響も考慮した上で、教育機会の不均等や学力の地域間格差の問題が生じていないかについても継続して点検していくことが必要です。

3 高校教育の充実に向けて

(1) 学校の特色づくりと情報発信の充実

- 各学校においては、「男女共学化」及び「全県一学区化」の実施により学校の選択肢が拡大されたことに併せ、高校の魅力ある学校づくりや特色ある学校づくりが進められてきましたが、特色づくりに当たっては、それぞれの生徒が個性や能力を発揮できる場を設けるなど、生徒が伸び伸びと充実した学校生活を送れるような学校経営を一層進めていくとともに、入学する生徒層や、東日本大震災からの復興を目指す地域における各学校の役割に応じた指導や取組が求められます。
- さらに、そのような高校における取組が中学校や地域等から見える形で発信されることが重要であり、生徒がより適切に学校を選択できるようにするため、高校から生徒・保護者・中学校に対して、的確な情報発信の充実が求められます。

(2) 県立高校将来構想が目指す人づくりに向けた連携の充実

- 県立高校将来構想が目指す「主体的に生き抜く力」や「人と関わる力」を育成していくためには、基礎基本となる知識の定着や人間関係を構築する力の育成が必要であることから、教員の教科指導力の向上や学習習慣・学習意欲の形成等に向けた取組、さらには学校生活を通して自主性や協調性を育成することが重要となります。
- こうした取組を充実させるためには、学校と教育委員会の連携はもとより、校種間、あるいは、地域社会や産業界などと連携していくことが求められます。

(3) 継続的な検証システムの構築

- 教育委員会においては、「男女共学化」及び「全県一学区化」について、本検証により確立したデータ分析の手法を活用し、今後も継続的に現状の把握を行うことが重要ですが、時代や社会の変化を的確に捉えた検証を行うために、収集するデータについても点検し、その改善や整理を行うことが必要です。
- また、検証の結果、課題が抽出された場合には、その解決の方向性を検討することが重要ですが、併せて、学校現場において「男女共学化」及び「全県一学区化」など施策の実施に伴う問題点を認識した際には、速やかに改善措置を講じる必要があります。教育委員会は各学校における課題解決に向けた取組を適切に支援する必要があります。

< 資 料 編 >

- (1) 評価指標一覧
- (2) 高校教育改革検証部会現地調査対象校の学校の特色づくりの状況
- (3) 一般入試出願倍率（平成 21 年度から 25 年度まで）
- (4) 地区別の公立高校（全日制課程）への進学状況
- (5) 公立高校における出身中学校地区別割合
- (6) 第 2 期県立高等学校将来構想審議会への教育委員会の諮問文
- (7) 第 3 期県立高等学校将来構想審議会への教育委員会の諮問文
- (8) 第 2 期県立高等学校将来構想審議会委員名簿
- (9) 第 3 期県立高等学校将来構想審議会委員名簿
- (10) 「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する検証の経過（第 2 期）
- (11) 「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する検証の経過（第 3 期）

(1) 評価指標一覧

1 男女共学化に関する施策プロセスの検証

(1) 男女共学化の当初の目的は何だったか。

施策の目的
<ul style="list-style-type: none"> ・県民の負担で設置されている公立高校において性差による入学制限を撤廃する。 ・高校生という多感な時期に、男女が共に学び、理解し、成長し合う場を日常的に設ける。
出典：県立高校将来構想（平成13年3月）

(2) 男女共学化の実施に向けて、教育庁及び各学校において必要な準備が行われたか。

検証の項目	検証のチェックポイント	検証データ		
		教育庁の取組	学校の取組	生徒の状況
・施策目的を達成するための体制・仕組みが整備されたか。	・共学化に向けた施設・設備等の整備は適切だったか。	○施設整備の状況 ○共学準備校への支援の状況	○校歌・校旗の整備状況	○学校施設・設備に対する生徒の満足度
	・共学化に向けた教育目標・教育計画の検討は適切だったか。	○共学準備校への支援の状況	○共学後の教育目標・教育計画の検討状況	
	・共学化に向けた指導体制の整備は適切だったか。	○共学準備校への支援の状況	○共学化に向けた職員研修の実施状況 ○共学化に向けた校則の整備状況	○中途退学率、不登校率 ○いじめの件数 ○中途退学及び不登校の理由 ○教育相談件数
	・共学化に向けた教育相談の体制の整備は適切だったか。	○教育相談の体制整備の状況		○教育相談に対する生徒の満足度
・施策目的を達成するための手段が講じられたか。	・生徒の学校選択のために十分な情報が提供されたか。	○生徒・保護者・中学校指導担当への周知状況	○オープンキャンパスの実績 ○中学校指導担当への周知状況	○オープンキャンパスへの参加の有無・満足度 ○県教委・高校・中学校からの情報提供に対する満足度

(3) 男女共学化の実施後、教育庁及び各学校において必要な取組が行われているか。

検証の項目	検証のチェックポイント	検証データ		
		教育庁の取組	学校の取組	生徒の状況
・施策目的を達成するための体制・仕組みが整備されているか。	・共学化に対応した教育目標・教育計画が策定されているか。	○共学化校への支援の状況	○教育目標の内容、策定方法 ○教育計画の内容、策定方法 ○学校の特色づくりの状況	
	・共学化に対応した指導体制が整備されているか。	○教員の男女比	○（共学化により生徒層の変化があった場合）その対応状況	○進路希望の状況 ○進路の状況 ○学力テストの成績 ○授業、進路指導に対する満足度
	・教育相談の体制は整備されているか。	○教育相談の体制整備の状況（再）		○教育相談に対する生徒の満足度（再）
・施策目的を達成するための手段が講じられているか。	・男女が共に学び、理解し、成長し合う場が日常的に設けられているか。		○クラス編製の状況	
	・男女が共に学ぶ環境を生かした取組が実施されているか。		○学校行事の実施状況 ○部活動の実施状況 ○進路指導の実施状況	○授業・進路指導に対する生徒の満足度（再） ○学校行事、部活動、生徒会活動に対する生徒の満足度（男女別）
・上記の取組において生じた課題が適切に見出され、対応されているか。	・生徒の学校選択のために十分な情報が提供されているか。	○生徒・保護者・中学校指導担当への周知状況（再）	○オープンキャンパスの実績（再） ○中学校指導担当への周知状況（再）	○オープンキャンパスへの参加の有無・満足度（再） ○県教委・高校・中学校からの情報提供に対する満足度（再）
	・PDCAサイクルによる学校経営を行うための制度・体制が整備されているか。	○各学校の改善措置に対する支援の状況	○学校運営及び教育活動の点検・改善を目的とした制度・実施体制の整備状況	
	・学校の教育活動において、上記の制度・仕組みが有効に活用されているか。	○各学校の改善措置に対する支援の状況	○教育活動の点検・改善の実施状況	

(4) 上記(2)(3)の実施により、施策の当初の目的は達成されているか。教育活動において弊害は生じていないか。

検証の項目	検証のチェックポイント	検証データ		
		教育庁の取組	学校の取組	生徒の状況
・生徒の学校選択の機会は拡大しているか。	・性差を問わず学校の門戸が開かれているか。	○共学化の実施状況		○生徒数（男女構成比） ○一般入試出願倍率
・男女が共に学び、理解し、成長し合う教育活動が行われているか。弊害は生じていないか。	・学校の特色づくりは進んでいるか。		○学校の特色づくりの状況（再）	○学校の特色づくりに対する生徒の満足度
	・学習面での制約はないか。		○性別を理由とした科目選択の制限の有無	○授業・進路指導に対する生徒の満足度（再）
	・学校行事、部活動、生徒会活動等における制約はないか。		○男女別部活動数	○部活動参加者数（男女別） ○生徒会役員、学級委員、部活動部長の男女比 ○学校行事、部活動、生徒会活動に対する生徒の満足度（再）
	・学校適応、生徒指導上の弊害は生じていないか。			○中途退学率、不登校率（再） ○いじめの件数（再） ○中途退学及び不登校の理由（再）
	・共学後の伝統・校風に対する生徒の不満はないか。			○学校行事に対する生徒の満足度（再） ○学校の特色づくりに対する生徒の満足度（再）

2. 全県一学区化に関する施策プロセスの検証

(1) 全県一学区化の当初の目的は何だったのか。

施策の目的
・生徒の学校選択の機会を拡大する。
出典: 県立高等学校通学区域見直し方針(平成19年3月)

(2) 全県一学区化の実施に向けて、教育庁及び各学校において必要な準備が行われたか。

検証の項目	検証のチェックポイント	検証データ		
		教育庁の取組	学校の取組	生徒の状況
・施策目的を達成するための体制・仕組みが整備されたか。	・全県一学区化に向けた教育目標・教育計画の検討は適切だったか。	○各校への支援の状況	○一学化後の教育目標・教育計画の検討状況	○授業・進路指導に対する生徒の満足度 ○学力テストの成績 ○進路希望の状況
	・全県一学区化に向けた指導体制の整備は適切だったか。	○各校への支援の状況	○各地域の進路指導拠点校の学力向上に向けた取組の実施状況	
・施策目的を達成するための手段が講じられたか。	・生徒の学校選択のために十分な情報が提供されたか。	○各校への支援の状況 ○生徒・保護者・中学校指導担当への周知状況	○オープンキャンパスの実績 ○中学校指導担当への周知状況	○オープンキャンパスへの参加の有無・満足度 ○県教委・高校・中学校からの情報提供に対する満足度

(3) 全県一学区化の実施後、教育庁及び各学校において必要な取組が行われているか。

検証の項目	検証のチェックポイント	検証データ		
		教育庁の取組	学校の取組	生徒の状況
・施策目的を達成するための体制・仕組みが整備されているか。	・各校の特色づくりが進められているか。	○各校への支援施策の状況(再)	○教育目標・教育計画の内容、策定方法 ○カリキュラムの編成状況 ○学校の特色づくりの状況 ○地方拠点校における進学指導の状況	○一般入試出願倍率 ○授業・進路指導に対する生徒の満足度(再) ○学力テストの成績(再) ○進路希望の状況(再) ○地方拠点校における国公立大学への進学達成率
・施策目的を達成するための手段が講じられているか。	・生徒の学校選択のために十分な情報が提供されているか。	○制度変更の周知状況 ○各校への支援施策の状況(再) ○生徒・保護者・中学校指導担当への周知状況(再)	○オープンキャンパスの実績(再) ○中学校指導担当への周知状況(再)	○オープンキャンパスへの参加の有無・満足度(再) ○県教委・高校・中学校からの情報提供に対する満足度(再)
・上記の取組において生じた課題が適切に見出され、対応されているか。	・PDCAサイクルによる学校経営を行うための制度・体制が整備されているか。	○各学校の改善措置に対する支援の状況	○学校運営及び教育活動の点検・改善を目的とした制度・実施体制の整備状況	
	・学校の教育活動において、上記の制度・仕組みが有効に活用されているか。	○各学校の改善措置に対する支援の状況	○教育活動の点検・改善の実施状況	

(4) 上記(2)(3)の実施により、施策の当初の目的は達成されているか。教育活動において弊害は生じていないか。

検証の項目	検証のチェックポイント	検証データ		
		教育庁の取組	学校の取組	生徒の状況
・生徒の学校選択の機会が広がっているか。	・学校の選択肢は拡大しているか。	○全県一学区化の実施状況		○生徒の地区間の移出入の状況
	・特定の地区・学校に志願が集中していないか。	○地区別の学科・学校の設置状況		○一般入試出願倍率
	・学校の特色づくりは進んでいるか。		○学校の特色づくりの状況(再)	○学校の特色づくりに対する生徒の満足度
・教育活動に弊害は生じていないか。	・学習面での制約はないか。		○各地域の進路指導拠点校の学力向上に向けた取組の実施状況(再)	○学力テストの成績(再) ○授業・進路指導に対する生徒の満足度(再) ○進路の状況 ○進路希望達成率
	・学校行事、部活動、生徒会活動等における制約はないか。			○部活動参加者数 ○部活動、生徒会活動に対する生徒の満足度 ○通学方法

3. 男女共学化・全県一学区化の実施による効果の検証

(1) 施策の実施によって、教育の質は確保されているか。(中間的な効果の評価)

検証のチェックポイント(現段階でのイメージ)	検証データ		
	教育庁の取組	学校の取組	生徒の状況
基本的な生活習慣が定着しているか。	○学校の取組に対する支援施策の実施状況	○生活指導の実施状況	○学校以外の時間の活動内容 ○遅刻、早退、欠席の状況 ○朝食を毎日とる生徒の割合
人間関係を構築し、協力し合えることができるか。		○グループ学習の実施状況 ○部活動、学校行事の実施状況 ○ホームルーム活動の実施状況	○部活動参加者数(再) ○自分の役割に責任を持って行動していると回答する生徒の割合 ○仲間と力を合わせて活動しようとしていると回答する生徒の割合 ○自分の考えを相手に的確に伝えていると回答する生徒の割合 ○相手の言葉や意見に耳を傾けるようにしていると回答する生徒の割合
規範意識が育成されているか。		○倫理・道徳に関する教育活動の実施状況 ○情報モラル、環境等に関する教育活動の実施状況	○特別指導件数・理由 ○いじめの件数(再) ○校則や公共のルール・マナーを守っていると回答する生徒の割合
学力が定着しているか。		○学力定着・向上に向けた取組の内容	○学習動機 ○授業が分かる割合と回答する生徒の割合 ○学力テストの成績(再) ○資格試験・技能検定試験の合格者数 ○平日2時間以上学習する生徒の割合
進路・将来に対する意欲が育成されているか。		○志教育の実施状況 ○職業教育の実施状況 ○進路指導の実施状況(再)	○進路希望の状況(再) ○進路達成意欲の状況 ○進路希望達成率 ○人の役に立つ人間になりたいと思っていると回答する生徒の割合
地域社会や国際社会に関わる意欲が育成されているか。		○学校外の教育資源の活用状況	○地域活動、ボランティア活動への参加状況 ○ボランティア活動や地域活動に進んで参加していると回答する生徒の割合
学校適応上の課題は生じていないか。			○中途退学率・不登校率(再)

(2) 県立高校将来構想が目指す人づくりがされているか。(最終的な効果の評価)

前構想 (H13~H22)	主体的に考え生きる人づくり	・変化の激しいモデルなき時代において、生涯にわたって学び続ける意欲を育成する。
	人々と支え合い生きる人づくり	・多様な価値観を認め合う時代において、ゆたかな創造性と自己責任倫理を育成する。
	地球社会を生きる人づくり	・人間と自然の融合を図る時代において、広い視野と寛容性を育成する。
現構想 (H23~H32)	主体的に生き抜く力の育成	・基礎となる知識や技能を定着させる。 ・基礎的知識・技能を活用していく力を習得させる。 ・自らが果たすべき役割を認識し、主体性をもって自律的に行動できる姿勢を育成する。
	人とかかわる力の育成	・自分の意見を的確に伝え、意見や立場の異なる人を尊重しながら、目標に向けて人と協力できるコミュニケーション能力を育成する。 ・能動的に人との関係を築いていく力を育成する。 ・協調性や柔軟性を育成する。

(2) 高校教育改革検証部会現地調査対象校の学校の特徴づくりの状況

学校名	1. 教育課程(教科指導、総合的な学習の時間等)	2. 学校行事・生徒会活動	3. 部活動	4. その他(PRポイント等)
白石	<p>○45分授業、週35コマの教育課程</p> <p>○進学重視型単位制の普通科では多くの選択科目を用意している。それぞれの生徒の興味・関心、能力・適性や将来の進路希望に応じると同時に、少人数での授業・習熟度別での授業を通じて、生徒一人ひとりを大切にすきめ細かな指導を行い、難関大学を含む国立大学への進学に対応している。</p> <p>○看護科では、高校課程3年、専攻科課程2年を通じて、段階的に看護職に必要な理論と実践能力を習得する。専攻科を修了した段階で看護師国家試験の受験資格が得られる。</p> <p>○普通科と看護科が共通に行う「総合的な学習の時間」は、体験的実践を通し、探究心を触発し、秘めたる無限の創造力を開発し得る、将来の進路達成に大いに役立つものである。</p>	<p>○本校では、生徒の運営による学校行事がたくさんあるが、生徒会はそうした行事の中核である。執行部や応援団を中心として、生徒は行事に丸となって燃える。</p> <p>・角田高との定期戦 ・校内合唱祭 ・白高祭(文化祭) ・体育祭 等</p>	<p>○運動部・文化部とも盛んである。</p> <p>○昨年度は山岳部がインターハイで6位に入賞。他にも陸上部が全国大会、水泳部・新体操部・バドミントン部が東北大会に出場している。</p> <p>○また、茶会やさまざまな演奏会など地域での活動も盛んで、地域の文化活動に大きく貢献している。</p>	<p>○白石高校は地域に密着し地域とともに歩む学校である。</p> <p>○卒業生は、仙南のさまざまな分野でリーダーとして活躍すると同時に、県下あるいは全国的にも活躍している。こうした人材を、さまざまな教育活動と生徒の力強い意志でこれからも多数輩出していく。</p>
角田	<p>○教育課程について 45分授業を1日7コマ、週35コマの時間割を設定。英語・数学・国語の時間数の増。</p> <p>○学力向上に向けて 英語・数学において、「習熟度別授業」を展開し、年4回ほど習熟度別クラス分けのテストを実施。 また、登校後10分間の「朝学習」により、学習内容の定着や表現力の向上を図り、チャレンジタイム(早朝学習)により、応用力を伸長する。</p> <p>○希望進路実現に向けて 3年間を見通した総合的な学習の時間を展開しながら、希望進路の実現を目指す。具体的には、「大学見学会」や、大学の先生方を招いての「大学出張講義」、「進路講演会」などを通して、将来の自分のあり方、生き方について深く考える機会とする。</p>	<p>○伝統ある「対白石高校定期戦(5月)」は一番大きな行事である。直接対決する運動部はもちろん、生徒会・応援団を中心に全校一丸となり、打倒白高に全力を注ぐ。</p> <p>・対白石高校定期戦(5月) ・球技大会(7月) ・角高祭(9月) 等</p>	<p>○全員が部活動に所属し、文武両道を目指して日々練習に励んでいる。</p> <p>○平成25年度は空手道部、陸上競技部が東北大会やインターハイへの出場を決めるなど、部活動が活発に行われている。</p>	<p>○生徒は「文武両道」の合言葉のもと、勉強と部活動の両立を目指し邁進している。</p> <p>○対白石高校定期戦で味わう団結心と感動の素晴らしさは、他の高校で経験することはできないものである。</p>
仙台第一	<p>○1学年では、幅広い教科を共通に学習することを基本とし、2学年からは、生徒各自の進路希望に応じて文科系と理科系とに分かれ、3学年では、さらに具体的な進路希望に応じた教科・科目を学習できるように、大幅な教科・科目選択制を取り入れている。</p> <p>○平成22年度より授業1コマを55分としている。生徒の進路希望実現のために、授業時数を確保するとともに、例えば、国語や英語では長い文章をじっくりと読んだり、数学では問題演習を多く取り入れたりするなど、「プラス5分のゆとり」を活用した質の高い授業を展開している。</p> <p>○また、SSH指定校として、学校設定科目を設け特色ある授業を行っている。</p>	<p>○自己を見つめ、互いに磨きあう機会の一つとして、次のような特色ある学校行事を実施している。 運動祭、仙台一・二高硬式野球定期戦、強歩大会、一高祭、校内競技大会、芸術鑑賞会、東北大学公開講座、東北大学学部学科説明会など</p> <p>○生徒会活動は盛んで、生徒総会を中心に、評議委員会などの組織を通じて、自主的・民主的に運営されている。</p> <p>○また、大きな特色として、発起人制度があり、運動祭・一高祭などの行事や生徒会誌「創造」の編集においては、その企画・運営を希望する生徒たちが、生徒総会の承認を得て公的な立場を与えられ、積極的に取り組んでいる。</p>	<p>○部活動は全員加入制で、生徒は運動部(22)、学芸部(22)、同好会(3)のいずれかに所属し、学習活動と部活動の両立、いわゆる文武両道を合言葉に、熱心な活動が続けられている。</p>	<p>○学校の諸活動において、生徒の自主自立に基づく活動を尊重し、それを奨励・育成している。自由な校風と自重献身、自発能動の精神に溢れる高校生活を送った多くの卒業生は、国内外で学術・芸術・財界・政界等さまざまな分野をリードする立場で活躍中である。</p> <p>○平成22年度に男女共学となったが、これまでの伝統・校風を継承発展させつつ、今後ともリーダーとして次代を担う資質を身につけるための教育を行っていく。</p>
仙台二華	<p>○授業は1コマ45分で週に35コマ行う。</p> <p>○仙台二華高等学校では特色ある学習活動として、総合的な学習の時間に「インターナショナルスタディ(IS)」と「サイエンティフィックリサーチ(SR)」を設定している。これらの学習は「地球環境」をメインテーマとする社会科学的・自然科学的な探究学習であり、様々な問題に対し、自ら問題意識を持ち、考え、調べ、さらにそれを論理的に表現、発表できることを目標にしている。</p> <p>○朝活動、学習の記録、週課題等を通じて、学習習慣の確立を促すとともに、チャイムスタートで授業をはじめ1コマ45分の授業時間の有効利用をしている。</p>	<p>○学校行事では伝統の行事として生徒が主体的に関わる意気の上がる文化祭・体育大会・合唱コンクールが、中学校と高等学校の合同行事として実施されている。</p> <p>○ユネスコスクールとして世界と交流しており、IS・SRの集大成として英語による交流を重視したグアム海外研修旅行の実施や、アメリカドルタウン高校との海外姉妹校交流(ホームステイ研修)が実施されている。</p>	<p>○部活動を含め生徒の活動は極めて活発に行われている。</p> <p>○昨年度、運動部では、水泳・陸上競技・ハンドボール・卓球・弓道などがインターハイや東北大会に出場。</p> <p>○文化部では音楽・ギターの定期演奏会や演劇の定期公演が行われ、音楽・美術・書道・地学などが各種表彰を受けており、なかでも放送は放送コンテスト全国大会朗読部門で優勝したり、生物部が全国総合文化祭で研究発表を行った。</p>	<p>○仙台二華高等学校は「限りない未来への挑戦」をかかげ、世界で活躍する骨太の人材を育てる学校として開校した。新校舎は地上7階建ての高層校舎で、中央の大型アトリウム(吹き抜け)から明るい光が校舎に満ち、全校生徒がアトリウムを介して互いに結びつきを感じることができる空間になっている。</p>
仙台三桜	<p>○「文武両道」というよき伝統を受け継ぎながら、学習と部活動が両立できるように、平成22年度から45分7時間授業を実施。学力向上と進路希望達成に向けた教育課程を編成。</p> <p>○多様な選択科目の配置・習熟度別授業・土曜学習会・課題学習・課外講習等を活用している。</p>	<p>○生徒会執行部を中核として各種委員会が設置されており、体育大会や合唱コンクールではレクリエーション委員会が、文化祭では三桜祭実行委員会が運営の主体となり活躍している。</p> <p>○これらの行事では、全校生徒が一丸となって積極的に参加し、大いに盛り上がるのが第三女子高校時代から続く伝統の一つとなっている。</p>	<p>○平成24年度は、運動部で陸上競技部・水泳部・剣道部がそれぞれ東北大会に出場し、陸上競技部・ワンダーフォーゲル部がインターハイに出場。</p> <p>○文化部では書道部が13年連続全国高等学校総合文化祭に出品、音楽部は全日本合唱コンクール東北大会金賞およびNHK全国学校音楽コンクール東北大会銀賞を受賞。美術部では河北美術展で入選。演劇部は高校演劇コンクールで東北大会出場。放送部は東北高校放送コンテストでアナウンス部門と朗読部門で入賞。NHK全国高校放送コンテストアナウンス部門で準々決勝進出。アニメ漫画研究部は全国選手権(まんが甲子園)で高知県高校文化連盟会長賞を受賞するなど、各部でめざましい活躍を見せている。</p>	<p>○授業中の真剣なまなざし、明るく元気な笑顔、周囲の友人を思いやる優しさ、何事にも活発に取り組む行動力。第三女子高校から仙台三桜高校へと学校名は変わったが、伝統的に続く本校生徒の素晴らしい気質はまったく変わっておらず、本校最大のPRポイントといえる。</p> <p>○共学化完成により、新鮮で活気に満ちた雰囲気生まれ、その中で新たな伝統と「三桜らしさ」が日々創りあげられている。</p> <p>○これまでの長い歴史の中で積み重ねてきた運動や文化・芸術面での輝かしい成果に加え、学習面においても課外講習や土曜学習会などの新しい取り組みが次々と始まり、学力向上に向けて学校全体で意識が高まってきている。</p> <p>○「学習と部活動の高いレベルでの両立」を合い言葉に、生徒たちと教職員、保護者や同窓生の方々が一丸となって新しい学校づくりに取り組んでいる。</p>

学校名	1. 教育課程(教科指導、総合的な学習の時間等)	2. 学校行事・生徒会活動	3. 部活動	4. その他(PRポイント等)
仙台第二	<p>○選択科目の設定 1年次は共通履修を基本として編成し、2年次からは文科系・理科系の類型制を設定。1年は芸術、2年は理科と地理歴史、3年は進路に応じた科目を選択する。</p> <p>○個に対する指導 国公立大2次試験、私大受験に対応するため3学年に増加単位を設け、選択制を導入。平常講習、長期休業講習、個別添削指導、小論文指導などを実施し、生徒の要望に応じている。</p> <p>○教育課程 授業は1時限を45分、週5日のうち3日を7時限、2日を8時限で授業を行っている。また、「総合的な学習の時間」を通して知的探求心を高めるとともに、学問的・人間的な視野を拡げ、個々の資質の伸長を図っている。</p>	<p>○主な行事 大運動会(4月)、仙台二高・一高定期戦(5月)、芸術鑑賞(6月)、岩手山登山(1年生)(7月)、アメリカ大学研修(2年生)(7月)、北陵祭(文化祭)(9月)、秋季体育大会(10月)</p> <p>○生徒会活動 ・生徒会は生徒の自主活動の場であり、自由な雰囲気の中、生徒自らの手によって活発に運営されている。 ・年2回の総会では激論が展開され、12ある委員会も活発に活動している。 ・北陵祭における実行委員の活躍は伝統として引き継がれている。</p>	<p>○運動部が22部、学芸部が15部、愛好会も多数ある。</p> <p>○兼部等も認められており、活発に活動している。</p>	<p>○長い歴史と伝統を持ち、優れた人材を世に輩出してきた本校は、生徒が教職員に厚い信頼を寄せ、教職員もそれに熱心に応えるという、良き師弟関係によって成り立ってきた自由闊達な学校である。</p> <p>○ほぼ全員が大学進学をめざしているが、「文武一道」の精神を受け継いでいるため、部活動も盛んである。</p> <p>○平成19年4月から男女共学、平成22年4月からは全県一学区となり「全国屈指の進学校」を目指して、新たな一歩を踏み出した。</p> <p>○さらに平成25年度から、本物に触れる機会と位置づけて、2年生の希望者を対象にアメリカ研修を夏休みに実施する。</p>
仙台第三	<p>○50分授業、週33コマの教育課程。ただし、理数科は1・2年は週34コマ。</p> <p>○理数科は数学・理科・英語に重点を置いて学習する。SSHの指定校として、SSH課題研究などの学校設定科目を開講し、奥行きのある学習と研究を行う。</p> <p>○普通科は2年生から進路希望に応じて文系と理系の2つの類型に分かれる。文系クラスは国語・地歴公民・英語に、理系クラスは数学・理科・英語に重点を置いて学習をする。</p> <p>○授業外では大学進学に向けて講習や学習会などを行う。</p> <p>○平成23年度に「授業づくり三高プロジェクト」を立ち上げた。宮城教育大学との共同研究により、本校生徒の潜在能力を引き出し、コミュニケーション能力・思考力・類推力・発表力・表現力等を育成する授業方法の開発を目指す。</p>	<p>○主な学校行事 芸術鑑賞会(6月)、前期体育大会(7月)、三高祭(8月)、後期体育大会(10月)等</p> <p>○生徒会は、代議員会、執行部、監査委員会、会計がそれぞれの権限を持って活動しており、生徒会行事はこの生徒会役員を中心に、生徒の手によって行われている。</p>	<p>○文武の両立を図るため19時完全下校となっているが、運動部・文化部とも短い時間の中で内容の濃い練習を行っている。</p> <p>○運動部の平成24年度の主な成績は次のとおり。インターハイ・国体出場は、陸上部、フェンシング部。東北大会出場は、陸上部、水泳部、フェンシング部、ラグビー部、テニス部、ソフトテニス部。その他、県総体の団体では、ハンドボール部3位など。</p> <p>○文化部の平成24年度の主な成績は次のとおり。放送部、文芸部、自然科学部が全国大会入賞。演劇部、吹奏楽部、囲碁部が東北大会出場。また、演劇部が県演劇コンクールで第3位、自然科学部が県理科研究発表会で優秀賞を受賞している。</p>	<p>○仙台三高は長年にわたり男子校として、県内のみならず全国的にも高い評価を得てきたが、平成21年度から男女共学校となり、新たな一歩を踏み出している。堅実な校風を踏襲しつつも、現在、「新校舎の完成」「男女共学化」「SSHの指定」を機会に、「新仙台三高」の旗印の下、全員が「チーム仙台三高」を合言葉に勉強に部活動に頑張っている。</p> <p>○新校舎は、未来を担う高校生が思う存分学び、考え、充実した高校生活を送るにふさわしい広々・ゆったりとした環境となっている。</p> <p>○また、スーパーサイエンスハイスクール及びコアSSHの指定を受け、東北大学や宮城教育大学等と連携し、先端的な理数科教育を推進しているとともに、ほとんどの生徒が国公立大学への進学を希望している状況にあり、進学指導を徹底して行っている。</p>
宮城第一	<p>○進学重視型単位制高校 ・進学重視型単位制高校として、より幅の広い選択科目の中から一人ひとりの興味関心・適性・進路希望により、自分に最適の時間割を作ることができる。 ・また、少人数授業や習熟度別授業が多くなり、個々に応じたきめ細やかでより緊張感のある授業が受けられる。 ・また、東北大学の講義を受講し、それを本校の単位として認定する制度もある。</p> <p>○55分授業 21年度からは55分授業を実施しており、24年度は火曜日以外6時限の時間割になっている(火曜7校時は総学)。授業時間を十分確保し質の高い充実した指導を目指す。</p>	<p>○夏休み前にクラス毎に創意工夫に溢れる歌や踊り、絢爛たる衣装を競い合う『歌合戦』をはじめ、特色のある行事が沢山ある。</p> <p>○行事の多くが学友会の委員会の自主的な活動によって運営されていることが大きな特色。</p> <p>○また、学友会委員会活動の他にも「空き缶委員会」などのユニークなボランティア活動もある。</p>	<p>○部活動も活発で現在、運動部16部、文化部20部、同好会5部の他に愛好会等もあり、生徒一人ひとりが自分の興味や関心のあることを探求している。</p> <p>○運動部・文化部ともに全国レベルで活動している部も少なくない。</p>	<p>○創立116年目の本校は、3万名を超える卒業生を世に送り出し、多くの人材が様々な分野の第一線で活躍している。そうした先輩方の応援も本校の大きな力であり、これからは社会のリーダーとして貢献しようとする人材を輩出していく。</p> <p>○長い歴史の中で受け継がれてきた自主・自律の校風のもと、学習・部活動・学校行事に、生徒・教職員ともに全力を尽くす学校。共学・進学重視型単位制高等学校となってもこの校風を大事にしている。</p>
泉館山	<p>○授業時間は50分で、週3日が7校時、2日が6校時。</p> <p>○生徒の学力向上のため平常講習、夏期講習、冬期講習など各種の講習を年間を通して開き、3年間で確かな学力を身につけるよう、生徒一人ひとりの進路達成を支援。</p> <p>○1年で職業研究、2年で学問研究、3年で卒業論文を仕上げる総合的な学習の時間や、先生方手作りの資料を読んで見聞を広める朝の「館山タイム」も特徴。</p>	<p>○主な行事 4月の新入生オリエンテーション、泉三校定期戦、生徒総会、進路講演会、2日にわたる球技大会、学校説明会、翠樅祭(文化祭)、芸術鑑賞、授業公開、体育祭、そして3泊4日で関西方面に行く修学旅行、12月のイルミネーション点灯等</p> <p>○生徒会は、選挙で選出された本部役員を初め各委員会や応援団幹部会などが三大行事(球技大会、翠樅祭、体育祭)を中心に自主的で活発な活動を展開している。</p> <p>○また応援団及びチアリーダーも勇壮かつ華麗な応援を行っている。</p>	<p>○文化部が11、運動部が14あり、全員入部制をとっている。</p> <p>○昨年の主な結果は、陸上部が女子走幅跳び・走高跳びで東北大会出場。男子テニス部が県新人戦団体で準優勝し東北大会ベスト8、ダブルス3位入賞。女子テニス部が県新人戦団体・ダブルス3位入賞シングルスベスト8。山岳部が新人戦5位入賞、ソフトボール部が県総体ベスト8、男子バレーボール部が県総体ベスト8、女子バスケットボール部が県総体ベスト8。</p> <p>○囲碁将棋部が全国大会出場。放送部が東北大会出場。吹奏楽部が東北大会出場。写真部・美術部ともに各種コンクール等で大きな賞を受賞している。</p>	<p>○仙台市北部の住宅地長命ヶ丘に開校して31年目を迎え、文武両道に優れた進学校として数々の実績を残してきた。平成15年より10年連続して国公立大学に100名を超える進学者を輩出し、東北大学・筑波大学など難関大への合格者も二桁になった。</p> <p>○球技大会・翠樅祭・体育祭の三大行事を初め多彩な行事の多くは、自主的に集まった多数の生徒会執行委員によって運営され、応援団の活動は県内屈指で、チアリーダーも活発に活動している。</p> <p>○運動部・文化部合わせて25ある部活動も盛んで、放課後や休みの日は生徒のかけ声や楽器の音がにぎやかに校地内に響いている。</p>
宮城野	<p>○50分7校時授業(3年次・木曜、全年次・金曜は6校時)</p> <p>○「総合的な学習の時間」等を活用しながら、将来の具体的な構想を持てるよう、キャリア教育に取り組んでいる。</p> <p>○多岐にわたる進路希望に十分に対応できるように、多くの選択科目があり、原則5人以上で開講。</p> <p>○「教科科目ガイドブック」を配布し、講座内容や評価方法などから、自分の将来の希望にそった科目選択を行う。</p>	<p>○生徒企画行事「体育祭」、「文化祭」、年次企画行事「遠足」などがある。</p> <p>○生徒の自発的意志を大切にし、文化祭や体育祭等は生徒のボランティアによって運営されている。</p> <p>○また、自治会事務局が生徒の合意のもとに設置され、意志決定の補助機関として活動している。</p>	<p>○放課後の時間の有効活用も自主的に考えて判断して欲しいことから、部活動はない。代わりに、原則的に1～2年次のみが対象の『サークル活動』と『放課後講座』がある。</p> <p>○サークルは生徒の興味・関心をもとに、活動内容等を設定して発起し、その発起人が生徒全体に呼び掛け、最低3名以上集まれば、教員(顧問)の協力を得て自由に立ち上げることができる。活動は1年単位で、原則校外での活動は認められないが、例年20種類以上ある。</p> <p>○『放課後講座』は、教員が主体で生徒の教養を深めることと学習の発展を願い、放課後や長期休業中に設定する。外部の講師を招く場合もある。</p>	<p>○将来のために4年制大学に進学したい人、行事の企画や運営を本気になってみたい人等、学校生活の中で何かに真剣に打ち込みたい人に真にふさわしい学校である。</p>
塩釜	<p>○50分授業、週32コマの教育課程(H26入学生へ)</p> <p>○国公立大学・私立大学・短大・専門学校等への進学、そして公務員や民間就職など多様な進路に対応したカリキュラムになっている。</p> <p>○また、少人数指導や、多くの選択科目の設置等、特色ある教育活動を行っている。</p>	<p>○行事・生徒会活動・部活動については、両校のものを統合して、よりよいものを試行錯誤しながら実施している。</p> <p>○修学旅行や文化祭、体育祭等は、これまでの伝統を継承しつつ新たなアイデアを盛り込み実施している。</p>	<p>○運動部・文化部ともに活発に活動し、統合後もその活躍を維持している。</p> <p>○ボート部がインターハイ出場、全国高校選抜ボート大会女子シングルスカルで全国優勝、少林寺拳法部が全国大会出場、ヨット部がインターハイ出場、ダンス部が全国大会出場など活躍している。それ以外にも県大会での入賞実績が多数ある。</p>	<p>○2つのキャンパス(校舎)を持ち、全校生徒が1,200名規模の県内最大の公立高校である。大規模校の利点を生かし、多様な進路希望の実現ができる教育課程となっている。</p> <p>○また、運動部、文化部ともに活発に活動している。充実した高校生活が過ごせる。</p>

学校名	1. 教育課程(教科指導、総合的な学習の時間等)	2. 学校行事・生徒会活動	3. 部活動	4. その他(PRポイント等)
古川	<p>○授業は1時間45分7時間でやっている。</p> <p>○授業は、夏季冬季の長期休業を大幅に短縮して授業日数を増やし、基礎基本の理解から、重要事項の定着にまで丁寧に、系統的に進めている。</p> <p>○1・2年全員を対象に模擬試験や課外講習を行う「蛍雪講座」を年間10回程度開講している。</p> <p>○3年次においては、年間を通じて課外講習(0, 8, 9時間)を行い、学力伸長と実力の養成に努めている。</p>	<p>○企画や運営においても生徒の自主性や意見が尊重されており、一人一人が自分のやりたいことや個性を発揮できる自由で伸び伸びとした校風である。</p> <p>○主な生徒会関係行事としては、対築館高校定期戦(4月)、船形山へのブナの森遠足(5月)、文化祭(7月)、体育祭(9月)などがある。</p> <p>○対築館高校定期戦:8勝3敗(通算38勝13敗3分)</p>	<p>○運動部、文化部とも熱心に活動しており、各種大会で優秀な成績を収めている。</p> <p>○県総体 ・陸上部(三段跳び) 東北大会出場 ・ソフトボール(男子) 県総体準優勝 ・バスケットボール(男子)、バレーボール(男子)、卓球(女子)、剣道(男子) 県総体ベスト8 ・クロスカントリー インターハイ出場 ・アルペン 東北大会出場</p> <p>・総合科学部(化学班) 全国大会出場 ・吹奏楽部 県コンクール金賞</p>	<p>○「古高NEXT STAGE」のスローガンと、「高い志のもと、文武両道に努め、主体的に自己実現を目指す」というスクールアイデンティティー(SI)を掲げ、3人に1人が国公立大学に合格。上昇気流の古高は、グレードアップしている。</p> <p>○古高は、①社会貢献できる人間の育成を目指す学校。②勉強にも部活動にも全力で取り組み、人間的成長と現役での進路希望の達成を目指す学校。③県内有数の進学校。今春、京大、東北大4名、筑波大2名など78名が現役で国公立大学に合格した。</p>
古川黎明	<p>○1日7時間(45分授業)週35時間の授業</p> <p>○1年次は芸術科の科目選択、2年次からは文系、理系の類型選択、多科目選択など進路希望に応じた教育課程を設定している。</p> <p>○1, 2年次英語と数学で、2, 3年次古典で習熟度別に、個に応じたきめ細かな授業を展開している。</p> <p>○難関大学をはじめとする進学希望者の実力養成のため「黎明土曜塾」「課外講習」を開講。</p> <p>○SSHに関わる主な特色ある教科・科目として、「SSラボ」「言遍」「SS総合」などがある。「SSラボ」では各種多様な実験を通して観察・実験の技能、「言偏」では読書や新聞読み込み指導などを通して豊かな言語運用能力、「SS総合」では東北大学等と連携した施設見学や講演会、課題研究等を通して地域防災やキャリアへの意識を育む。</p>	<p>○生徒会行事も盛んで、中高合同の体育祭、黎明祭(文化祭)、高校行事の球技大会は、自主的に企画・運営され、全校をあげて盛り上がる一大イベントとなっている。</p> <p>○特に、体育祭・黎明祭は中高一貫行事と位置付けられており、中学生と高校生が積極的に交流できる行事として運営されている。</p>	<p>○昨年度はスキー部がインターハイ・国体に、剣道部(なぎなた)が東北大会・インターハイに、陶芸部が全国大会に、陸上が東北大会に出場するなど、各部が目覚ましい活躍をしている。</p> <p>○共学化後に新設された男子の部活動も盛んになった。硬式野球部、サッカー部などが活発に活動している。</p> <p>○また、中学生との交流も盛んで、多くの部活動で、中高合同で活動する場面があり、互いに良い刺激を受け合い、共に成長する姿が見られる。</p>	<p>○「おはようございます!」の挨拶がいつも聞こえてくる。母体校である古川女子高校以来の伝統である。</p> <p>○受け継いだものは挨拶だけではなく、白梅賦(苦寒風雪ををかしてひらき争はずして百花のさきがけをなす)の精神のもと、中学生も高校生も、元気に学習・部活動・行事に取り組んでいる。</p> <p>○文武両道と自主自立の精神が、本校のモットーである。</p> <p>○SSH校ならではのイベントも数多くある。</p>
築館	<p>○50分授業、週32コマの教育課程</p> <p>○地域や生徒の実態等を踏まえて、自ら学ぶ意欲や学力の向上を図るとともに、生徒一人一人の進路目標が実現できるような教育課程を編成。</p> <p>○その他、習熟度別の少人数指導(英語・数学)や土曜課外による実力養成、週課題を実施している。</p>	<p>○主な学校行事 学習オリエンテーション合宿、古川高校定期戦、築高祭(合唱コンクール、弁論大会)、体育大会、芸術鑑賞会、大学出前授業、修学旅行 等</p> <p>○生徒会活動 生徒会執行部はもとより、全生徒が自分たちの活動の意義を理解し、自分たちで考えて実行できる生徒会の育成を目指して積極的に取り組んでいる。また、JRC等の自主的奉仕活動も活発である。</p>	<p>○運動部(15)、文化部(11)ともに熱心に活動している。</p> <p>○平成24年度は、支部総体、県総体などで優秀な成績を収め、ホッケー(男女)と陸上部及び水泳部が東北大会に出場。男子ホッケー部は全国高校総体にも出場。女子ホッケー部が全国選抜大会に出場した。</p> <p>○また、書道部や美術部が展覧会で表彰されるなど、文化部も各種大会や高校文化祭、築高祭に向けて意欲的に取り組んでいる。</p>	<p>○男女共学から9年目を迎える築館高校。生徒は日々、学業や部活動に楽しく取り組んでいる。</p> <p>○学習面ではフロンティアクラスを中心に朝や土曜日の課外授業、学習合宿などで自信と実力を付け、部活動ではホッケー部のインターハイ出場を始め、数多くの部が大会やコンクールで好成績を残している。</p> <p>○さらに、合唱コンクールや弁論大会が行われる築高祭、クラス対抗で優勝を競い合う体育大会、そして半世紀以上の歴史を誇る定期戦がある。</p>
佐沼	<p>○進路目標達成を視野に入れた授業づくりをしている。特に、多くの生徒が希望している国公立大学進学へ重点をおいた内容となっている。</p> <p>○授業は45分の7時間で集中力と思考力の向上をはかり、『自律的学習者』の育成を目指している。</p> <p>○総合的な学習の時間は、『咲こうノート』を活用した、職業研究・学部学科研究・学問研究・進路プランニング・小論文指導など、3年間の系統的な指導を行っている。</p>	<p>○行事は、陸上大会、球技大会、佐高祭の三大行事があり、自主的な生徒会運営がなされている。</p> <p>○生徒会活動も、規律ある学校生活の中で、生徒総会、各種委員会、部活動、応援団活動、環境の美化など活発に行われている。</p>	<p>○部活動も盛んであり、平成24年度はインターハイ・東北大会にボート部・陸上競技部がそれぞれ進出。また、過去5回花園出場を果たしているラグビー部は、東北選抜チームに主要選手を送り、7人制の全国大会で優勝。卓球部女子も県大会で上位に入賞、創部100年を超える野球部の活躍も注目される。</p> <p>○また、文化部では自然科学部、箏曲部、吹奏楽部、合唱部、美術部などが盛んであり、各種コンテストや審査で数多くの入賞を果たしている。平成24年度の全国総合文化祭には箏曲部と美術部が出場。</p>	<p>○本校では文武両道の校是のもと、それぞれの目標の実現に向かってひたむきに学習と部活動に励む姿が見られる。</p> <p>○本校の1日は、8時20分開始の小テストから始まる。落ち着いた雰囲気のある教室には、静かな中にも熱気が溢れており、放課後までその熱気は続く。</p> <p>○体育館やグラウンドでは部活動の練習に汗を流す生徒がみられ、午後7時半の完全下校時刻まで質の高い活動が展開されている。</p> <p>○一方、学習室や図書室でも夕方遅くまで自習に励む生徒がみられる。</p> <p>○文化祭や球技大会、陸上大会などの学校行事は、生徒主体で運営され、笑顔と活気に溢れている。</p>
石巻	<p>○50分授業、週33コマの教育課程。</p> <p>○多様な進路の希望や各大学の入試・選抜方法等に対応できるように配慮して教育課程を編成している。</p> <p>○夏季・冬季休業中はもちろん、平常の授業日にも課外授業を実施し、生徒の学力の伸長に努めている。</p>	<p>○生徒会の活動は、生徒会総務や代議員を中心に運営されている。</p> <p>○特に体育祭・球技大会・文化祭等は生徒会を中心に生徒自らがその企画・運営に当たり、毎年盛大に開催され、名物行事になっている。</p>	<p>○部活動も活発で、全校生徒の9割近くが何らかの部活動に所属している。</p> <p>○運動部では、甲子園で行われる全国大会にも出場した経験のある硬式野球部、過去4回花園での全国大会に出場したラグビー部、毎年のように東北大会やインターハイに出場しているヨット部やウェイトリフティング部、陸上競技部、ボート部などがある。</p> <p>○学芸部では将棋部、美術部、書道部が全国大会に出場するなど、各部とも活発に活動している。</p>	<p>○石巻高校は長い伝統を持ち、優れた人材を多数輩出してきた県下有数の進学校である。生徒は石高生としての誇りを持ち、自らの進路希望実現を目指すとともに、地域の期待に応えるべく日々努力を続けている。</p> <p>○教職員と生徒の関係も互いの信頼と熱意に支えられている素晴らしい学校である。</p>

学校名	1. 教育課程(教科指導、総合的な学習の時間等)	2. 学校行事・生徒会活動	3. 部活動	4. その他(PRポイント等)
石巻好文館	<p>○本校の特色は、石巻地区唯一の「進学型単位制」高等学校であること。</p> <p>○50分授業の週32コマ(～H25)→45分授業の週34コマ(H26～)</p> <p>○3年次には、単位制独特の選択科目もあり、多様な選択科目の中から、自分の進路希望に沿った科目を選択して、学習する。したがって、自分自身の進路希望達成に必要な科目を、少人数で学習する機会も多くなり、わかりやすい授業が展開される。</p> <p>○英語と数学については、1年次から少人数による授業が展開され、個に応じたきめ細かな指導が行われる。</p> <p>○長期休業中の課外授業。小論文対策など個々の進路に応じて様々な取組がある。</p>	<p>○生徒会長を中心に、文化祭などの各行事を自主的に企画・実行している。球技大会や運動会では、クラス毎にユニホームを作って大いに盛り上がっている。</p>	<p>○平成24年度の運動部の結果は、総体では陸上競技部が東北大会出場。新人大会では、陸上競技部、水泳部が東北大会出場。弓道部が男子個人・団体で県優勝し、全国大会に出場している。</p> <p>○音楽部、吹奏楽部、マンドリン部の定期演奏会を開催する他、様々な演奏会に参加したり、地域の施設を訪れたりしては日頃の活動の成果を発表している。多くの部活が各種コンクールや展覧会で入選・入賞している。</p> <p>○地域のフェスティバルでチアリーディングを披露している応援同好会のように、地域に根ざした活動を行っている同好会もある。</p>	<p>○石巻好文館高は、白梅の校章のもと、ふくいくたる個性あふれた生徒たちが、各自の自由を尊重しながら勉強・部活動にがんばっている。</p> <p>○有名大学への進学者も多く、部活動においては、インターハイなどの全国大会出場を果たす部もあるほど立派な成績を残している。このように勉学・クラブ活動・生徒会活動のバランスのとれた高校である。</p> <p>○また、平成25年度からは、「甲斐ある人といわれたいむ」という名前で、総合的な学習の時間がリニューアルした。この時間では、自分たちで考え、計画した「ボランティア体験活動」や「分野別課題研究」を行い、主体的・自発的に行動できる人間になることを目指す。また、自分たちが取り組んだことを通して、感動や充実感を味わい、さらには「この社会でどのように生きるのか」を考えてほしい。</p>
石巻商業	<p>○国語・数学・地歴・公民・理科・体育・外国語・芸術・家庭に属する科目は、共通に学習し、商業に関する科目は、類型毎に学習する科目を選択できることが特徴とされている。</p> <p>○商業の各分野に関する基礎・基本的な内容の習得を目指し、さらに実践的・実務的な専門知識や技能を身につけて、多様な伸長を図る。</p> <p>○各類型とも経済や経営、商学、情報に関する大学進学が可能。</p> <p>○本校では各種検定資格取得に力を入れている。取得できる資格は、簿記検定、基本情報技術者、ITパスポート、情報処理検定、英語検定、電卓・珠算検定、ワープロ検定、漢字検定など。</p> <p>○50分授業の週30コマ(1・2年次)</p>	<p>○主な学校行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商祭(弁論大会含む) ・体育祭 ・クロスカントリー大会 <p>○生徒会の役員を中心として生徒の自主的な活動が行われている。</p>	<p>○部活動では運動部(14)・文化部(9)ともに各種大会で活躍している。</p> <p>○昨年度におけるおもな活動成績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・硬式野球部・陸上競技部・卓球部・珠算部(東北大会出場)、カヌー部(東北大会、インターハイ、国体出場)、卓球部、珠算部(全国大会出場)。 	<p>○創立102周年を迎えた歴史と伝統のある高校である。</p> <p>○生徒の持っている力を伸ばすために、毎日の授業は言うに及ばず、部活動やさまざまな行事を設けている。</p> <p>○先生と生徒、生徒同士が思う存分に勉学に、スポーツにとぶつかり合える人間味あふれた学校である。</p>
気仙沼	<p>○一人一人の進路目標を第一に考えた教育課程で、大学入試制度の変更にも十分対応している。</p> <p>○授業を45分7時間授業とし、授業時間の確保に努めている。</p> <p>○1年生及び2年生は年1回英語検定、GTECを受けさせるなど英語教育の充実を図っている。</p>	<p>○主な学校行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・球技大会(7月) ・文化祭(8月) ・英語スピーチコンテスト(9月) ・芸術鑑賞、運動祭(10月) ・修学旅行(2年)(12月) 	<p>○運動部は19部、文化部は18部あり、午後7時まで質の高い活動が展開される。</p> <p>○昨年度は、フェンシング部が全国高等学校総合体育大会(インターハイ)に出場し、女子団体準優勝、軟式野球部が全国高等学校選手権大会でベスト8になった。</p> <p>○また、全国高等学校総合文化祭(総文祭)などに例年多くの生徒が出場している。</p>	<p>○「文武両道」の伝統(旧気高・鼎高)を大切にしながら、みずみずしい新感覚でのびのびと学ぶ生徒たち。生徒を支え、生徒とともに成長する教職員団。本校の様子を一言で表せば、このようになる。</p> <p>○学習・進路指導は、大学進学を主眼としているが、生徒のニーズは公務員、専門学校等多様であり、それぞれががんばって目標を達成している。</p> <p>○また、県立高校ではあるが、「地元の市教委や小中学校との距離が近い学校」、「郡部にあっても文化的な水準の高い学校」でありたいと考えて活動している。具体的な例としては、大学との連携事業や、他の高校・気仙沼市教委との連携事業(SSH)などがあげられる。</p> <p>○震災後は、様々な支援事業がきっかけとなって、県内外の各種団体との交流を現在も進めている。世代を越えた交流事業、他校生と一緒に参加するフォーラム、ボランティア活動、学習合宿など、本校生が新しい体験をして成長できる機会をたくさん得ることができた。</p>

(資料)平成25年度公立高校ガイドブック及び学校要覧等より一部抜粋

(3) 一般入試出願倍率(平成21年度から平成25年度まで)

地区	高校名	学科・コース	募集定員					後期選抜(一般入試)出願倍率					前年差				
			H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
南部	白石	普通科	-	240	240	240	240	1.04	1.10	1.08	1.02			0.06	▲0.02	▲0.07	
		看護科	-	40	40	40	40	1.29	1.88	1.50	1.39			0.58	▲0.38	▲0.11	
	白石	普通科	160	-	-	-	-	1.08						0.06			
		看護科	40	-	-	-	-	1.46						0.29			
	白石女子	普通科	160	-	-	-	-	1.03						▲0.26			
		看護科	40	-	-	-	-	1.46						0.29			
	蔵王	普通科	120	120	120	120	120	0.63	0.74	0.45	0.54	0.45	▲0.13	0.11	▲0.30	0.09	▲0.09
	白石工業	工業科	240	240	240	240	240	0.99	1.18	1.04	1.13	1.13	▲0.15	0.19	▲0.14	0.09	▲0.00
	村田	総合学科	120	120	120	120	120	0.91	1.01	1.13	1.03	0.90	0.05	0.11	0.12	▲0.10	▲0.13
	柴田農林	農業科	160	160	160	160	160	1.11	1.55	1.09	0.90	1.35	0.15	0.44	▲0.45	▲0.20	0.45
	柴田農林川崎校	普通科	40	40	40	40	40	0.82	1.08	0.61	0.51	0.63	0.13	0.26	▲0.47	▲0.09	0.11
	大河原商業	商業科	200	200	200	200	200	0.69	0.89	1.36	1.00	0.91	▲0.62	0.19	0.47	▲0.36	▲0.09
	柴田	普通科	120	160	120	120	120	1.02	1.19	0.87	1.14	0.81	0.18	0.16	▲0.31	0.27	▲0.33
		体育科	40	40	40	40	40	1.13	1.44	0.93	1.69	1.10	▲0.38	0.31	▲0.50	0.75	▲0.59
	角田	普通科	200	200	200	200	200	0.78	0.95	0.94	0.78	0.83	▲0.17	0.17	▲0.01	▲0.16	0.05
伊具	総合学科	120	120	120	120	120	0.87	0.94	0.89	0.93	0.72	▲0.04	0.07	▲0.06	0.04	▲0.21	
小計		1,720	1,680	1,640	1,640	1,640	0.92	1.07	1.00	0.96	0.93	▲0.09	0.15	▲0.07	▲0.04	▲0.03	
中部(亶理名取)	名取	普通科	240	240	240	240	240	1.73	1.74	1.40	1.42	1.32	0.15	0.01	▲0.35	0.02	▲0.10
		家庭科	40	40	40	40	40	1.54	1.79	2.17	1.04	1.75	▲0.33	0.25	0.38	▲1.13	0.71
	名取北	普通科	280	280	280	280	280	1.61	1.32	1.38	1.45	1.32	0.19	▲0.29	0.06	0.08	▲0.13
	亶理	普通科	80	80	80	80	80	1.21	1.07	1.15	0.74	1.01	0.09	▲0.15	0.09	▲0.42	0.28
		農業科	40	40	40	40	40	0.93	1.76	0.93	0.97	1.19	▲0.20	0.83	▲0.83	0.03	0.23
		商業科	40	40	40	40	40	0.83	1.28	0.82	0.97	0.97	▲0.38	0.44	▲0.45	0.15	▲0.00
		家庭科	40	40	40	40	40	1.20	1.63	0.79	1.06	1.30	▲0.06	0.43	▲0.84	0.27	0.25
宮城農業	農業科	240	240	240	240	240	1.42	1.34	1.33	1.17	1.25	0.17	▲0.08	▲0.01	▲0.16	0.08	
小計		1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1.48	1.44	1.31	1.23	1.27	0.09	▲0.04	▲0.13	▲0.07	0.04	
中部(仙台南・仙台北)	仙台一	普通科	320	320	320	320	320	1.26	1.94	1.56	1.65	1.39	▲0.03	0.68	▲0.38	0.09	▲0.25
	仙台二華(宮二女)	普通科	280	240	240	240	240	1.07	1.50	1.30	1.20	1.32	▲0.13	0.43	▲0.20	▲0.10	0.12
	仙台三桜(宮三女)	普通科	280	280	280	280	280	1.26	1.71	1.74	1.67	1.57	▲0.31	0.45	0.03	▲0.07	▲0.10
	仙台向山	普通科	160	160	160	160	160	1.19	1.67	1.82	1.50	1.31	▲0.37	0.48	0.15	▲0.32	▲0.19
		理数科	40	40	40	40	40	1.50	1.54	2.20	1.25	2.00	0.25	0.04	0.66	▲0.95	0.75
	仙台南	普通科	280	280	280	280	280	1.57	1.81	1.78	1.77	1.59	▲0.12	0.24	▲0.03	▲0.01	▲0.17
	仙台西	普通科	280	280	280	280	280	1.44	1.64	1.49	1.70	1.27	▲0.31	0.19	▲0.15	0.21	▲0.43
	仙台東	普通科	240	240	240	240	240	1.29	1.35	1.40	1.37	1.21	▲0.34	0.06	0.05	▲0.03	▲0.16
		英語科	40	40	40	40	40	1.42	0.88	1.50	0.68	1.29	0.17	▲0.54	0.63	▲0.82	0.61
	宮城工業	工業科	320	320	320	320	320	1.33	1.55	1.67	1.63	1.42	▲0.26	0.22	0.13	▲0.05	▲0.21
	仙台工業	工業科	200	200	200	200	200	1.84	1.65	1.83	1.68	1.66	▲0.14	▲0.19	0.17	▲0.15	▲0.02
	仙台二	普通科	320	320	320	320	320	1.45	1.00	1.16	1.26	1.23	0.22	▲0.44	0.16	0.10	▲0.04
	仙台三	普通科	240	240	240	240	240	1.76	1.49	1.65	1.70	1.78	0.40	▲0.26	0.16	0.04	0.08
		理数科	80	80	80	80	80	2.31	1.69	2.17	1.69	1.73	0.81	▲0.63	0.48	▲0.48	0.04
	宮城一(宮一女)	普通科	200	200	200	200	200	1.37	1.03	1.24	1.29	1.33	▲0.07	▲0.34	0.21	0.05	0.04
		理数科	80	80	80	80	80	1.42	1.27	1.31	0.98	1.41	0.06	▲0.15	0.04	▲0.33	0.43
	宮城広瀬	普通科	280	280	280	280	280	1.94	1.74	1.88	1.53	1.75	0.12	▲0.20	0.14	▲0.34	0.22
	泉	普通科	240	280	240	240	240	1.76	1.44	1.63	1.77	1.68	▲0.02	▲0.32	0.19	0.14	▲0.09
		英語科	40	40	40	40	40	1.50	1.08	1.25	1.79	2.00	▲0.08	▲0.42	0.17	0.54	0.21
	泉松陵	普通科	280	280	280	280	280	1.38	1.45	1.26	1.42	1.22	▲0.02	0.07	▲0.19	0.16	▲0.20
	泉館山	普通科	280	280	280	280	280	1.08	1.57	1.37	1.46	1.21	▲0.18	0.49	▲0.20	0.09	▲0.24
	宮城野	普通科	160	160	160	160	160	1.34	1.22	1.05	1.64	1.39	▲0.05	▲0.12	▲0.17	0.59	▲0.25
		美術科	40	40	40	40	40	1.31	1.44	1.50	1.00	2.05	▲0.88	0.13	0.06	▲0.50	1.05
	総合学科	80	80	80	80	80	1.29	1.51	1.54	1.77	1.89	▲0.79	0.22	0.03	0.23	0.13	
	仙台	普通科	280	280	280	280	280	1.73	1.42	1.39	1.79	1.49	0.25	▲0.31	▲0.03	0.40	▲0.30
	仙台商業	商業科	320	320	320	320	320	1.92	1.92	1.69	1.96	1.66	▲0.03	0.00	▲0.23	0.28	▲0.30
	仙台青陵	普通科	140	140	140	-	-	0.86	1.38	1.31	-	-	0.86	0.52	▲0.06		
	小計		5,500	5,500	5,460	5,320	5,320	1.46	1.52	1.52	1.56	1.47	▲0.08	0.07	▲0.00	0.04	▲0.10
	中部(塩釜・黒川)	塩釜	普通科	-	320	320	320	320	1.57	1.16	1.47	1.40			▲0.41	0.31	▲0.07
			商業科	-	80	80	80	80	2.42	1.50	2.23	1.52			▲0.92	0.73	▲0.71
塩釜		普通科	120	-	-	-	-	1.61						0.29			
		商業科	80	-	-	-	-	2.36						0.56			
塩釜女子		普通科	200	-	-	-	-	1.56						▲0.14			
多賀城		普通科	280	280	280	280	280	1.11	1.13	1.12	1.18	1.22	▲0.27	0.02	▲0.02	0.06	0.04
松島		普通科	200	200	200	200	200	1.66	1.76	1.65	1.26	1.29	0.06	0.10	▲0.11	▲0.39	0.03
		普通科	200	200	200	200	200	1.12	1.34	1.16	1.09	1.06	▲0.07	0.22	▲0.19	▲0.07	▲0.02
利府		体育科	80	80	80	80	80	1.84	1.41	1.44	1.47	1.83	0.53	▲0.44	0.03	0.03	0.36
		普通科	80	80	80	80	80	1.43	1.23	1.46	0.88	1.14	0.39	▲0.20	0.22	▲0.57	0.26
黒川	工業科	120	160	160	160	160	0.97	1.10	1.32	1.05	1.19	▲0.26	0.07	0.33	▲0.27	0.14	
	農業科	40	-	-	-	-	0.97						▲0.26	0.35	▲0.15		
富谷	普通科	280	280	280	280	280	1.40	1.50	1.37	1.59	1.23	0.16	0.10	▲0.13	0.22	▲0.36	
小計		1,680	1,680	1,680	1,680	1,680	1.39	1.44	1.30	1.32	1.27	0.01	0.05	▲0.14	0.02	▲0.05	

地区	高校名	学科・コース	募集定員					後期選抜(一般入試)出願倍率					前年差				
			H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
北部(大崎)	古川	普通科	240	240	240	240	240	1.01	1.19	1.24	0.99	1.32	▲0.38	0.18	0.05	▲0.25	0.32
	古川黎明	普通科	240	240	240	240	240	1.22	1.26	1.34	1.10	1.12	0.33	0.04	0.08	▲0.24	0.01
	岩出山	普通科	120	120	120	120	120	0.99	1.00	0.69	0.91	0.69	0.19	0.01	▲0.31	0.22	▲0.23
		普通科・アカ	80	80	80	80	80	1.07	1.09	1.18	0.95	0.88	0.07	0.02	0.09	▲0.23	▲0.07
	中新田	普通科・ピジ	40	40	40	40	40	1.32	1.07	1.21	1.15	0.88	0.18	▲0.			

(6) 第2期県立高等学校将来構想審議会への教育委員会の諮問文

教 企 第 2 4 号
平成22年8月10日

県立高等学校将来構想審議会会長 殿

宮城県教育委員会
教育長 小 林 伸 一

高校教育改革の成果等に関する検証について（諮問）

このことについて、県立高等学校将来構想審議会条例（平成20年宮城県条例第4号）
第1条第1項の規定により、別紙理由書を添えて諮問します。

(別紙)

諮問理由書

本県においては、これまで、平成12年度末に「県立高校将来構想」を策定し、①生徒の多様な個性や特性に対応した魅力ある高校づくりの推進、②生徒数の減少に対応した学級減・学校再編、③開かれた学校づくりの推進、④男女共学化の推進などを柱として各種の取組を進めてきました。また、平成22年度には、生徒が自らの進路希望や学ぶ意欲に基づき、より幅広い選択肢の中から学校を選択できるよう、すべての県立高校の通学区域を全県一学区としました。さらに、本年3月には、県立高校教育を取り巻く環境変化や今後の動向を見据え、平成23年度から平成32年度までの本県の高校教育改革の方向性及び高校の再編整備の方針を示す「新県立高校将来構想」を策定し、更なる高校教育改革を進めようとしているところです。

県立高校教育に関しては、これまでも行政評価制度や学校評価制度などを活用し、個別施策について逐次自己評価や見直しを行い、教育施策や学校運営の改善に取り組んできました。しかし、経済環境や生活環境が大きく変化していく時代にあっては、本県における高校教育の果たすべき役割を常に見極めながら、その改革・改善に向けた実効的な取組を着実に進めていく必要があります。

このため、県教育委員会では、県民ニーズがますます複雑化・多様化するこれからの時代において、自らの教育行政を真摯に省みた上で、必要な施策の改善に結びつけていくことが重要であるとの認識から、専門的知識を持った第三者による検証を経ながら、各種の高校教育改革における諸課題の抽出や今後の改善に向けた対応の方向性について、継続的に検討していくことにしました。

その一環として、現県立高校将来構想及び新県立高校将来構想の計画期間中（平成13～32年度）に実施され、又は実施が見込まれる施策のうち、「男女共学化」など本県高校教育の制度・枠組みを変更するものであって生徒及び保護者に与える影響が大きいものや、普通教育や専門教育の体制整備など社会の変化や時代の要請を踏まえて、その方向性を常に点検していく必要があるものについて、施策としての合理性や有効性を含めて成果や課題を明らかにするとともに、今後の対応の方向性について諮問するものです。

また、検証に当たっては、教育に係る各種施策が学校現場においてどのように展開され、具体的にどのような成果や課題が生じているのか、その実態を的確に把握することが重要であるため、こうした現状把握の手法の確立についても併せて調査審議をお願いするものです。

(7) 第3期県立高等学校将来構想審議会への教育委員会の諮問文

教 企 第 2 6 号

平成24年9月4日

県立高等学校将来構想審議会会長 殿

宮城県教育委員会

教育長 高橋 仁

高校教育改革の成果等に関する検証について（諮問）

このことについて、県立高等学校将来構想審議会条例（平成20年宮城県条例第4号）第1条第1項の規定により、別紙理由書を添えて諮問します。

諮問理由書

県教育委員会では、平成13年度から「県立高校将来構想」に基づき、魅力と活力ある高校づくりを目指して各種の取組を進めてきました。また、平成23年度からは「新県立高校将来構想」に基づき、これからの地域社会を支えていく意欲や創造性等に富んだ人づくりを目指して、高校教育改革の取組を進めています。

一方、近年、経済環境や生活環境、地域社会の在り様は大きく変化しており、そのような中で、高校教育改革に関する取組を着実に推進し、その実効性を確保していくためには、時代や環境の変化を的確にとらえながら、構想に基づく制度や施策の進捗状況を客観的かつ専門的な視点から検証し、必要に応じて、改善に向けて対応していくことが不可欠です。

こうしたことから、県教育委員会では、本県高校教育の制度・枠組みを変更するものであって生徒及び保護者に与える影響が大きいものや、社会の変化や時代の要請を踏まえてその方向性を点検していく必要があるものについて検証を進めることとし、これまでに県立高等学校将来構想審議会において「普通教育と専門教育の体制整備」、 「男女共学化」及び「全県一学区化」の3つの施策の検証に取り組んでいただきました。

このうち、「男女共学化」及び「全県一学区化」については、中間とりまとめとして報告いただいたところではありますが、更にデータの収集・分析を進めるとともに、今後の推移を継続して見ていく必要があるとされており、審議会において継続して検証作業を進めていただきたいと考えております。

さらに、学校の選択幅の拡大や、生徒一人一人の個性や能力を伸ばすために導入された中高一貫教育についても、新県立高校将来構想において、その成果を検証することとしております。連携型の中高一貫教育校については設置から10年目、併設型については3年目から8年目を迎えたこの時期に、社会の変化や時代の要請を踏まえて、中高一貫教育の特色を活かした教育活動が展開されているのかについて検証し、中高一貫教育のより一層の充実を図り、生徒の多様な個性や特性に応じた魅力ある高校づくりを推進していくことが必要となっています。

以上のことから、「男女共学化」、 「全県一学区化」及び「中高一貫教育」について、その成果と課題の検証と、課題解決に向けた今後の方向性について諮問するものです。

(8) 第2期県立高等学校将来構想審議会委員名簿

(任期：平成22年8月1日から平成24年7月31日まで)

(敬称略・順不同)

ふりがな 氏 名	所 属	備 考
あらい かつひろ 荒井 克弘	独立行政法人大学入試センター副所長	会長
しばやま ただし 柴山 直	国立大学法人東北大学大学院教育学研究科教授	副会長 高校教育改革検証部会 部会長
は た たかし 羽田 貴史	国立大学法人東北大学高等教育開発推進センター教授	高校教育改革検証部会 副部会長
ほんす まなみ 本図 愛実	国立大学法人宮城教育大学教職大学院准教授	
たかはし むつまる 高橋 睦磨	塩竈市教育委員会教育長	
くらみつ きょうぞう 倉光 恭三	宮城県仙台二華高等学校長	高校教育改革検証部会 委員
ほうざわ たいじ 朴澤 泰治	学校法人朴沢学園理事長	
さいとう ひとみ 斎藤ひとみ	宮城県PTA連合会副会長	
いとう ひとし 伊藤 均	元宮城県高等学校PTA連合会長	
あおぬま かずと 青沼 一民	仙台市教育委員会教育長	
おざわ じんじ 小澤 仁邇	前利府町教育委員会教育長	高校教育改革検証部会 委員
さいとう きみこ 齋藤 公子	宮城県宮城野高等学校長	高校教育改革検証部会 委員
しらはた よういち 白幡 洋一	公益財団法人みやぎ産業振興機構 参与兼プロジェクトマネージャー	高校教育改革検証部会 委員
ささきかよこ 佐々木加代子	デザインルームJIN主宰	高校教育改革検証部会 委員
ちば ちとせ 千葉 基	古川商工会議所副会頭	

(9) 第3期県立高等学校将来構想審議会委員名簿

(任期：平成24年8月1日から平成26年7月31日まで)

(敬称略・順不同)

ふりがな 氏名	所 属	備 考
あらい かつひろ 荒井 克弘	独立行政法人大学入試センター副所長	会長
しばやま ただし 柴山 直	東北大学大学院教育学研究科教授	副会長 高校教育改革検証部会 部会長
は た たかし 羽田 貴史	東北大学高度教養教育・学生支援機構副機構長	高校教育改革検証部会 副部会長
ほんず まなみ 本図 愛実	宮城教育大学教職大学院教授	
ださい あきら 太宰 明	前多賀城市立多賀城中学校長 (宮城県中学校長会)	高校教育改革検証部会 委員 H24.8.1~H25.7.31
ありみ まさとし 有見 正敏	前塩竈市立第一中学校長 (宮城県中学校長会)	高校教育改革検証部会 委員 H25.8.1~H26.7.31
さいとう きみこ 齋藤 公子	宮城県宮城野高等学校長 (宮城県高等学校長協会)	高校教育改革検証部会 委員
ほうざわ たいじ 朴澤 泰治	学校法人朴沢学園理事長 (宮城県私立中学高等学校連合会)	
さいとう 齋藤ひとみ	前宮城県PTA連合会副会長	H24.8.1~H25.7.31
わたなべち えみ 渡邊千恵美	宮城県PTA連合会副会長	H25.8.1~H26.7.31
きむら つよし 木村 強	前宮城県高等学校PTA連合会副会長	H24.8.1~H25.7.31
はやさか よう 早坂 陽	宮城県高等学校PTA連合会常任理事	H25.8.1~H26.7.31
あおぬま かずと 青沼 一民	前仙台市教育委員会教育長	H24.8.1~H25.7.31
うえだ まさたか 上田 昌孝	仙台市教育委員会教育長	H25.8.1~H26.7.31

ふりがな 氏 名	所 属	備 考
たけだ まさはる 武田 政春	白石市教育委員会教育長	
しらはた よういち 白幡 洋一	公益財団法人みやぎ産業振興機構 参与兼プロジェクトマネージャー	高校教育改革検証部会 委員
ささき かよこ 佐々木加代子	デザインルームJIN主宰	高校教育改革検証部会 委員
ちば ちとせ 千葉 基	社団法人宮城県経営者協会大崎支部長	
たてだ 舘田あゆみ	東北大学大学院工学研究科情報知能システムセンター 特任教授	高校教育改革検証部会 委員

(10)「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する検証の経過（第2期）

年月日	経 過	審議内容等（主なもの）
H23.12.7	第6回 高校教育改革検証部会	<ul style="list-style-type: none"> ○「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する施策の概要 ○「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する検証の実施
H24.2.2	第7回 高校教育改革検証部会	<ul style="list-style-type: none"> ○会議の公開について ○「男女共学化」及び「全県一学区化」の現状把握 ○「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する検証方法
H24.2.27	第8回 高校教育改革検証部会	<ul style="list-style-type: none"> ○「男女共学化」及び「全県一学区化」の現状把握 ○「男女共学化」及び「全県一学区化」の評価指標 ○「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する検証経過のとりまとめ
H24.3.28	第4回 県立高等学校将来構想審議会	<ul style="list-style-type: none"> ○「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する施策の概要 ○高校教育改革検証部会における検証経過の報告
H24.5.30	第9回 高校教育改革検証部会	<ul style="list-style-type: none"> ○高校教育改革検証部会における検証経過の中間とりまとめ（案）の検討
H24.7.9	第5回 県立高等学校将来構想審議会	<ul style="list-style-type: none"> ○高校教育改革検証部会報告 ○「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する検証経過の中間とりまとめ（案）の検討
H24.7.27	「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する検証経過の中間とりまとめ（報告）	<ul style="list-style-type: none"> ○「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する検証経過の中間とりまとめ

(11)「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する検証の経過（第3期）

年月日	経 過	審議内容等（主なもの）
H24. 9. 4	第1回 県立高等学校将来構想審議会	○中間とりまとめの引継・経過報告 ○検証の作業イメージ・視点 ○検証スケジュール
H24.11.7	第1回 高校教育改革検証部会	○検証の進め方の検討 ○今後利用する検証データの確認 ○現地調査・中学校アンケートの検討
H25. 1.22	第2回 高校教育改革検証部会	○「男女共学化」及び「全県一学区化」の現状把握 （H24入試データ等分析） ○現地調査対象校の整理
H25. 3.28	第3回 高校教育改革検証部会	○「男女共学化」及び「全県一学区化」の現状把握 （中学校アンケート結果等分析）
H25. 6.10	第4回 高校教育改革検証部会	○「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する検証の 高校教育改革検証部会審議経過報告の検討
H25. 8. 8	第2回 県立高等学校将来構想審議会	○高校教育改革検証部会審議経過報告
H25.10.24	第5回 高校教育改革検証部会	○「男女共学化」及び「全県一学区化」の現状把握 （H25入試データ等分析）
H25.12.19	第3回 県立高等学校将来構想審議会	※「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する審議は なし
H26. 2.20	第6回 高校教育改革検証部会	○「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する高校教 育改革検証部会報告（中間案）の検討
H26. 3.27	第4回 県立高等学校将来構想審議会	○「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する高校教 育改革検証部会報告（中間案）
H26. 6.12	第7回 高校教育改革検証部会	○「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する高校教 育改革検証部会報告（最終案）の検討
H26. 7.23	第5回 県立高等学校将来構想審議会	○「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する高校教 育改革検証部会報告 ○「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する答申（案） の検討
H26.7.●	「男女共学化」及び「全県一学 区化」に関する答申	○「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する答申の 提出

